令和７年度 教育改善報告書

― 効果的かつ効率的な教育活動を目指した点検評価 ―

令和８年６月

長野工業高等専門学校
教育改善委員会

令和７年度 教育改善報告書目次

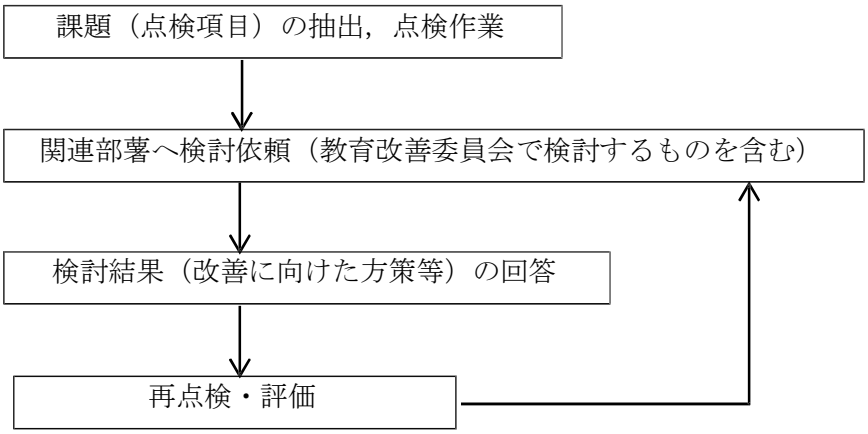
１.令和７年度　教育改善委員会の活動内容 1
1-1 目　的 1
1-2 点検業務の流れ（Check） 1
1-3 課題の分類，改善提案　(Action)－＞（Next Plan） 1
1-4 今年度の主な活動内容 2
2025（令和 7）年度教育改善委員会業務分担 4
2025（令和 7）年度教育改善員会カレンダー 5
２.各委員会の重点項目の点検システム 6
2-1 教務委員会 9
2-2 学生支援委員会 14
2-3 寮務委員会 20
2-4 専攻科運営委員会 24
2-6 広報企画室 30
2-7 技術教育センター 35
2-8 情報教育センター 38
2-9 国際交流センター 42
2-10 グローバルエンジニア育成センター 46
2-11 ダイバーシティ推進室 49
2-12 進路支援室 54
2-13 入試広報室 57
2-14 教育改善委員会 61
３．令和７年度における各種点検報告 65
3-1 学習・教育目標の達成度に関する調査報告書の点検 65
3-1-1 本科 5 年のアンケート調査 65
3-1-2 専攻科のアンケート調査 66
3-2 学生との意見交換会に関する点検 67
3-3 令和７年度参与会で出された改善点の整理 70
3-4 実施済研修会の効果の点検およびその改善 72
４．令和７年度 FD 研修会実施報告 75
4-1 第 1 回 FD　教育エビデンスと長野高専の自己点検規則 75
4-2 第 2 回 FD　CBT の利活用と学業成績の向上策について 75
4-3 第 3 回 FD　いじめ対策研修 83
4-4 第 4 回 FD　社会実装教育の可能性 85
５．令和８年度の活動に向けた各種委員会等への提言 89
付録 91
付録 1　令和７年度学習・教育目標の学生の自己達成度に関する調査報告書 91
付録 2　令和７年度専攻科学習・教育目標の達成度評価の確認報告 94
付録 3　令和７年度学生との意見交換会　議事録 97
付録 4　令和７年度学生の満足度に関するアンケート調査実施結果 100
付録 5　第 22 回長野工業高等専門学校参与会概要 115
付録 6　令和７年度教育改善委員会議事概要 124

1．令和７年度　教育改善委員会の活動内容

1-1 目　的

本校の教育システムを点検評価し，教育技術を向上させるための取り組み（FD）を推進し，本校の教育改善に努める．特に PDCA サイクルの A（Action）を重視し，教育改善として次のサイクルにつながる活動を推進する．

1-2 点検業務の流れ（Check）



1-3 課題の分類，改善提案　　(Action)－＞（Next Plan)

(1)　各種委員会等の活動状況を点検した後に整理された課題

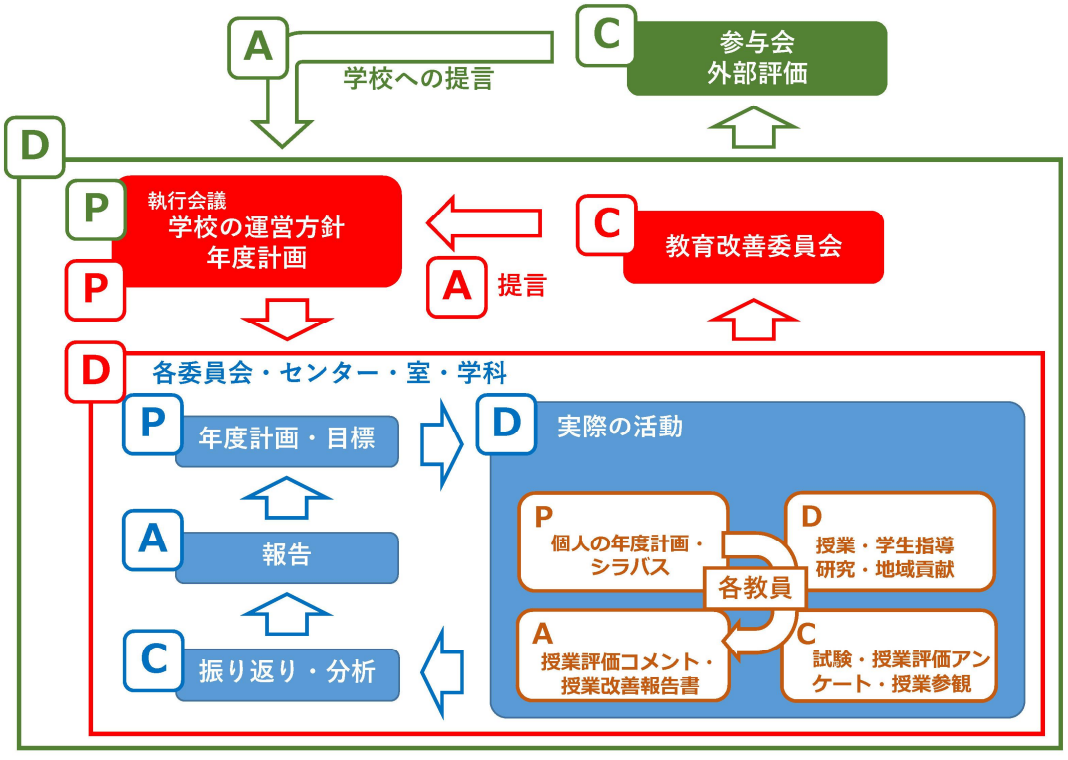
(2)　FD 研修会での結果を分析した後に整理された課題

(3)　重点項目として教育改善委員会で取り上げた課題

(4)　アンケート調査の分析から得られた課題

(5)　外部評価で指摘された課題

(6)　教員，学生，保護者等から指摘された課題



1-4 今年度の主な活動内容

(1) 2025（令和 7）年度各種委員会の活動状況の点検

【各種委員会は，教務，学生支援，寮務，専攻科運営，図書館，広報企画室，技術教育センター，情報教育センター，国際交流センター，グローバルエンジニア教育センター，男女共同参画推進室，進路支援室，入試広報室，教育改善の 14 委員会とする.】

・2025（令和 7）年度教育改善委員会より提言した課題の検討・改善状況を点検する.
（令和 6 年度教育改善報告書を参照）

・2025 年度当初に提示された計画に基づいて行った活動内容を点検する.

・2026 年度の活動に向けた課題を整理し提言する.

(2) 授業改善システムの実施と評価・点検

・授業改善用チェック・提言シートに基づいて実施する.

・当システムの評価・点検を行う.

(3) 学習・教育目標の達成度（本科 5 年）に関する調査の点検および
自己評価シート（学年別 学習・教育目標の達成度）に関する改善方法の点検

・平成 26 年度本科 1 年～5 年生は新システムを導入したが活用方法が明確でなかったため，平成 30 年度から教育システムの改善につなげること目的として，新たな自己評価シートを作成した.

(4) 学生との意見交換会に関する点検

・2025 年度開催の意見交換会について点検および評価を行う.

(5) 2025 年度参与会で出された意見に基づいた改善点の整理

・2025 年度の参与会（2 月開催）の点検と提言

(6) 卒業生・企業向けアンケート調査結果からの改善点を検討・評価し各部署へ改善点を依頼

教育改善に向けた作業計画 （申し合わせ事項） 【( ) は前回の年度】

1 年目（令和 2（H27） 年度）: 改善内容の検討と各部署への依頼

2 年目（令和 3（H28） 年度）: 改善内容の実施

3 年目（令和 4（H29） 年度）: 改善内容の実施

4 年目（令和 5（H30） 年度）: 改善内容を含めた教育システムの評価

5 年目（令和 6（R1） 年度）: 卒業生・企業向けアンケート調査の実施

6 年目（令和 7（R2） 年度）: 改善内容の検討と各部署への依頼

(7) 実施済 FD 研修会の効果の点検およびその改善

・アンケートをタイムリーに実施し，FD 研修会の効果を確認する.

・FD の効果の計り方とし、報告書をメールで全教員に配布し実践を呼びかける。年度末に FD 総括アンケートを実施し効果をはかる
(3 月上旬)

(8) FD 研修会の企画・開催および報告書の作成

第 1 回 FD：2025 年 5 月 7 日 教育改善委員会
教育エビデンスと長野高専の自己点検規則 総務主事 楡井 雅巳 教授

第 2 回 FD：2025 年 9 月 10 日 教育改善委員会
CBT の利活用と学業成績の向上策について 教務主事 渡辺誠一 教授

第 3 回 FD：2025 年 11 月 12 日 教育改善委員会
いじめ対策に係る講習会 青木三枝子 スクールソーシャルワーカー

第 4 回 FD：年 2026 年 1 月 30 日 イノベーションサポートセンター・教育改善委員会
英社会実装教育の可能性 ― いくつかの実践例から 東京高専 冨沢 哲雄 氏・津田 尚明 氏・水戸 慎一郎 氏・山下 晃弘 氏

(9) エビデンス収集・保管と方法の検討

- 教育改善委員会（チーフ：委員長）が担当する.

(10) 試験問題レベルの保証確認（対象は 4 年以上の科目） → 結果は学生課で保管

- 年 2 回実施（前期 10 月，後期 3 月）
- 各学科の保証確認作業は各学科の教育改善委員会委員が行う.

(11) 試験問題類似度点検

- 前年度問題と比較して、類似度が 70%以上であれば、教科担当に注意を伝える。
- 科目は全対象教科を３年で１回点検できるように選択し、点検結果を教育改善委員会に報告する。
- エビデンスのそろった 2〜3 月に実施し、グループウェアに提出する。
- 年 2 回実施（前期 10 月，後期 3 月）

(12) 学生満足度のアンケート

- 2 月上旬に課長補佐から学生にメールで依頼し実施、試験後特別編成授業などで回答数が上がるように配慮する

(13) 各部署への検討依頼，回答の集約

(14) メール目安箱への対応

(15) 2025 年度版教育改善報告書の編集・発行

教育改善委員会開催

第 1 回　5/28：　活動方針・業務分担，科各種点検・改善システム，エビデンス収集
　　前年度報告書

第 2 回　7/30：　FD 研修計画，エビデンス，各委員会の重点項目，授業改善システムの実施

第 3 回　10/1：　試験レベル保証の確認，授業改善システムの実施，FD 研修計画，業生・企業アンケート

第 4 回　11/26：授業改善システム状況，エビデンス状況，FD 研修，生・企業アンケート結果

第 5 回　1/21：　エビデンス・試験問題チェックレベル，教育改善報告書作成依頼，FD 研修

第 6 回　3/23：　エビデンス・試験問題チェックレベル，自己点検評価表点検項目チェック
　　本年度の活動について，教育改善報告書の作業状況，学生満足度調査

その他　電子メール：FD 研修会の実施について
　　：エビデンス収集作業依頼
　　：試験問題レベルの保証（作業依頼）＊対象は 4 年以上の科目

2025（令和 7）年度教育改善委員会業務分担

	担当項目	松下	百瀬	萩原	北山	中島	古本	大西	金田	事務	備　考
(1)	本年度各種委員会の活動状況の点検	◎教育改善	教務・教育支援	男女共同	専攻科	グローバル・広報	図書	学生支援進路支援	寮	○	6 月上旬
(2)	授業改善システムの実施と評価･点検（作業含む）	◎	○（電気）	○（情報）	○（機械）	○（制御）	○（環境）	○（一般）	○（一般）		7 月依頼 9 月上旬
(3)	学習･教育目標の達成度に関する調査の点検 自己評価シートに関する改善方法の点検	○		◎			○				9 月上旬
(4)	学生との意見交換会の点検	○		○					◎		6 月上旬
(5)	参与会で出された改善点の整理	○			◎						6 月上旬
(6)	学生の満足度調査結果から改善内容を含めた教育システムの評価	○						◎			2 月上旬
(7)	実施した研修会の効果の点検と改善	○	◎			◎					7 月下旬
(8)	FD 研修会の企画･実施	○	第 1 回 企画･報告	第 3 回 企画･報告	第 2 回 企画･報告	第 2 回 企画･報告	第 1 回 企画･報告	第 3 回 企画･報告	第 3 回 企画･報告	○	随時
(9)	エビデンス収集・保管の改善　（実務作業含む）	◎	○	○	○	○	○	○	○		各期末
(10)	試験問題レベルの保証確認	○	○（電気）	○（情報）	○（機械）	○（制御）	○（環境）	○（一般）	○（一般）	◎	前期 11 月 後期 3 月
(11)	各部署への検討依頼，回答の集約	◎								○	随時
(12)	メール目安箱への対応	◎									随時
(13)	教育改善報告書の編集･発行（PDF 形式）	○					◎			○	3 月下旬

2025（令和 7）年度教育改善員会カレンダー

教育改善員会カレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
(1)各種委員会の活動状況の点検		計画依頼 →				フォロー					報告依頼 →	チェック提言 →	
(2)授業改善システムの実施と評価・点検					前年報告配布 →	依頼 回収							
(3)学習・教育目標の達成度（本科5年・専攻科）に関する調査								教務委員会・専攻科運営員会から報告を入手			本科・専攻科 →		
(4)学生との意見交換会に関する点検			本科 → 前年度分					学生支援委員会・専攻科運営員会から報告を入手				本科・専攻科 →	
(5)参与会で出された意見に基づいた改善点の整理											実施報告 →		
(6)学生の満足度に関するアンケート調査										本科・専攻科 →			
(7)実施した研修会の効果と点検								研修実施報告 → 配信				効果確認 →	
(8)FD 研修会の企画・開催および報告書の作成				実施報告 →		実施報告 →		実施報告 →		実施報告 →			
(9)エビデンス収集・保管						前期 →					後期 →	再試 →	
(10)試験問題レベルの保証・問題類似性の確認							前期 →					後期 →	
(11) 試験問題類似度点検												実施報告 →	
(12)学生満足度のアンケート											実施報告 →		

２.各委員会の重点項目の点検システム

教育改善委員会

１．概要

各委員会は，重点項目を定め，それに対する活動等計画を立てて，委員会活動を行っている。その活動が実際に適切に行われているか教育改善委員会が点検し，改善点等を提言している。その PDCA サイクルを示す。

２．各委員会の重点項目の点検システム

２－１　各委員会の重点項目と活動等計画の策定　(Plan)

各委員会は，年度当初にその年度に行う重点項目とその活動等計画を定める。

２－２　各委員会の活動 (Do)

各委員会は，活動等計画に基づき実際の活動を実施し，活動状況の整理を行う。

２－３　教育改善委員会の評価・分析　(Check)，提言(Act)

教育改善委員会は，活動計画に基づく実際の活動状況を点検し，次年度への提言を行う。

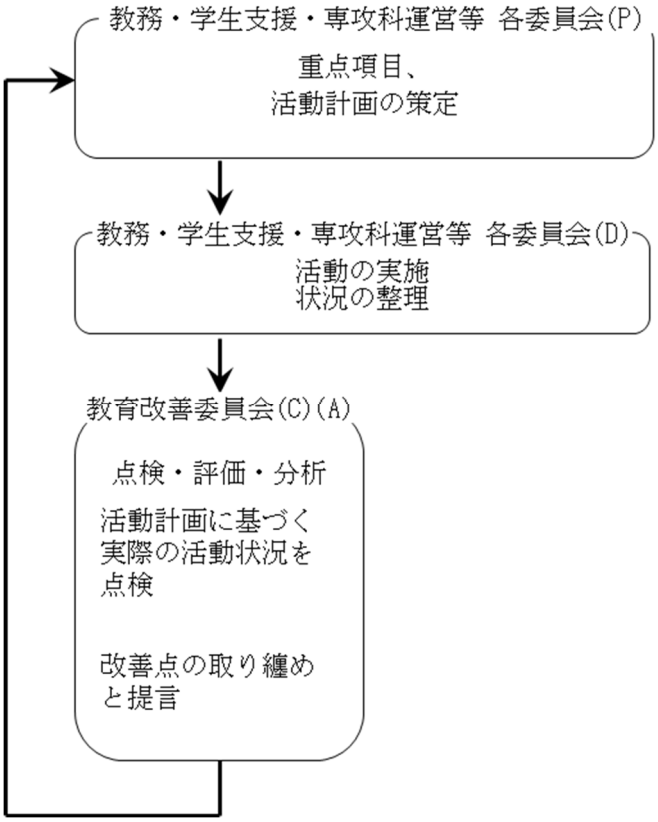


図１　各委員会の点検システム

【資料１】

令和７年度　各委員会の重点項目

委員会	担当	重　点　項　目	機関別認証評価項目との対応	備考
教務委員会	教務主事	１．授業改善と学力向上 ２．工学科カリキュラムの整備 ３．教員間の連携と協働教育の推進		
学生支援委員会	学生主事	１．問題行動の未然防止 ２．学生会活動の支援、地域住民との信頼関係の構築		
寮務委員会	寮務主事	１．寮運営に学生の意見を反映させるシステムづくり ２．自立性・協調性をもったコミュニティ作り ３．日常運用システムの構築・見直し、および寮施設面の充実		
専攻科運営委員会	専攻科長	１．広報活動の充実 ２．学士の取得支援 ３．学修総まとめ科目担当教員の増加		
図書館	図書館長	１.雑誌の購読調査と効率化		
広報企画室	総務主事	１．小中学生へのPR ２．地域、地域企業へのPR ３．学生、保護者、卒業生への情報発信		
技術教育センター	センター長	１．安全性の向上 ２．授業支援 ３．課外活動支援 ４．研究支援		
情報教育センター	センター長	**１．情報端末機器の更新に関する検討** ２．サポート切れシステムへの対応		
国際交流センター	センター長	１.持続可能な国際交流にむけた活動の拡充 ２.協定校との海外研修プログラムを学生に提供 ３.海外派遣のための英語力向上へのとりくみ（グローバルエンジニア育成センターと協働）		
グローバルエンジニア育成センター	センター長	学生の学習意識向上と自主的学習のサポート		
ダイバーシティ推進室	室長	１．教育活動全般を通じた男女共同参画の推進 ２．男女共同参画の意識啓発 ３．女性教職員に対する労働環境支援		
進路支援室	室長	１．各種講演会の実施 ２．進路担当教員とキャリアコーディネーターとが連携した進路支援 ３．進路決定情報の収集および分析		
入試広報室*1	室長	１．オープンキャンパス・各種行事 ２．学校説明会 ３．入試広報手段の改善検討		

教育改善委員会	委員長	1．各種委員会の活動状況の点検 2．授業改善システムの実施と評価・点検 3．FD 研修会の企画・開催と評価 4．エビデンス収集・保管		

＊1：R6 年度校務分掌の変更により、「入試広報室」を追加した.

【資料２】

2-1 教務委員会

令和７年度　各委員会の重点項目への活動計画

委　員　会	担当	重　点　項　目
教務委員会	教務主事	１．授業改善と学力向上 ２．工学科カリキュラムの整備 ３．教員間の連携と協働教育の推進

１．授業改善と学力向上
・校内学習塾等を活用した学力向上への取り組み
・授業公開やアンケート，FD 研修会等の活性化
・ポートフォリオ教育の推進と分野横断的能力の育成

２．工学科カリキュラムの整備
・工学科新設科目の詳細計画と実施
・工学科カリキュラムの確認，MCC の保証
・Web シラバスの整備， MCC の反映

３．教員間の連携と協働教育の推進
・学科・科目間連携，専攻科との連携の強化
・他高専，他大学との連携推進

【資料３】

令和７年度　教務委員会の重点項目への取組結果報告

委　員　会	担当	重　点　項　目
教務委員会	教務主事	１．授業改善と学力向上 ２．工学科カリキュラムの整備 ３．教員間の連携と協働教育の推進

１．授業改善と学力向上

・校内学習塾等を活用した学力向上への取り組み

1 年生は数学と英語，2 年生は数学と物理について実施した。

受講者数は 3 タームそれぞれ 74 名，70 名，74 名で，40～50 名の TA がサポートできた。

・授業公開やアンケート，FD 研修会等の活性化

教育改善を目的とする授業公開（2 回）および授業評価アンケート（2 回）を実施した。

授業評価アンケートは昨年度と同様に全科目で実施したが，回答率が 50%程度となった。

9 月に CBT の利活用と授業改善に関する FD 研修会を実施することができた。また，次年度開催に向けて「学習指導上の工夫に関するアンケート」を実施することができた。

・ポートフォリオ教育の推進と分野横断的能力の育成

昨年度までは One Note を用いてポートフォリオを運用したが、成果物を集約する習慣が一部の学生に限られていた。本年度は改善に向けた議論を進めることができなかったため，具体的に実施できなかった。ディジタルデータではなく，ファイリングによる保管について検討したい。また，学生自らが単位修得状況を把握できる仕組みについて検討したい。

分野横断的能力セルフチェックを年度末に全学年で実施し，学年が変わることによる能力の変化の傾向が明らかになった。

２．工学科カリキュラムの整備

・工学科新設科目の詳細計画と実施

令和 7 年度からの実施科目「エンジニアリングデザイン実践」，副専攻科目，長野学について運用に協力した。

・工学科カリキュラムの確認，MCC の保証

4 年次に開講する MCC 対応の選択科目について，単位取得率を向上させるため，5 年次にも履修できるように教育課程を変更した。

・Web シラバスの整備，MCC の反映

MCC 対応科目がわかる Web シラバスを作成した。

国立高専教育国際標準認定制度（KIS）への対応として，教育目標の記載方法を変更した。

３．教員間の連携と協働教育の推進

・学科・科目間連携，専攻科との連携の強化

令和 8 年度から 1 年後期から物理を開設するにあたり，科目間連携会議を実施して，情報共有を行った。

令和 4 年度入学生が専攻科入学時に適用される科目表案の作成に教務主事が協力した。

本科・専攻科研究発表会について，実行委員会を専攻科長，系長，専攻長，5 学年担任で組織し，教務委員がその取りまとめを担う形式で実施した。

・他高専，他大学との連携推進

高専間提供科目および他大学からのオンライン科目受講者募集について学生に周知し，受講科目について確認を行った。

本校で開講する高専間提供科目について，受講および成績評価の確認を行った。

【資料４】

令和７年度　教務委員会の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の４段階で行う。

（１）取組結果報告に基づく評価

重　点　項　目	活　動　等　計　画	評価	根拠・確認 事項
１．授業改善と学力向上	校内学習塾等を活用した学力向上への取り組み	◎	第３回教務委員会 No.５ 第４回教務委員会 No.３ 第５回教務委員会 No.２ 第７回教務委員会 No.８ 第８回教務委員会 No.５ 第９回教務委員会 No.５ 第 10 回教務委員会 No.５ 第 12 回教務委員会 No.１ 「4.学力向上対策・校内学習塾」
	授業公開やアンケート，FD 研修会等の活性化	○	【授業公開】 令和 6 年度第 12 回教務委員会 No.11 第１回教務委員会 No.５ 第２回教務委員会 No.６ 第８回教務委員会 No.14 第９回教務委員会 No.14 第 12 回教務委員会 No.１内「8.授業公開」 【授業評価アンケート】 第２回教務委員会 No.７ 第３回教務委員会 No.４ 第４回教務委員会 No.２ 第５回教務委員会 No.３ 第９回教務委員会 No.７ 第 10 回教務委員会 No.９ 第 12 回教務委員会 No.１ 「11.授業アンケート」 第 12 回教務委員会議事概要（報告事項 No.16） 【FD 研修会】 第４回教務委員会 No.８ 第 12 回教務委員会 No.１ 「10.CBT」「19.FD 研修会」 【工夫アンケート】 第 12 回教務委員会 No.15 第 12 回教務委員会 No.１ 「32.その他」
	ポートフォリオ教育の推進と分野横断的能力の育成	△	【ポートフォリオ】 第 12 回教務委員会 No.１ 「24.ポートフォリオ活用検討」 【分野横断的能力】 第 10 回教務委員会 No.16

			第 12 回教務委員会 No.1 令和 8 年度第 1 回教務委員会 No.12
2．工学科カリキュラムの整備	工学科新設科目の詳細計画と実施	○	第 1 回教務委員会 No.4「インターンシップ」 第 6 回教務委員会議事概要（協議題 No.3「エンジニアリングデザイン入門」） 第 6 回教務委員会 No.5「ものづくり基礎工学・基礎実験」 第 7 回教務委員会 No.6「ウィンタースポーツ」 第 11 回教務委員会 No.3「選択科目」
	工学科カリキュラムの確認，MCC の保証	◎	第 8 回教務委員会 No.1 第 9 回教務委員会 No.1 第 12 回教務委員会 No.1「1.教育課程」「3.工学科の実施科目」
	Web シラバスの整備， MCC の反映	◎	第 9 回教務委員会 No.3 第 11 回教務委員会議事概要（報告事項 No.17） 第 13 回教員会議議事概要（その他 No.2） 2026 年度シラバス作成の手引（0311 版）発行 シラバス点検に関する申し合わせ制定（令和 8 年 3 月 26 日最終改正）
3．教員間の連携と協働教育の推進	学科・科目間連携，専攻科との連携の強化	○	【学科・科目間連携】 第 11 回教務委員会 No.16 第 12 回教務委員会 No.1「21.学科・科目間連携」 【専攻科との連携】 第 9 回教務委員会 No.3 第 11 回専攻科運営委員会 No.3「科目表案」 第 13 回専攻科運営委員会 No.3「研究発表会」 【研究発表会】 第 7 回教務委員会 No.5 第 9 回教務委員会 No.6 第 11 回教務委員会 No.12
	他高専，他大学との連携推進	○	【高専間提供科目】 第 1 回教務委員会 No.11 第 4 回教務委員会 No.5 第 12 回教務委員会 No.5 【他大学との連携推進】 第 12 回教務委員会 No.1 内「29.長岡技大 AC」

（2）次年度への提言

授業評価アンケートについては，回答の精度を確保するためにも，回答率向上のための方策を講じていただきたい。現在，学校全体で学生に対し数多くのアンケート回答を求めているが，授業や学生生活の向上という目的があるにせよ，現状が真に「学生ファースト」と言えるかには疑問が残る。学生の負担軽減のため，アンケートの対象科目を絞る，あるいは通年科目は前期・後期のいずれかに限定するなどの配慮することなどの検討が望まれる。

ポートフォリオについては，導入の意義そのものから再検討する必要がある。学生自身が作成のメリット，あるいは未作成による学生生活への不利益（またはペナルティ）を実感できなければ，定着は困難である。加えて，OneNote の操作性の課題が，定着へのハードルをさらに上げている。「即座に入力でき，自動的に整理される」といった高い利便性が確保できないのであれば，いっそ紙ベースの運用に切り替える方が現実的と言える。

本科・専攻科研究発表会の運用ならびに聴講に関しては，多くの意見が寄せられている。すでに卒研室配属が決まっている 4 年生や，まだ研究内容の理解が難しい 1・2 年生に対し，それぞれどのような聴講姿勢を求めるのか，改めて検討する必要がある。併せて，オンラインによるサテライト会場の設置が運営側のハードルを上げている現状についても，見直しが求められる。

選択科目の増加により，進級・卒業の判定が著しく複雑化しており，担当部署や担任，さらには学生自身の負担が増大している。迅速かつ確実に，可能であれば早期から状況を確認でき，一覧性に優れた表作成機能も備えた判定システムの構築を強く要望する。

2-2 学生支援委員会

令和７年度　各委員会の重点項目への活動計画

委　員　会	担当	重　点　項　目
学生支援委員会	学生主事	１．問題行動の未然防止 ２．学生会活動の支援、 地域住民との信頼関係の構築

１．問題行動の未然防止
- ・交通事故防止に向けた取り組み
- ・各種講習会を通じた問題行動防止への意識付け

２．学生会活動の支援、地域住民との信頼関係の構築
- ・課外活動の支援（活動のあり方や指導体制の見直しを含む）
- ・工嶺祭の支援
- ・ボランティア活動や構外美化活動等を通じた地域住民との信頼関係の構築
- ・交通マナー向上や地域貢献による地域住民との信頼関係の構築

令和７年度　学生支援委員会の重点項目に関する取組結果報告

委　員　会	担当	重　点　項　目
学生支援委員会	学生主事	１．問題行動の未然防止 ２．学生会活動の支援、 地域住民との信頼関係の構築

１．問題行動の未然防止

(1) 各種講習会を表 1 に示すとおり実施した。3～5 年生向けの「交通安全講習会」および 3 年生向けの「生と性の講習会」は、外部から講師として警察官および医師の方をそれぞれお招きし実施した。いずれも実務に携わる専門家ならでは視点から講話をしていただき充実した内容であった。また、これらはライブ配信あるいは対面形式により実施した。また、今年度は高等専門学校機関別認証評価における重要項目である SNS 利用に関する講習会を全学年に対して実施することができた。一方で、講習会の企画にあたり対象となる全クラスの日程を調整することは難しい場合が多く（補講や留学生向け科目の日程なども含む)、動画教材の視聴によるクラス単位で実施した。

表１　令和７年度　各種講習会実施概要

講習会の内容	対象学年・実施日	備考
SNS 講習会	1年：4月の特別研修の時間 2年：4月の特編授業または特活の時間 3～5 年：6 月～7 月の特編授業または特活の時間	クラス単位の動画視聴として実施 クラス単位の動画視聴として実施 クラス単位の動画視聴として実施
交通安全講習会	1年：4月の特別研修の時間 2年：4月の特編授業または特活の時間 3～5 年：7 月 9 日(水)	クラス単位の動画視聴として実施 クラス単位の動画視聴として実施 警察官の方の講話をライブ配信
消費者被害未然防止講習会	2年：4月の特編授業または特活の時間	クラス単位の動画視聴として実施
の薬物乱用防止講習会	1年：11 月の特活の時間等	クラス単位の動画視聴として実施
生と性の講習会	3年：11 月 5 日(水)	合同特活として実施

(2) 定例の交通安全指導を 5 回（5, 6, 7, 10, 11 月に 1 回ずつ)、春と秋の交通安全週間に合わせて一斉通学指導を 2 回実施した。特に、第一体育館西側丁字路における一時停止と安全確認の励行と、デイリーヤマザキ長野徳間店から高専間の歩道での他の交通に配慮した安全通行について重点的に指導を行った。前者については、近年も高専生の自転車が自動車と衝突する事故が発生している危険箇所である。後者の歩道については、自転車の通行は不可で降車して通行しなければならないが、乗車のまま通行する学生も多い。本校学生の通学時の交通マナー（特に自転車の運転）について、例年、近隣住民から多くの苦情が寄せられる中、このような現状を課題として認識している。一方で、学生会が主体となり、通学時間に学校周辺の危険箇所に立ち交通マナー向上の呼びかけを行う取組みが、今年度は 2 回実施された。学校側からの指導強化もさることながら、上記の例のように学生自身が問題意識を持ち主体的に課題を解決するための取組みを支援することがより効果的であると考えられる。

(3) (2)の定例の交通安全指導に合わせて喫煙および車両指導巡視を行なった。喫煙に関する指導事案は無かった。車両指導巡視においては、未登録の自転車の構内への乗入れや、寮生の車両の通学生用駐輪場への駐輪など、違反事案が月平均で 15 件程度あった。中には、5 回のうち 3 回で違反車両として指導を受けた者もいた。また、7 月と 11 月の指導の際、違反車両を固定するワイヤーロックが行方不明になる事案が発生した。それらについては、当日あるいは後日の清掃デーの際に駐輪場近くでカードだけ発見された。

(4)自転車の持ち帰りの呼びかけを行った。自転車を持ち帰ることが困難な場合等も考えられるため、併せて処分の方法も周知した。自転車を処分するには、防犯登録を抹消する必要があるが、自転車販売店の多くは手数料を支払えば防犯登録の抹消手続きと車両の引き取りに応じてくれる。

(5) 学生の関わる交通事故が 8 件（5 月：1 件、8 月：2 件、9 月：2 件、10 月：1 件、11 月：1 件、12 月：1 件）発生した。このうち 5 件が自転車運転中の事故であり、令和 6 年度の 9 件よりは減

少した（令和 5 年度は 6 件)。今年度から、本校では全ての自転車利用者についてヘルメット着用を義務化した。学生のヘルメット着用率は低くはないが、引き続き着用の徹底を呼び掛けることが必要であり、今年度は交通安全指導の際にヘルメット着用を呼び掛けるカードを増やすなどした。

(6) 今年度の学生の問題行動にかかる処分の状況は表 2 のとおりであった。多くが SNS 利用における問題行為であり、SNS 利用に関する指導について再考する必要がある。

表 2　学生の問題行動にかかる処分の概要

処分	件数（かっこ内は R6 の件数）	内容
停学	5（1）	SNS 上での他の学生に対する脅迫、 SNS 上で他人の姿が写った画像を無断公開、 SNS 上で猥褻動画を要求、 試験の不正行為、 事実と異なる勤務実績に基づく TA 給与不正請求
訓告	0（1）	
主事説諭	2（1）	試験の不正行為未遂、 SNS 上での名誉棄損未遂

２．学生会活動の支援、地域住民との信頼関係の構築

Ⅰ　学生会の支援

(1) 学友誌「翠嶺」について、予定通り終業式前に配布することができた。しかし、紙のインフレーションの影響で予算を大幅にオーバーしてしまった。来年度はそのあたりも考慮するようにしたい。

(2) クラスマッチはバスケットボール、卓球、ドッジビー、硬式テニス、T ボール、バドミントン、ボッチャ、借り人競争、e スポーツ、大縄 8 の字跳び、玉入れを実施した。昨年度に引き続き、多くの競技を実施し、学生たちも競技や応援に一生懸命取り組んでくれたので、非常に盛り上がった。

(3) 学生総会は昨年度と同様にオンラインで行った。今年度は総会時に答えられなかった質問をまとめた資料を全校へ公開することができた。来年度は事前に質問を募集するなどして空いている時間を減らし、なるべく総会時に回答できるようにしたい。

(4) 学生会選挙は昨年度と異なり、紙での投票を行った。有権者 999 人に対して、有効投票 809 票であった。投票率は 81%となり、昨年度の 63.1%から大幅に向上した。今後も紙を用いての投票を行っていきたい。

(5) 市立長野高校生徒会と連携して挨拶運動及び交通安全の呼びかけを月に 1 度のペースで実施した。朝 8 時 00 分～8 時 30 分まで通学量の多い場所に立ち、挨拶をしながらイヤホン着用や自転車マナーに　関する声掛けを行った。また、交通安全啓発だけでなく、お互いの文化祭に参加するなど交流を深めた。

　また、来年度より交流のさらなる活発化のため部活動等を通した共同活動を行っていく予定。

(6) 令和 4 年度より学生会で導入した電子決済「Shachihata Cloud」を活用し、企画書等の文書の確認、承認および印鑑の捺印をオンライン上で行った。大きなトラブルもなく快適に使用できているので継続していきたい。

(7) 一昨年度より再開した後援会との意見交換会を 12 月 6 日(土)に実施した。学生会と部長会から合わせて 6 名が参加し、学校の状況や寮での生活についていろいろと話をしてもらった。後援会側は会長、副会長を含め、各支部の方にご参加いただいた。後援会側からも非常に有意義な会だったと言っていただけたため、今後も続け、学校生活のさらなる向上を目指していきたい。

(8) リーダーズ研修会を 12 月 20 日(土)に実施した。2,3 ゼミでリーダーシップについて、ワークショップや体験活動を通して学び合う研修会となった。外部指導者として、経営コンサルティング会社の木内さん、アウトドア指導者の田中さんを招いた。学生側からは各部活動、同好会の代表者と学生会役員の代表者が参加した。リーダーの役割や部員のモチベーションの保ち方など、交流を通して他のリーダーからアドバイスをもらったり講師の方から教えていただいたりと非常に良い機会であったと思われる。

(9) 12 月 15 日(月)から 12 月 19 日(金)の期間でイルミネーション企画として、イルミネーションを前庭で実施した。今年度も昨年度同様、大きな規模で行った。今年度は点灯式だけでなく、音楽コンサートや消灯式も行った。また、ホットドリンクの提供も行い、温かい飲み物を飲みながら音楽コンサートやイルミネーションを楽しんでいただくことができた。

(10) 今年度新たに長野高専魅力発信プロジェクトを行った。オープンキャンパスやキッズサイエン

スの手伝いのほか、オンライン学校説明会にて中学生からの質問の対応を行ったり、校内・寮内見学にて説明を行ったりした。学生が対応したことで、中学生や保護者の方々も親しみやすかったと思う。先生方からも大変好評であったため、来年度も引き続き行い、最終的には中学校にて長野高専の説明会を行えるようになりたいと考えている。

(11) 4 月 22 日(木)に長野市の学童保育事業「長野市放課後子ども総合プラン」アドバイザー講習会を開催した。講習会には 20 名程度が参加して 27 名が登録した（4 年生以上が対象)。昨年度よりも登録者は少し多くなった。来年度はさらに活動を広げていきたい。

(12) 7 月 7 日(月)に本科生と学校との意見交換会を行った。意見交換会には学生会役員と校長、各副校長、キャンパスマネジメント委員長、学生会担当職員が出席した。事前に学生から集めた要望意見を集約し、各主事等から回答をもらった。学生側の考えを聴く貴重な機会となった。

(13) 5 年生を送る会を 2 月 20 日(金)大掃除終了後に B 棟 5 階（旧 100 番教室）で行った。参加者は学生会役員と 5 年生のみであった。内容はメッセージ動画と豪華景品大抽選であったが、大いに盛り上がった。

Ⅱ　課外活動（部・同好会活動）の支援

(1) 課外活動継続願を 1 月に依頼をし、2 月初旬に回収した。教職員が引き続き担当してくれることが確認できた。

(2) 課外活動に関しては、多くの大会やコンテストが開催され、参加することができた。

(3) 長野市総合型地域スポーツクラブ北部連合との連携協定に基づき、NPO 法人長野スポーツコミュニティクラブ東北に依頼し、課外活動指導員の勤務表を作成していただいた。平日 17 時～19 時の対応、休日午前活動の構内見回りや必要に応じて大会の引率をしていただいた。

(4) 2023 年度末に課外活動の指導教員の見直しを行った（5 年に 1 度)。学生より紙での「2024 年度部・同好会指導教員の依頼について」と、学生主事からの google フォーム「部・同好会の希望調査について」で希望調査を同時に実施した。それに加えて退職等異動のあった教員（団体）に対する補充等も行った。昨年度から継続して 1 教員あたりの指導団体数の上限を 3 団体、主顧問を 1 団体にするよう年度末に調整した。教員の引率負担の片寄りが生じている、解消に向けて年度末に修正を行う予定。

(5) 今年度も後援会より課外活動に多大な支援をいただいた。後援会予算の見直しにより、2025 年度から高専大会への援助の上限が設定され、学生負担が増額した。

Ⅲ　工嶺祭の支援

第 60 回工嶺祭『青瞬』が令和 7 年 10 月 17 日（金）～令和 7 年 10 月 19 日（日）に開催された。これまでの課題を少しずつ改善させ、全体を通して大きなトラブルなく、実施することができた。本年度の実行委員会としては少し動き出しが遅い印象はあったが、「60 回」という節目を無事に終えることができた。

(1) 体育祭

工嶺祭のスタートである体育祭は令和 7 年 10 月 17 日（金）に開催した。前日の悪天候の影響で開催が危ぶまれたが、当日は無事に天候も改善した。競技種目については、クラスマッチの繰り返しにならないように選定し、ルールについても種目によって経験者の数を制限するなどで、全員が楽しめるような工夫を凝らしていた。教員も積極的に参加している姿があり、学生との交流の場として有意義なものであったと感じている。また、大きな怪我もなく、無事に終えることができたことは良かったと思う。

(2) キックオフイベント

体育祭終了後 30 分程度を使用して、ロータリーステージにてクラス企画・屋台企画等のイベント内容を紹介し、工嶺祭の始まりを盛り上げることができた。主催した係の学生も反省点としてあげていたが、もっと工嶺祭期間中のイベントの告知を増やすなどの工夫が必要であった。昨年度からの取り組みであり、今後改善が期待され、より良いものになっていくと予想できる。

(3) 展示企画・屋台企画

令和 7 年 10 月 18 日（土)、19 日（日）の一般公開では、各クラス、部・同好会による展示企画および屋台企画を実施した。展示企画については、各クラスで思考を凝らした展示が目立った。また、企業協賛により、低学年であっても各企画のクオリティも上がり、企業の方とのやり取りを通してコミュニケーションをとるという貴重な経験ができたことは非常によかったと考える。

屋台企画では、一部火柱を上げてしまい消化器を使用したことで 1 日目の営業ができなかった団体があったが、それ以外は非常に好評であった。

(4) 昼ステージ

本校の学生団体だけではなく、外部団体（市立長野の学生）との交流が実現できた。昼ステージ自体で大きな問題は生じなかったが、個人的には、バンドや音楽系のイベントが多いという印象。夜祭では音楽祭もあり、同じ人が違ったバンドで出演していることもあったのでその点は次年度以降改善に期待する。

(5) 夜祭

2 日間を通して大きなトラブルはなかった。また、例年時間がギリギリになったり、オーバーしてしまうところ、今年度は時間通り、終了することができ、全校の帰宅時間を守ることができた。

(6) 『ラムダ技術部』ワークショップ・講演会

第 60 回の特別企画として高専出身で登録者 80 万人超の YouTuber である『ラムダ技術部』をお招きし、小学生から高専生までを対象としたワークショップおよび YouTuber になるまでの経緯を講演会でお話しいただいた。一般でも多くの参加者に集まっていただき、高専を知る良いきっかけになったと考える。

(7) 繋げころころマシン！

60 回の節目の回ということで『全校で 1 つの作品を作り上げたい』という思いから、本企画はスタートした。計画通りにいかず、挫折しかけそうになったこともあったが、最後までやり遂げることができた。当日は、多くの来場者が見に来てくださり、途中、うまく動かないこともあったが、暖かい目で見守っていただけたことが非常によかった。

(8) メディア等による発信

信濃毎日新聞、新毎中学生 Navi の取材があった。『繋げころころマシン！』の記事が 10 月 19 日（日）の朝刊に掲載された。昨年同様、学生たちは取材件数が少ないと感じているようであった。次年度については、周知の方法やメディア等への依頼時期を早めるなどの対応をとるように改善していきたい。

(9) 教職員からの意見および反省点

- 保護者面談をしていることもあり、校内放送が頻繁にあると困る。（特に A 棟）
- 校内施設の使用について、ギリギリの問い合わせが多いのでもっと余裕を持って問い合わせてほしい。
- 打ち上げについて 50 人以上の団体でお店を貸切等にせず利用してしまったため、周りのお客様に迷惑をかけてしまう事案が発生した。
  - ➢ 大人数での打ち上げは控え、周りに迷惑をかけるような行動はしないよう指導した。
- 協賛企業についてパンプレットに記載していない企業があるなど、企業とのやり取りにおいて双方の認識の違いからトラブルが発生してしまった。
  - ➢ 協賛の種類がいくつかあり、わかりづらい部分もあった。そのため、次年度からは確実にパンフレットには協賛企業の一覧として記載するように改善しいく。
- 広報活動について、事前にもっと本校のホームページにも案内等が出せるように工夫した方がいい。
  - ➢ 来年度、情報技術研究部を中心としたデジタル部門を立ち上げる予定である。広報活動や専用のホームページ等、迅速に対応できるようにしていきたい。
- 会計処理の遅れで、学生や教員に迷惑をかけてしまった。
  - ➢ 次年度は、学生課とスケジュールを確認し、返金時期の目安をあらかじめ提示できるように改善する。

３．総括

(1) SNS に起因するトラブルや公共の場でのマナーに関する事案など、対面とオンライン双方における他者理解や公共性の在り方が改めて問われた一年であった。現代的なコミュニケーション環境を踏まえ、情報モラルおよび社会の一員としての自覚を育てる指導の充実が求められる。

(2) 本校の教育活動は地域社会の理解と信頼の上に成り立っていることを再認識した。学生の主体的活動を支えつつも、公共性や責任ある行動を促す指導を継続的に行う必要がある。

(3) 福利厚生・学資支援の周知や課外活動支援体制の整備など、支援基盤の充実に努めた。その一方で、教職員の負担や制度運用上の課題も明らかとなり、持続可能な支援体制の構築が次年度の重要課題である。

(4) 以上の課題に真摯に向き合いながら、学生が「本校で学んでよかった」と実感できる指導体制の充実を図っていきたい。

令和７年度　学生支援委員会の重点項目への取組結果の点検

学生支援委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の 4 段階で行う。

（1）取組結果報告に基づく評価

重　点　項　目	活　動　等　計　画	評価	根拠・確認 事項
１．問題行動の未然防止	交通事故防止に向けた取り組み	◎	第 1 回-議題 2「新年度委員会活動方針」 第 8 回-議題 1「まとめ」
	各種講習会を通じた問題行動防止への意識付け	◎	第 1 回-議題 2「新年度委員会活動方針」 第 8 回-議題 1「まとめ」
２．学生会活動の支援、地域住民との信頼関係の構築	課外活動の支援	◎	第 1 回-議題 2「新年度委員会活動方針」 第 4 回-議題 2「厚生補導設備充実費配分（案)」 第 8 回-議題 1「まとめ」
	工嶺祭の支援	○	第 5 回-議題 1「第 60 回工嶺祭について」 第 8 回-議題 1「まとめ」
	ボランティア活動や構外美化活動等を通じた地域住民との信頼関係の構築	○	第 8 回-議題 1「まとめ」
	交通マナー向上による地域住民との信頼関係の構築	○	第 1 回-議題 2「新年度委員会活動方針」 第 8 回-議題 1「まとめ」

（2）次年度への提言・各講習会の取り組み

専門家による実体験に基づく話は、学生に有効と思われる。「交通安全講習会」および 3 年生向けの「生と性の安全講習会」は、外部から講師として警察署および医師会から協力を仰ぎ、講習会はビデオの視聴などでなく、実体験に基づく専門家の話を増やす取り組みが望まれる。

・交通事故防止に向けた取り組み

歩道など、「近隣住民から苦情が寄せられる」場所では、近隣住人と良好な関係構築を模索するとともに、学生会などと協力して周りの住民からも、交通事故防止の取り組みの理解度を向上させる取り組みが望まれる。

・ヘルメット着用に向けた取り組み

自転車による交通事故が毎年発生しているが、未だに自転車の運転中のヘルメット着用率は低い。自転車利用者は、ヘルメット着用の義務化を徹底する取り組みが望まれる。

・ボランティア活動や構外美化活動等を通じた地域住民との信頼関係の構築

市立長野高校と連携して挨拶運動や交通安全指導が行われ、これらは素晴らしい取り組みである。活動計画に書かれている「構外美化活動」に関しても、両校で連携して実施することを検討願いたい。

・学生会企画として、ここ数年行われているイルミネーション企画は、近隣住民も多く見学に来ている。このような活動をより開かれた高専の活動にするために積極的に支援する取り組みが望まれる。

2-3 寮務委員会

令和７年度　寮務委員会の重点項目への活動計画

委　員　会	担当	重　点　項　目
寮務委員会	寮務主事	１．寮運営に学生の意見を反映させるシステムづくり ２．自立性・協調性をもったコミュニティ作り ３．日常運用システムの構築・見直し、および寮施設面の充実

１．寮運営に学生の意見を反映させるシステムづくり
- 寮生会役員の担当・実施内容の見直し
- 寮生の寮運営への意見反映手法の検討
- アンケートによる環境調査

２．自立性・協調性をもったコミュニティ作り
- 寮生会役員と寮務委員による寮生協議会の実施
- 寮生会による寮生の寮生活支援のための施策検討
- 日常の学習習慣の涵養と学習支援体制の整備

３．システムの構築・見直し、および施設面の充実
- 現況の日常運用システムの構築・見直し
- システム上の個人情報の適切な管理に対する確認
- 施設面の充実のための検討

令和７年度　寮務委員会の重点項目への活動報告

委　員　会	担当	重　点　項　目
寮務委員会	寮務主事	１．寮運営に学生の意見を反映させるシステムづくり ２．自立性・協調性をもったコミュニティ作り ３．日常運用システムの構築・見直し、および寮施設面の充実

１．寮運営に学生の意見を反映させるシステムづくり

・寮生会役員の担当・実施内容の見直し

寮生会役員の team をつくり、寮生への案内など担当主事補を通じ迅速に行えるようにした

・寮生会が新規に寮生の意見を集約するフォームを立ち上げ、そこで出た意見を定期的に寮務委員会に連絡した.寮務委員会及び寮事務から寮生会を通じ寮生に回答が出来た.

・寮生の寮運営への意見反映手法の検討

寮生協議会を 10 回開催し、寮生から寮運営への意見を伝えてもらう場とするとともに、寮生会の活動と協議会の議論の内容を議事録としてまとめる体制を整えた.

・アンケートによる環境調査

寮食堂および寮生活に関するアンケートを実施した.

結果について寮生会と寮生協議会にて共有し、対応可能な内容について令和 8 年度の寮生活の手引きにて明示するなど改善する.

２．自立性・協調性をもったコミュニティ作り

・寮生会役員と寮務委員による寮生協議会の実施

寮生協議会は 10 回実施した。また寮生会食堂委員長の参加する食堂会議を年間 4 回開催した

・寮生会による寮生の寮生活支援のための施策検討

・日常の学習習慣の涵養と学習支援体制の整備

コロナ禍に中断していた寮食堂を使った勉強会が後期中間の試験 2 週間前から復活し実施された。

・寮生活アンケートの中で睡眠および学習に関する状況を調査した.睡眠については問題のない結果となったが、一部学生について学習時間が十分に取れていない結果があり、改善が必要であることが明らかになった.

・女子寮では昨年度の他高専寮生会との交流で提案された縦の繋がり強化のための交流イベントとしてお茶会が実施され好評だったとのことだった。

・寮生会補佐と国際交流同好会長（7 号館在住）が中心となり、国際寮を会場とした交流イベントが通算５回実施され、短期留学生等を交えた交流会実施出来た。

３．システムの構築・見直し、および施設面の充実

・現況の日常運用システムの構築・見直し

学生への各種案内の周知の迅速化のため、寮生全体の team の運営が 2 年目となり、途中入寮や退寮の学生に関するやり取りについて組織的な管理が可能となった.

・施設面の充実のための検討

寮生会主導のもと男子寮の各号館に 1 室ずつ冷蔵庫室が設置された.事前の連絡や方法の周知などが良くなされ、年度末まで順調に運営・管理された.

・4，7 号館のベランダにおけるハトの飛来、糞による被害の報告があり、夏季休業期間中に対応した。

・夏季休業中のシャワー室、春季休業中の 1 号館全室クリーニングが実施された。

令和７年度　寮務委員会の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の４段階で行う。

（１）取組結果報告に基づく評価

重　点　項　目	活　動　等　計　画	評価	根拠・確認 事項
１．寮運営に学生の意見を反映させるシステムづくり	・寮生会役員の担当・実施内容の見直し	○	・「令和７年度寮務委員会 Team」・「令和７年度寮生会役員 Team」にて寮生会役員を共有
	・寮生の寮運営への意見反映手法の検討	◎	・寮生協議会議事録（第２回報告１、第３回報告１ほか）を通じて寮生の意見共有
	・アンケートによる環境調査	◎	・第８回議題７「寮生活に関するアンケート調査について」にて、12/8～12/24 まで寮生に向けて環境調査を実施、第10回議題７にて結果報告
２．自立性・協調性をもったコミュニティ作り	・寮生会役員と寮務委員による寮生協議会の実施	◎	・第２回報告１「寮生協議会」にて、寮生生活を快適にするための取り組みやイベントについて、寮生会役員と教員の意見交換会が実施されたことを報告（以降、定期的に開催）、議事録は各回作成
	・寮生会による寮生の寮生活支援のための施策検討	◎	・寮生用 Team「2025 年度 長野高専寮」6/9「寮に関するアンケートに関して」にて共有
	・日常の学習習慣の涵養と学習支援体制の整備	◎	・寮生用 Team「2025 年度 長野高専寮」6/1, 7/22, 11/12, 2/3「テスト前の勉強会の開催について」にて共有
３．システムの構築・見直し、および施設面の充実	・現況の日常運用システムの構築・見直し	○	・「令和７年度寮生会役員 Team」にて定期的に寮生異動情報を共有
	・施設面の充実のための検討	○	・寮生用 Team「2025 年度 長野高専寮」6/25「共用冷蔵庫について」にて共有 ・第７回報告５にて共有 ・第６回報告５にて共有

（2）次年度への提言

・食事については学生が安心して 3 食の摂食ができるよう、引き続き調査や呼びかけを行う取り組みが望まれる。
・時代に沿った当番や役回りを検討・運用するのは寮生活を送る上で大変有意義であると思われる。一方、制度の変更は学生にとって負担になりにくい時期から運用されることが望まれる。
・システムの構築・見直しの準備について、寮に関わる情報を一元的に管理でき、かつリアルタイムに必要な情報を入手できるため、非常に有効な手法であると考えられる。一方、部屋割や当番表には氏名などの個人情報もあるため、適切に管理することに留意されることが望まれる。

2-4 専攻科運営委員会

令和 7 年度　専攻科委員会の重点項目への活動計画

委　員　会	担当	重　点　項　目
専攻科運営委員会	専攻科長	１．広報活動 ２．学士の取得支援 ３．学修総まとめ科目担当教員の増加

１．広報活動
・専攻科公式 LINE 開設

２．学士の取得支援
・学士申請説明会の開催
・学修総まとめ科目計画書および成果の要旨の作成支援

３．特別研究担当教員の増加
・教員への研究業績積上げ依頼
・個表増加を目的とした教員への働きかけ
・連携教育プログラムにおける研究マッチング数の増加

令和７年度　専攻科運営委員会の重点項目に関する取組結果報告

委　員　会	担当	重　点　項　目
専攻科運営委員会	専攻科長	１．広報活動 ２．学士の取得支援 ３．学修総まとめ科目担当教員の増加

１．広報活動

・専攻科公式 LINE を開設

→後援会を対象に、学生の日頃の研究や活動の様子を共有し、安心と理解を深めてもらうとともに、専攻科の教育内容の可視化と魅力発信を行う。また、専攻科生による LINE 定期報告に関する実施要項を策定した。

２．学士の取得支援

・学士申請説明会の開催

→ 令和７年３月２６日（木）　「履修計画書」　作成の説明会を実施

→ 令和７年１２月３日（水）　「成果の要旨」　作成の説明会を実施

・学修総まとめ科目計画書および成果の要旨の作成支援

→　上記説明会の後，提出された「履修計画書」および「成果の要旨」を委員にて手分けしてあらかじめ用意した点検項目にそって点検を行った.

３．特別研究担当教員の増加

・教員への研究業績積上げ依頼

・個表増加を目的とした教員への働きかけ

→　個表または，個表の課題を増やすため，令和 7 年９月に５名，８課題を新たに学位授与機構へ申請し，３名６課題が新しく認められた.

令和 7 年度　専攻科運営委員会の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の 4 段階で行う。

（1）取組結果報告に基づく評価

重　点　項　目	活　動　等　計　画	評価	根拠・確認 事項
1.広報活動	・専攻科公式 LINE 開設	○	・第 1,10,11 回専攻科運営委員会 議事概要
2．学士の取得支援	・学士申請説明会の開催	◎	・学士申請説明会の開催 令和 7 年 3 月 26 日「履修計画書」　作成の説明会を実施 令和 7 年 12 月 3 日「成果の要旨」　作成の説明会を実施 ・第 1 回専攻科運営委員会 議事概要
	・学修総まとめ科目履修計画書および成果の要旨の作成支援	◎	・第 1 回専攻科運営委員会 議事概要 ・第 15 回専攻科運営委員会 議事概要
3．特別研究担当教員の増加	・教員への研究業績積上げの依頼	○	・第 6 回専攻科運営委員会 議事概要
	・個表増加を目的とした教員への働きかけ	◎	・第 6 回専攻科運営委員会 議事概要

（2）次年度への提言

・広報活動において SNS を積極的に活用されており、今後の継続的な運用が望まれる。
・学士の取得支援の結果、極めて高い学士取得率を確保されており、今後の継続的な運用が望まれる。
・特別研究担当教員の増加のための個表の増加が継続的に取り組まれており、今後も継続的に行うことが望まれる。
・入学者選抜方法については今後の継続的な運用が望まれる。

令和７年度　図書館の重点項目への活動計画

委員会	担当	重 点 項 目
図書館	図書館長	雑誌等の購読調査と効率化

電子書籍の普及とともに、雑誌・新聞（以下、雑誌等とする）のあり方が従来と変わりつつある中、休刊も重なり、令和４年度から６年度にかけて購読数は逓減している。このような状況を踏まえ、講読雑誌等の利用者状況調査を行い、昨年度の調査結果も勘案したうえで、雑誌等講読の効率化を実施する。

令和７年度　図書館の重点項目への活動報告

委員会	担当	重 点 項 目
図書館	図書館長	雑誌等の購読調査と効率化

昨年度の図書館会議において、下記のとおり購読雑誌・新聞の継続契約に関して方針が定められた。

来年度については今年度購読中の雑誌等を継続して契約をする。 ただし、以下を条件とする。
・雑誌等の利用促進のため、学生・教職員に対しメール等で購読リスト周知および利用の呼びかけを行う。
・そのうえで令和７年度に購読雑誌等利用状況調査を改めて行い、２年度連続で利用がなかった雑誌等は廃止する。

上記方針から、令和 7 年度において、事前に利用促進の呼びかけ、購読雑誌・新聞の調査 に関する周知等を行い、10 月 1 日～10 月 31 日の間に購読雑誌等利用状況調査を行った。その結果、２年度連続で利用がない雑誌等はなかった。利用率が少ない雑誌等も存在しているが、利用が低迷している雑誌等を廃止すると出版社の休刊とも重なり図書館配架雑誌等の急激な減少ひいては図書館利用者数の減少に繋がることが懸念される。よって、来年度については今年度購読中の雑誌等を継続して契約をすることとした。

令和７年度　図書館の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の４段階で行う。

（１）取組結果報告に基づく評価

重　点　項　目	活　動　等　計　画	評価	根拠・確認 事項
雑誌等の 購読調査と 効率化	・購読調査	◎	第４回(令和７年 12 月９日)図書館会議資料
	・購読継続の再検討	◎	

（２）次年度への提言

取り組みについては適切に実施されている。議事録が GW に掲載されていない回があり、対応が~~望まれる~~。

学校関係者、学外利用者に有益な図書館となるよう継続的な運用が望まれる。

令和７年度　広報企画委員会の重点項目への活動計画

委　員　会	担当	重　点　項　目
広報企画委員会	総務主事	１．小中学生への PR ２．地域、地域企業への PR ３．学生、保護者、卒業生への情報発信

１．公開企画部門

今年度の目標

・長野県下の小中学校における教育を側面から支援し、地域への貢献・地域との連携をより一層推進すること。また、理系の面白さを伝えることに加え、長野高専の PR、入試倍率確保への戦略を考える。そのために、地域で開催されるイベントに、積極的に参加する。

・入試広報室との連携を行い、効果的な広報を行う。

今年度の活動計画

・サイエンスツアー（出前授業)およびサイエンス・ライブ（公開講座）は、5/9 締切りで募集する。サイエンス・ライブ（公開講座）を対面にて実施する。

・各種科学イベント（まつもと広域ものづくりフェア、NAGANO SDGs PROJECT、産業フェア in 信州キッズものづくりランド）は、実施に向けて準備を行う。

・長野高専キッズサイエンス（11/15）を実施する。

・産業フェア（長野しんきんビジネスフェア、諏訪圏工業メッセ、SAKU メッセ、産業フェア in 信州、産業ミライフェス in UEDA）は、参加に向けて準備を行う。

２．刊行物部門

今年度の目標

・小中学生、地域・企業、学生、保護者、卒業生に PR・情報発信するために、「学園だより」の発行、オリジナルグッズ配付などを行う。

・「入学案内」、「学校便覧」の発行による広報活動を行う。

今年度の活動計画

・「学園だより」を 3 回 発行する。春号は 500 部、体験入学に夏号と合わせて配付する。

・エコバッグ、クリアファイル、メモ帳、にオリジナルグッズを作成し、各所で配付する。

・「入学案内」、「学校便覧」の年度更新に伴う修正作業、および今後の紙ベースでの発行についての検討を行う。

３．情報発信部門

今年度の目標

・小中学生、地域・企業、学生、保護者、卒業生に対して、新しい情報をタイムリーで分かりやすく PR・情報発信する。

今年度の活動計画

・ホームページのリニューアルに伴い整理された状況を維持できるよう体制の定着を行う。

・ホームページのサイトメンテナンスや保守業務などを行い、ホームページの維持に努める。

・維持管理に携わる教職員への研修を行う。

・取材・掲載時期を調整するなど、定期的なアクセスに結び付けるよう活動する。

・月ごとに学校行事情報を発信する。

令和７年度　広報企画室の重点項目への取組結果報告

委　員　会	担当	重　点　項　目
広報企画委員会	総務主事	１．小中学生への PR ２．地域、地域企業への PR ３．学生、保護者、卒業生への 情報発信

１．公開企画

・サイエンスツアー（出前授業)およびサイエンス・ライブ（公開講座）
サイエンスツアー　38 件（公開テーマ数 20）
サイエンス・ライブ　7 件

・各種科学イベント（サイエンスツアーとして実施）
信州環境フェア 2025　7 月 5 日（土）　1 件
信州環境フェア実行委員会
まつもと広域ものづくりフェア　9 月 6 日（土）　2 件
まつもと広域ものづくりフェア運営委員会・実行委員会
NAGANO SDG's PROJECT　協力校として参画
産業フェア in 信州 2025 キッズものづくりランド　10 月 25 日（土）　1 件
産業フェア in 信州実行委員会
長野高専キッズサイエンス　11 月 15 日（土）　37 件（内 22 件が高専テーマ）
長野高専、キッズサイエンス実行委員会

・産業フェア
長野しんきんビジネスフェア　5 月 14 日（水）ビックハット
諏訪圏工業メッセ　6 月 26 日（木）～28 日（土）
岡谷総合市民体育館、テクノプラザおかや
SAKU メッセ　10 月 1 日（水）～3 日（金）佐久総合体育館
産業フェア in 信州　10 月 24 日（金）～25 日（土）ビックハット
産業ミライフェス in UEDA　10 月 31 日（金）～11 月 1 日（土）サントミューゼ

２．刊行物

・「学園だより」を 3 回 発行
194 号（春)、195 号（夏)、196 号（秋冬）を発行した。197 号（春）の発行に向けての編集作業を行っている。

・ノベルティの更新
エコバック、クリアファイル、A6 判メモ帳、付箋を作成した。産業展用に校名入りえんぴつを作成した。
国際交流に係る贈答品（手土産）として、名入れボールペン、京ふろしきを用意した。

・「学校案内」、「学校便覧」の工学科改組、校長交代に伴う修正作業
写真など更新をおこなった。

３．情報発信

・現行ホームページへの情報掲載および提示方法の改善
分かりやすくタイムリーな情報発信（4/1～12/23 100 件）
情報発信ページを再構築し、入試関連とそれ以外で整理
隔月で月間行事リストを発信し、同時に教務係からさくら連絡網でも発信
国際交流、オープンラボのページ新設

・持続可能なホームページのサイトメンテナンスや保守業務
各ページ運用部署へのサポート、管理アカウントの効率的な再配分

４．課題と対応

公開企画

〇部門の活動を、高専 PR、入試倍率の維持、優秀な学生の確保につなげる方法（継続）

→サイエンス・ツアーならびにサイエンス・ライブのテーマ準備に対する補助の実施

〇部門の活動を、高専 PR、入試倍率の維持、優秀な学生の確保につなげる方法（継続）

→サイエンス・ツアーならびにサイエンス・ライブのテーマ準備に対する補助の実施

〇中学生のための「長野高専放課後サイエンスクラブ（仮）」の実施に向けた準備

→中学生・保護者へのアンケート調査

情報発信

〇学校や学生の様子を伝える記事が少ない。

→　工学科の講義の様子を伝える動画の作成（百瀬先生に協力依頼：4 月公開に向けて作業中）

〇入試広報室との連携強化

令和７年度　広報企画室の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の４段階で行う。

（１）取組結果報告に基づく評価

３つの重点項目に対して各部門で活動した結果を以下のように評価する。

重　点　項　目	活　動　等　計　画	評価	根拠・確認 事項
１．公開企画部門	・サイエンスツアー（出前授業)およびサイエンス・ライブ（公開講座）は、5/9 締切りで募集する。サイエンス・ライブ（公開講座）を対面にて実施する。	◎	・サイエンス・ツアー 38 件 ・サイエンス・ライブ 7 件 ・第 3 回委員会報告
	・各種科学イベント（まつもと広域ものづくりフェア、NAGANO SDGs PROJECT、産業フェア in 信州キッズものづくりランド）は、実施に向けて準備を行う。	◎	・計画どおり実施している。 ・第 3 回委員会報告
	・長野高専キッズサイエンス（11/15）を実施する。	◎	・テーマ数 37 件で実施 ・第 3 回委員会報告
	・産業フェア（長野しんきんビジネスフェア、諏訪圏工業メッセ、SAKU メッセ、産業フェア in 信州、産業ミライフェス in UEDA）は、参加に向けて準備を行う。	◎	・5 件参加 ・第 3 回委員会報告
２．刊行物部門	・「学園だより」を３回 発行する。	◎	・3 回発行 ・第 2 回委員会報告
	・オリジナルグッズを作成し、各所で配付する。	◎	・ノベルティの更新：従来のノベルティから一部を変更し、メモ帳、付箋を刷新した。 ・実際のグッズで確認
	・「入学案内」、「学校便覧」の年度更新に伴う修正作業、および今後の紙ベースでの発行についての検討を行う。	○	・「入学案内」、「学校便覧」を刷新している。 ・発行媒体は未検討。 ・実際の発行物で確認
３．情報発信部門	・ホームページのリニューアルに伴い整理された状況を維持できるよう体制の定着を行う。	◎	・各ページ更新作業者のサポートを行っている。 ・第 2 回委員会報告
	・ホームページのサイトメンテナンスや保守業務などを行い、ホームページの維持に努める。	○	・Web ページ細部の改良が今後の課題。 ・第 3 回委員会報告
	・維持管理に携わる教職員への研修を行う。	○	・3 名体制で web ページ管理にあたっている。 ・第 3 回委員会報告
	・取材・掲載時期を調整するなど、定期的なアクセスに結び付けるよう活動する。	◎	・イベントの特設ページを運営している。 ・ホームページで確認
	・月ごとに学校行事情報を発信する。	◎	・計画通り実施している。 ・ホームページで確認

（2）次年度への提言

・公開企画部門では計画通りに活動が行われており、継続的な運営が望まれる。
・刊行物部門では発行媒体について再検討することが望まれる。
・情報発信部門ではわかりやすいホームページの運営について継続的な検討が望まれる。

令和７年度　技術教育センターの重点項目と活動計画

委　員　会	担当	重　点　項　目
技術教育センター	技術教育センター長	１．安全性の向上 ２．授業支援 ３．課外活動支援 ４．研究支援

１．安全性の向上
・機器及び工具等の破損における原因究明と対策
・技術教育センターの利用規則及び注意事項の見直し
・安全基本作業講習会及び機械加工基礎実習の実施
・技術職員の技能向上（技能検定の受検）
・設備の更新・保守・点検

２．授業支援
・実験・実習系授業の支援

３．課外活動支援
・物作り系課外活動等の支援

４．研究支援
・製作依頼及び技術指導依頼への対応
・卒業研究、特別研究の装置製作等の支援

令和７年度　技術教育センターの重点項目への取組結果報告

委　員　会	担当	重　点　項　目
技術教育センター	技術教育センター長	１．安全性の向上 ２．授業支援 ３．課外活動支援 ４．研究支援

１．安全性の向上
- ・機器及び工具等の破損における原因究明と対策
- ・技術教育センターの利用規則及び注意事項の見直し
- ・安全基本作業講習会及び機械加工基礎実習の実施
- ・技術職員の技能向上（技能検定の受検）
- ・設備の更新・保守・点検

２．授業支援
- ・実験・実習系授業の支援

３．課外活動支援
- ・物作り系課外活動等の支援

４．研究支援
- ・製作依頼及び技術指導依頼への対応
- ・卒業研究、特別研究の装置製作等の支援

令和７年度　技術教育センターの重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の４段階で行う。

（１）取組結果報告に基づく評価

３つの重点項目に対して各部門で活動した結果を以下のように評価する。

重　点　項　目	活　動　等　計　画	評価	根拠・確認 事項
１．安全性の向上	・機器及び工具等の破損における原因究明と対策	○	令和７年度運営報告「1. 技術教育センター使用状況」並びに、機器及び工具破損による原因対策報告書
	・技術教育センターの利用規則及び注意事項の見直し	○	実習工場使用に関する申し合わせ（R7 年 6 月 19 日制定）
	・安全基本作業講習会及び機械加工基礎実習の実施	◎	令和７年度運営報告「4. 安全基本作業講習会、機械加工基礎実習及び技能検定」
	・技術職員の技能向上（技能検定の受検）	○	１名が技能検定フライス盤１級を受験し学科試験のみ合格
	・設備の更新・保守・点検	○	令和７年度運営報告「5. 設備工事、機器移動・導入・廃棄、修繕改革等」
２．授業支援	・実験・実習系授業の支援	○	令和７年度運営報告「1. 技術教育センター使用状況」 「3. 技術指導の状況」 令和７年度 運営報告 令和７年度 運営計画 議事要旨
３．課外活動支援	・物作り系課外活動等の支援	○	令和７年度運営報告「1. 技術教育センター使用状況」 「3. 技術指導の状況」
４．研究支援	・製作依頼及び技術指導依頼への対応	○	令和７年度運営報告「2. 製作依頼の状況」 「3. 技術指導の状況」
	・卒業研究、特別研究の装置製作等の支援	○	令和７年度運営報告 「1. 技術教育センター使用状況」 「3. 技術指導の状況」

（２）次年度への提言

・重点項目、活動等計画に沿った報告書の作成をしなくてはならないことから、次年度の改善を要求する。

2-8 情報教育センター

令和７年度　情報教育センターの重点項目への活動計画

委　員　会	担当	重　点　項　目
情報教育センター	情報教育センター長	**１．情報端末機器の更新に関する検討** **２．サポート切れシステムへの対応**

1. 情報端末機器の更新に関する検討
　令和７年度をもって現在ある情報端末機器のリースが切れる。BYOD(各学生が情報端末機器を自費で購入して持っていること)が進んでいることから，学校として提供する情報端末機器を具体的に検討する。

2. サポート終了システムへの対応
Windows10 のサポート終了期限を今年度内に迎える。サポートが終了するシステムの利用に対する対応を進める。

令和７年度　情報教育センターの重点項目に関する取組結果報告

委　員　会	担当	重　点　項　目
情報教育センター	情報教育センター長	**１．情報端末機器の更新に関する検討** **２．サポート切れシステムへの対応**

１．情報端末機器の更新に関する検討

令和７年度をもって現在ある情報端末機器のリースが切れる。BYOD(各学生が情報端末機器を自費で購入して持っていること)が進んでいることから、学校として情報端末機器を維持する必要があるのか検討する必要があった。本件について、教務主事を座長とするワーキンググループを立ち上げ、各系からの意見を取りまとめた。

執行会議等、様々な立場等からの意見や提案などがあり、様々な案が検討された。

結果として、令和８年度以降はデスクトップの情報端末機器を導入せず、BYOD パソコンを利用することを主として、その代替機となるようノートパソコンを用意し、使用時に展開して、使用が終わったら片付ける方式にした。情報教育センターに置いておくためのキャビネットを導入して、そこから持ち出して使えるようにするための利用方法などを検討し、その方法にしたがって運用することとした。

２．サポート切れシステムへの対応

2025 年 10 月 14 日に Windows10 のサポート期間が終了した。ネットワークに接続できる Windows PC は、基本的に Assetbase をインストールした Windows11 の PC のみとした。

ネットワーク接続の棚卸のため、情報教育センターで削除リストを作成し、2025 年 12 月 24 日に MAC アドレスの登録を削除した。削除対象 PC のネットワーク接続は停止した。

その後、接続が必要とされる PC については、新たに登録して接続する対応を行っている。やむを得ず、オフラインで利用せざるを得ない PC については、別途登録してもらって、登録の上で利用してもらうこととした。

令和７年度　情報教育センターの重点項目への取組結果の点検

情報教育センターにおいて提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の４段階で行う。

（１）取組結果報告に基づく評価

重　点　項　目	活　動　等　計　画	評価	根拠・確認 事項
１．情報端末機器の更新に関する検討	令和７年度をもって現在ある情報端末機器のリースが切れる。BYOD(各学生が情報端末機器を自費で購入して持っていること)が進んでいることから、学校として情報端末機器を維持する必要があるのか検討する必要があった。本件について、教務主事を座長とするワーキンググループを立ち上げ、各系からの意見を取りまとめた。 執行会議等、様々な立場等からの意見や提案などがあり、様々な案が検討された。 結果として、令和８年度以降はデスクトップの情報端末機器を導入せず、BYODパソコンを利用することを主として、その代替機となるようノートパソコンを用意し、使用時に展開して、使用が終わったら片付ける方式にした。情報教育センターに置いておくためのキャビネットを導入して、そこから持ち出して使えるようにするための利用方法などを検討し、その方法にしたがって運用することとした。	◎	・2025年４月　情報教育センター委員会　議事概要 ・2025年５月　情報教育センター委員会　議事概要 ・2025年６月　情報教育センター委員会　議事概要 ・2025年７月　情報教育センター委員会　議事概要 ・2025年９月　情報教育センター委員会　議事概要 ・2025年10月情報教育センター委員会議事概要 ・2026年１月　情報教育センター委員会　議事概要 ・2026年２月　情報教育センター委員会　議事概要 ・　R8更新教育用電算システムWG資料_20250602.pdf ・2026年度情報教育センター端末利用_20260205.pdf
２．サポート切れシステムへの対応	2025年10月14日にWindows10のサポート期間が終了した。ネットワークに接続できるWindows　PCは、基本的にAssetbaseをインストールしたWindows11のPCのみとした。 ネットワーク接続の棚卸のため、情報教育センターで削除リストを作成し、2025年12月24日にMACアドレスの登録を削除した。削除対象PCのネットワーク接続は停止した。 その後、接続が必要とされるPCについては、新たに登録して接続する対応を行っている。やむを得ず、オフラインで利用せざるを得ないPCについては、別途登録してもらって、登録の上で利用してもらうこととした。	◎	・第97回(令和７年度第３回)情報セキュリティ推進委員会 議事録 ・第98回(令和７年度第４回)情報セキュリティ推進委員会 議事録 ・第101回(令和７年度第７回)情報セキュリティ推進委員会 議事録 ・第102回(令和７年度第８回)情報セキュリティ推進委員会 議事録 ・第103回(令和７年度第９回)情報セキュリティ推進委員会 議事録 ・第104回(令和７年度

			第 10 回)情報セキュリティ推進委員会 議事録 ・

（2）次年度への提言
・情報教育センターの運用について計画通りに実施されており、今後も継続的な運営が望まれる。
・満足度調査の結果、ネットワークに関する要望が多くありました。ネットワークの高速化によって解消したかを引き続き調査が望まれる。

2-9 国際交流センター

令和７年度　国際交流センターの重点項目への活動計画

委　員　会	担当	重　点　項　目
国際交流センター	センター長	「持続可能な国際交流にむけた活動の拡充」 1. 協定校との海外研修プログラムを学生に提供 2. 海外派遣のための英語力向上へのとりくみ （グローバルエンジニア育成センターと協働）

国際交流センター重点項目

持続可能な国際交流にむけた活動の拡充を目指す

1. 活動方針

1. 学生が異文化、社会情勢、国際標準エンジニア教育に触れる機会の拡大を拡充する。
2. 留学生の研究・生活・交流の支援を行う。
3. 国際標準エンジニア教育を実施可能な教員育成の支援を行う。
4. 海外の学生たちとの交流により、異文化理解と協定校との研究活動を支援する。

2. 活動内容

5. センター活動を広く広報し、多くの教職員・保護者・企業の理解と支援を得て、持続可能な国際交流を目指す。

1. 協定校との交流プログラム作成と交流の機会を提供する。
   A：異文化・先端社会部門は主に 1，2 年生向け （香港、タイ、台湾海外研修など）
   B：国際標準エンジニア教育部門は高学年と専攻科向け
   （カナダ、シンガポール、ベトナム、カンボジアなど）
2. 世界情勢の調査(渡航情報等)と海外研修等のプログラム作成および機会を提供する。
3. STEAM 教育、Design 思考、ファシリテーション(PBL チュートリアル) 教育技法の研修、英語コミュニケーション向上の機会を提供する。
4. 学生会、後援会、国際交流団体、企業と連携した社会活動機会を提供する。
5. 国際寮を活用して国際交流を図る。

→1.～3.の活動を通じて、学生・教員の達成目標を明確にし、広報活動を行う。

→1.～3.に対する外部資金獲得を行う。

令和７年度　国際交流センターの重点項目に関する取組結果報告

委　員　会	担当	重　点　項　目
国際交流センター	センター長	「持続可能な国際交流にむけた活動の拡充」 1. 協定校との海外研修プログラムを学生に提供 2. 海外派遣のための英語力向上へのとりくみ （グローバルエンジニア育成センターと協働）

国際交流センター重点項目

持続可能な国際交流にむけた活動の拡充を目指す

１．協定校の受け入れによる交流、および海外研修プログラムを学生に提供

○協定校との交流プログラム作成と交流の機会の提供を行った。

・7 月（2 週間）　北アルバータ工科大学（NAIT）（カナダ）8 名
・9 月（2 週間）　テクニカルカレッジ・チョンブリ校（タイ）11 名
・10 月（1 か月）　KOSEN-KMITL（タイ）12 名
・10 月（1 週間）　プリンセスチュラポーンサイエンスハイスクール（タイ）4 名

○海外研修支援金を最大限に活用し海外派遣を行った

・NAIT（カナダ）10 名
・サスカチュワンポリテクニーク(SASK)（カナダ）10 名
・リパブリック・ポリテクニク（シンガポール）　14 名
・香港 IVE（香港）12 名
・ダナン工科大学（ベトナム）5 名
・日特建設（インターンシップ：インドネシア）3 名
・環境省（インターンシップ：カンボジア）3 名
・学会参加、スラナリテクニカルカレッジ（タイ）3 名

2. 海外派遣のための英語力向上へのとりくみ

グローバルエンジニア育成センターと協働し、特にカナダに行く 20 名の学生に対しては、引率予定の教員が放課後に英会話クラスを実施した。

また、グローバル育成センターではグローバルエンジニア育成事業の一環として、放課後に英会話の指導を行っている。

3. 学生会、後援会、国際交流団体、企業と連携した社会活動機会の提供

・6 月 22 日に桜風寮（国際寮）の学生および国際交流同好会による「第 1 回国際寮交流イベント」が開催された。参加者は 29 名（うち留学生 12 名）
・7 月 7 日に NAIT の学生を短期留学生として受け入れた際、桜風寮（国際寮）の学生および国際交流同好会の学生がサポートを行った。
　また、7 月 10 日には、国際交流同好会の有志 27 名と一緒に、清泉大学にて開催されたインターナショナルカフェに参加し、国際交流を行った。
　清泉大学とはその後も交流が続き、1 月 15 日には国際交流同好会の留学生を中心とした学生 12 名が清泉での餅つきイベントに参加した。
・9 月 22 日に、タイテクニカルカレッジチョンブリ校の学生 10 名を短期留学生として受け入れ。
　9 月 26 日には、国際交流同好会の学生を主体として国際寮での交流を実施した。
・12 月 19 日に桜風寮（国際寮）の学生および国際交流同好会による「冬の国際寮交流イベント」が開催された。参加者は 30 名（うち留学生 10 名）

4. 国際寮を活用した国際交流イベントの企画開催

国際寮の学生たちに、7 月に NAIT 学生、10 月にタイの学生のサポートの他、国際寮 1 階のコラボレーションルームにて 4 回/年のイベントを行った。

5．留学生の学習・生活支援

例年と同様に 3 年生と 4 年生と希望のあった 5 年生の留学生に対しチューターを決定し、年間を通じ留学生の学習と生活のサポートを実施した。また留学生交流会では「5 年次以上もチューターを付けてほしい」との要望があったため、令和6年度にチューター規則を変更し、希望者のあった5年生にもチューターを付けることとした。

1 月には日帰りで留学生が軽井沢へ実地研修、2 月はスキー・スノーボード交流イベントを実施した。

春休み中には 3 名（5 年生 1 名、4 年生 1 名、3 年生 1 名）の留学生が、本校学生および教員宅にホームステイを行っている。

令和７年度　国際交流センターの重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、〇、△、×の４段階で行う。

（１）取組結果報告に基づく評価

重　点　項　目	活　動　等　計　画	評価	根拠・確認 事項
「持続可能な国際交流にむけた活動の拡充」 1.　協定校との海外研修プログラムを学生に提供 2.　海外派遣のための英語力向上へのとりくみ （グローバルエンジニア育成センターと協働）	・協定校の受け入れによる交流、および海外研修プログラムを学生に提供する	◎	・2 カ国の学生総勢 23 名を受け入れた。 ・委員会で随時検討・報告を確認
	・世界情勢の調査と海外研修等のプログラム作成および機会の提供	◎	・海外研修支援金を最大限に活用し海外派遣を、7 カ国へ 60 名が研修した。 ・第 3 委員会など随時
	・STEAM 教育、Design 思考、ファシリテーション(PBL チュートリアル) 教育技法の研修、英語コミュニケーション向上の機会を提供する。	◎	・海外研修に参加する学生が放課後の英会話クラスを受講した。
	・学生会、後援会、国際交流団体、企業と連携した社会活動機会の提供	◎	・清泉大学のインターナショナルカフェに国際交流同好会およびカナダの学生と参加 ・タイおよびカナダからの学生を善光寺に案内 ・東京日本語教育センターの学生 7 名を 10/18、10/19 の工嶺祭に案内 ・第 7 回委員会
	・国際寮を活用した国際交流イベントの企画開催	◎	・タイとカナダの短期留学生の生活サポートをした ・第 4、9 回委員会
	・留学生の学習・生活支援	◎	・昨年度チューター規則を変更したことによって、チューターが必要な 5 年生にもチューターを付けることができた ・第 8 回委員会

（２）次年度への提言

・持続可能な国際交流にむけた活動の拡充について、多くの学生の海外研修派遣、短期留学生の受け入れ、国際交流イベントの実施など多くの運営を行っており、今後も継続的な運用が望まれる。

2-10 グローバルエンジニア育成センター

令和７年度　グローバルエンジニア育成センターの重点項目への活動計画

委　員　会	担当	重　点　項　目
グローバルエンジニア育成センター	センター長	学生の学習意識向上と自主的学習のサポート

学生の学習意識向上と自主的学習のサポート

１．グローバルエンジニア育成センター重点項目

学生の学習意識向上と自主的学習のサポート

① 課外活動としてのイングリッシュ・ラウンジ(英会話教室)とイングリッシュ・トレーニング・ルーム(リスニング練習)の運営

② オンライン交流などのイベントを通した学生の学習意欲向上へのとりくみ

③ 留学生との交流会ならびに国際性を養う講演会の実施

④ 低学年で実施する海外研修旅行の計画・実施

令和７年度　グローバルエンジニア育成センターの重点項目に関する取組結果報告

委　員　会	担当	重　点　項　目
グローバルエンジニア育成センター	センター長	学生の学習意識向上と自主的学習のサポート

学生の学習意識向上と自主的学習のサポート

① オンライン交流などのイベントを通した学生の学習意欲向上へのとりくみ
２学年の海外研修旅行前に台湾での交流予定校（台北市立大安高級工業職業学校）とのオンライン交流会は，相手校の事情で実施できなかった。

② 低学年で実施する海外研修旅行の計画・実施
③ 2 学年全員参加の海外研修（台湾）を実施したが，インフルエンザ等で参加できない学生もいた。
④ 放課後英会話教室（イングリッシュ・ラウンジ）を 5 月以降毎週 10 コマ(1 コマ 60 分)，放課後リスニング教室(イングリッシュ・トレーニング・ルーム)を毎週 1 コマ(60 分)実施した。
⑤ 教員向け英会話教室(イングリッシュ・ラウンジ・フォー・ティーチャーズ)を毎週 2 コマ(1 コマ 60 分)実施している。
⑥ 海外研修および英語学習の進め方についての講演会実施
・１学年の特活の時間を使って海外研修に参加した先輩の講演会（海外研修参加前の学習や参加中の楽しみかたついて）を行った。
7　夏休み中に，3，4 年生を対象に TOEIC IP テストを無料で受験できる機会を設けた。

令和７年度　グローバルエンジニア育成センターの重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し，次年度への提言を示す。評価は，◎，○，△，×の４段階で行う。

（１）取組結果報告に基づく評価

重　点　項　目	活　動　等　計　画	評価	根拠・確認 事項
学生の学習意識向上と自主的学習のサポート	・課外活動としてのイングリッシュ・ラウンジ(英会話教室)とイングリッシュ・トレーニング・ルーム(リスニング練習)の運営	◎	英会話は、5 月の連休明け以降の水曜日以外に実施した（非常勤講師出勤簿参照）
	・オンライン交流などのイベントを通した学生の学習意欲向上へのとりくみ	×	実施していない
	・留学生との交流会ならびに国際性を養う講演会の実施	△	学生向け講演会は 12 月 19 日に実施（1 学年会資料に記載有）
	・低学年で実施する海外研修旅行の計画・実施	○	・11/4～11/7 実施

（２）次年度への提言

・2 学年の海外研修旅行が実施されたことは確認できたが，計画・実施にあたってグローバルエンジニア育成センターがどのような役割を担っているのか不明瞭である．

・オンライン交流や留学生との交流会ならびに国際性を養う講演会の実施について計画・実施状況が確認できなかった．委員会を定期的に開催し，進捗状況を報告する場を設け，その記録を会議議事録等に残していく必要がある．

2-11 ダイバーシティ推進室

令和 7 年度　ダイバーシティ（旧男女共同参画推進室）の重点項目への活動計画

委　員　会	担当	重　点　項　目
ダイバーシティ推進室	ダイバーシティ推進室長	１．教育活動全般を通じた男女共同参画の推進 ２．男女共同参画の意識啓発 ３．女性教職員に対する労働環境支援

１．教育活動を通じた男女共同参画の推進
- ・在学生のキャリア支援のための施策実施
- ・女子中学生の入学支援施策実施
- ・在学生へのアンケートによる認知および希望調査の実施

２．男女共同参画の意識啓発
- ・ダイバーシティ関連講演会の実施
- ・学生向け，教職員向けダイバーシティ関連イベントの案内
- ・男女共同参画関連　web site の充実

３．女性教職員に対する労働環境支援
- ・女性教職員対象　労働環境意見収集
- ・全教職員アンケート（1. のアンケートに準ずる）
- ・教職員体験実習の実施

４．その他
- ・教職員労働環境支援　休日勤務における校内一時保育
- ・GCON2025 参加支援

令和７年度　ダイバーシティ推進室の重点項目への取組結果報告

委　員　会	担当	重　点　項　目
ダイバーシティ推進室	男女共同参画推進室長	１．教育活動全般を通じた男女共同参画の推進 ２．男女共同参画の意識啓発 ３．女性教職員に対する労働環境支援

１．教育活動を通じた男女共同参画の推進

・在学生のキャリア支援のための施策実施

2025 年 6 月に 1 年生向け，2025 年 10 月に 4 年生向けの講演会を行った。1 年生向けの講師は本校 OB の藤澤特任准教授(コロプラ所属)であり，自身の学校生活からキャリアに関する事や，モチヴェーションの上げ方などについて講演をして頂き，多様な社会で自分なりのキャリアを築いていく事について学んだ。4 年生向けの講演会の講師は本校 OG の森田久美子さん（Waffle所属）であり，国際社会における理系女性の活躍などについて講演頂き，学生への意識改革を行った。

・女子中学生の入学支援施策実施

入試広報室と連携を取り，女子中学生向けのリーフレットを、在学生（1，2 学年）の協力を得て，配布した。

夏及び秋のオープンキャンパスにおいて，在校生による質問コーナーや座談会を実施した。。

・在学生へのアンケートによる認知および希望調査の実施

2025 年に学生アンケートを実施し。推進室の活動のうち重要と考えるものについて選択してもらったほか、自由記述で必要な設備、対応等について意見を募った。自由記述の内容について関連の委員会にそれぞれ情報を共有し、対応を依頼した。また結果について本校HPにて公表した。

２．男女共同参画の意識啓発

・ダイバーシティ関連講演会の実施

2026 年 3 月に，教職員向けの講演会を行った．講師は森瞳さん，小松原さん（いずれも TGP 所属）で，思春期の学生に向けた性教育の大切さや，具体的な指導内容などを講演して頂いた。

・学生向け，教職員向けダイバーシティ関連イベントの案内

高専機構や外部団体から連絡のあった各種イベントなどについて，学生や教職員に対して掲示物，及びメールにて適宜情報発信を行った。

・男女共同参画関連　web site の充実

本校 web site に男女共同参画推進室のページを開設されており，学内教職員，一般向けにも必要な情報が入手できる構成となっている。本年度の実施イベントやアンケート結果について掲載した。

３．女性教職員に対する労働環境支援

・女性教職員対象　労働環境意見収集

教職員からの意見は適宜収集し，関係する部署へ連絡を行っている．

・教職員体験実習の実施

11 月に 1 名の受入を行った。研究職への就職を視野に入れている修士の学生であった。現在は金工大に所属している．

４．その他

・教職員労働環境支援　休日勤務における校内一時保育

R6 に引き続き、教職員に対する環境支援の一環として、祝日、休日の業務日における学校での一時保育を実施した。本年度は 2026 年 2 月 8 日（学力選抜試験、日曜日）に行った。

・GCON2025 参加支援
R3 より開始された高専 GCON に 1 チームがエントリーし，この活動を支援した。

令和７年度　ダイバーシティ推進室の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の４段階で行う。

（１）取組結果報告に基づく評価

重　点　項　目	活　動　等　計　画	評価	根拠・確認 事項
１．教育活動を通じた男女共同参画の推進	・在学生のキャリア支援のための施策実施	◎	・第 1,2,5 回男女共同参画推進室会議　議事抄録 協議題 ・第 3,4,6 回男女共同参画推進室会議　議事抄録 報告 ・Web サイトへの掲載（R7.6.27 配信,R7.10.22 配信）
	・女子中学生の入学支援施策実施	◎	・第 1,2,3,6,10 回男女共同参画推進室会議　議事抄録 協議題 ・第 3,4,5,6 回男女共同参画推進室会議　議事抄録 報告
	・在学生へのアンケートによる認知および希望調査の実施	○	・第 1,2,3,7,10,11 回男女共同参画推進室会議議事抄録 協議題 ・第 3,4,5,6 回男女共同参画推進室会議　議事抄録 報告
２．男女共同参画の意識啓発	・ダイバーシティ関連講演会の実施	◎	・第 8,10,11 回男女共同参画推進室会議議事抄録 協議題 ・Web サイトへの掲載（R8.3.17 配信）
	・学生向け、教職員向けダイバーシティ関連イベントの案内	◎	・教職員グループウェアの掲示板等で案内（R7 年度中に 17 件掲載）
	・男女共同参画関連 web site の充実	◎	・Web サイトの運営・男女共同参画に関するトピックスの更新 ・第 10 回男女共同参画推進室会議議事抄録　協議題
３．女性教職員に対する労働環境支援	・女性教職員対象労働環境意見収集	×	・会議抄録等に記録なし
	・全教職員アンケート（1. のアンケートに準ずる）	×	R6 年度分の集計結果に対する報告 ・第 1 回男女共同参画推進室会議議事抄録 報告
	・教職員体験実習の実施	◎	・第 2,4,5,6,7 回男女共同参画推進室会議議事抄録 協議題 ・第 7 回男女共同参画推進室会議議事抄録 報告

４．その他	・教職員労働環境支援 休日勤務における校内一時保育	◎	・第 7 回男女共同参画推進室会議議事抄録 報告
	・GCON2025 参加支援	○	・第 3 回男女共同参画推進室会議 議事抄録 報告

（2）次年度への提言

・本校 HP の女子学生の活躍などを紹介するページの更新が長い間行われておらず，卒業生に声をかけて記事を書いて貰う制度作りが必要である.

・女性教職員を対象とした労働環境意見収集について，寄せられた意見の件数やその内容を定期的に会議の議題や報告事項に挙げ，意見交換等の記録を残していく必要がある.

2-12 進路支援室

令和７年度　進路支援室の重点項目への活動計画

委　員　会	担当	重　点　項　目
進路支援室	進路支援室長	１．各種講演会の実施 ２．進路担当教員とキャリアコーディネーターとが連携した進路支援 ３．進路関連情報の提供、収集と分析

１．各種講演会の実施
- ・低学年向けの講演会の実施
- ・４年生向けの講演会の実施
- ・専攻科生向けの講演会の実施

２．進路担当教員とキャリアコーディネーターとが連携した進路支援
- ・進路セミナーを通じた進路支援
- ・応募書類作成支援および面接対策

３．進路関連情報の提供、収集と分析
- ・学生への進路関連情報の提供
- ・進学希望者および就職希望者の合格・不合格情報の収集および分析

令和７年度　進路支援室の重点項目への取組結果報告

委　員　会	担当	重　点　項　目
進路支援室	進路支援室長	１．各種講演会の実施 ２．進路担当教員とキャリアコーディネーターとが連携した進路支援 ３．進路決定情報の収集および分析

１．各種講演会の実施

・低学年向けの講演会の実施

【実施内容】3 年生進路セミナーの実施（11/5、キャリアコーディネーターによる講演）

・４年生向けの講演会の実施

【実施内容】4 年生進路セミナー①（10/1、キャリアコーディネーターによる講演）
4 年生進路セミナー②（11/12 進学・19 就職、キャリアコーディネーターによる講演）
4 年生進学説明会（12/10、大学等入試広報担当教員による講演）
4 年生卒業生講演会（12/4、本校卒業生等による講演）
進路講演会の実施（2/21、進路支援室長、学校カウンセラーによる講演）

・専攻科生向けの講演会の実施

【実施内容】専攻科進路セミナーの実施（8/6、キャリアコーディネーターによる講演）

２．進路担当教員とキャリアコーディネーターとが連携した進路支援

・進路セミナーを通じた進路支援

【実施内容】3 年生進路セミナーの実施（11/5、再掲）
4 年生進路セミナー①②Ⅲ（10/1、11/12・19 再掲）
専攻科進路セミナーの実施（8/6、再掲）

・応募書類作成支援および面接対策

【実施内容】進路担当教員やキャリアコーディネーター等による応募書類の作成支援、
模擬面接練習の実施、進路相談の実施

３．進路決定情報の収集および分析

・学生への進路関連情報の提供

【実施内容】就職・進学情報の収集及び展開
過去問・面接試験情報の収集及び展開
各種イベント開催案内の周知

・進学希望者および就職希望者の合格・不合格情報の収集および分析

【実施内容】進路決定状況の集約、運営会議における報告
進路支援室と学級担任、専攻長との情報共有
進路説明会（2/21）における進路決定状況報告
進路決定状況の分析

令和７年度　進路支援室の重点項目への取組結果の点検

進路支援室において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の４段階で行う。

（１）取組結果報告に基づく評価

重　点　項　目	活　動　等　計　画	評価	根拠・確認 事項
１．各種講演会の実施	・低学年向けの講演会の実施	○	R7 進路指導報告書
	・４年生向けの講演会の実施	◎	R7 進路指導報告書
	・専攻科生向けの講演会の実施	◎	R7 進路指導報告書
２．進路担当教員とキャリアコーディネーターとが連携した進路支援	・進路セミナーを通じた進路支援	◎	R7 進路指導報告書
	・応募書類作成支援および面接対策	◎	R7 進路指導報告書
３．進路決定情報の収集および分析	・学生への進路関連情報の提供	◎	R7 進路指導報告書
	・進学希望者および就職希望者の合格・不合格情報の収集および分析	○	R7 進路指導報告書

（２）次年度への提言

・低学年向けの講演会

低学年での進路支援は、単に進路をみつけるというより、学習の強い動機付けにもなります。先輩によるローモデルとしての講演会とともに、活躍している卒業生の講演会を実施すると共に、進路に向けた研修をより早い時期に行うことが望ましい。

・進路決定情報の収集および分析

「合格実績の詳細分析」の過去数年分を取りまとめ、効果的な進路指導法を検討してほしい。

2-13 入試広報室

令和７年度　各委員会の重点項目への活動計画

委　員　会	担当	重　点　項　目
入試広報室	入試広報室長	１．オープンキャンパス・各種行事 ２．学校説明会 ３．入試広報手段の改善検討

１．オープンキャンパス・各種行事
- ・オープンキャンパス（7/5(土)）による入試広報
- ・その他の各種行事の入試広報
  - ・授業公開（前期・後期）の中学生参観
  - ・工嶺祭（10/18(土)・19(日)）との連携

２．学校説明会
- ・学校説明会の充実
- ・長野高専会場での学校説明会の開催
- ・他の地域での学校説明会の開催を検討
- ・オンライン学校説明会の開催（5～12 月、月 1 回程度、オープンキャンパスの月は無し）
- ・中学校訪問
- ・中学校主催の講演会への参加（教員または学生）
- ・本校学生（主に 1 年生）による中学校訪問の検討
- ・KOSEN　FES への参加

３．入試広報手段の検討
- ・広報ポスターの作成
  - ・入試以外のイベント情報も記載し，通年で広報
- ・中学校以外（塾や企業など）への広報展開の検討

令和７年度　入試広報室の重点項目への取組結果報告

委　員　会	担当	重　点　項　目
入試広報室	入試広報室長	１．オープンキャンパス・各種行事 ２．学校説明会 ３．入試広報手段の改善検討

１．オープンキャンパス・各種行事

・オープンキャンパス（7/5(土)）による入試広報

オープンキャンパスを実施し，新規に2テーマ(LAおよびソーシャルイノベーション・サポートセンター)を追加。中学生・保護者の参加者：合計624名。

秋の授業公開中(11/3(月祝))に，秋のオープンキャンパスを実施(参加者：224名)。

・その他の各種行事の入試広報

・工嶺祭（10/18(土)・19(日)）との連携

工嶺祭実行委員会と連携し，1日2回，計4回(計116名)の学校説明会の実施。

２．学校説明会

・学校説明会の充実

・長野高専会場での学校説明会の開催

中学生向けの学校説明会は，9/7(日)に実施(参加者：49名)。

中学校教員向けの進学説明会(オンライン併設)は，8/8(金)に実施(計89名)

・他の地域での学校説明会の開催を検討

後援会と連携し，前年度4会場(松本・佐久・諏訪・飯田)に、新たに上田会場を加えて、計5会場で実施(計66名)。

・オンライン学校説明会の新規開催

オンライン会議ツール(Teams)を利用し、5～12月に合計6回開催(計117組)。

・中学校訪問

・中学校主催の講演会への参加（教員または学生）

教員2名，学生8名を派遣(計10件)。

・本校学生（主に1年生）による中学校訪問の検討

男女共同参画推進室と連携し，中学校訪問を実施。

３．入試広報手段の検討

・広報ポスターの改善

入試以外のイベント情報も記載し，通年で広報

・中学校以外（塾や企業など）への広報展開の検討

上記広報ポスターを技術振興会会員企業(約400社)へも配布。塾にも配布して掲示依頼。

・SNS(LINE)による広報活動の新規対応

LINE公式アカウントの開設(10月)。各種イベントでの友だち登録の勧誘(計55名)。

令和７年度　入試広報室の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の４段階で行う。

（１）取組結果報告に基づく評価

重　点　項　目	活　動　等　計　画	評価	根拠・確認 事項
・　オープンキャンパス・各種行事	・　オープンキャンパス（7/5(土)）による入試広報	◎	2025/4/11 入試広報室会議議事メモ 2025/5/16 入試広報室会議議事メモ 2025/7/25 入試広報室会議議事メモ
	・　その他の各種行事の入試広報	◎	2025/10/9 入試広報室会議議事メモ
学校説明会	・　学校説明会の充実	◎	2025/4/11 入試広報室会議議事メモ 2025/5/16 入試広報室会議議事メモ 2025/6/20 入試広報室会議議事メモ 2025/7/25 入試広報室会議議事メモ 2025/9/12 入試広報室会議議事メモ 2025/10/9 入試広報室会議議事メモ 2026/3/25 入試広報室会議議事メモ
	・　中学校訪問	○	2025/5/16 入試広報室会議議事メモ 2025/6/20 入試広報室会議議事メモ 2025/7/25 入試広報室会議議事メモ 2025/9/12 入試広報室会議議事メモ 2025/10/9 入試広報室会議議事メモ
入試広報手段の検討	・　広報ポスターの作成	○	2025/5/16 入試広報室会議議事メモ 2025/7/25 入試広報室会議議事メモ 2025/9/12 入試広報室会議議事メモ 2025/12/3 入試広報室会議議事メモ 2026/1/7 入試広報室会議議事メモ

	・ 中学校以外（塾や企業など）への広報展開の検討	○	2025/7/25 入試広報室会議議事メモ

（2）次年度への提言
・多くの入試広報活動を行っており、今後も継続的な運営が望まれる。
・費用対効果を考え、実施するもの実施しないものの選別が必要である。

2-14 教育改善委員会

令和 7 年度　教育改善委員会の重点項目への活動計画

委　員　会	担当	重　点　項　目
教育改善委員会	委員長	1．各種委員会の活動状況の点検 2．授業改善システムの実施と評価・点検 3．FD 研修会の企画・開催と評価 4．エビデンス収集・保管

1．各種委員会の活動状況の点検
・委員会の活動重点項目の確認
・活動結果の把握および点検

2．授業改善システムの実施と評価・点検
・授業改善システムの実施
・授業改善システムの点検、評価

3．FD 研修会の企画・開催と評価
・FD 研修会の企画と実施
・FD 研修会の実施後点検、評価

4．エビデンス収集・保管
・エビデンス収集・保管の実施

令和 7 年度　教育改善委員会の重点項目への活動報告

委　員　会	担当	重　点　項　目
教育改善委員会	委員長	1．各種委員会の活動状況の点検 2．授業改善システムの実施と評価・点検 3．FD 研修会の企画・開催と評価 4．エビデンス収集・保管

1．各種委員会の活動状況の点検
・委員会の活動重点項目の確認をした
・活動結果の把握および点検をした

2．授業改善システムの実施と評価・点検
・授業改善システムの実施をした
・授業改善システムの点検、評価をした

3．FD 研修会の企画・開催と評価
・FD 研修会の企画と実施をした
・FD 研修会の実施後点検、評価をした
・FD 研修会の効果について前年度内容について評価した
　FD 研修の効果については時間が必要と考え、前年度の効果について検討することにした

4．エビデンス収集・保管
・エビデンス収集・保管の実施をした

令和７年度　教育改善委員会の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の４段階で行う。

（１）取組結果報告に基づく評価

重　点　項　目	活　動　等　計　画	評価	根拠・確認 事項
１．各種委員会の活動状況の点検	・ 委員会の活動重点項目の確認は、年度のはじめに教育改善委員会で年度の計画を確認し、6月に各委員会・センターなどに計画書作成の依頼を行った。	◎	校内メール 5月２３日（依頼）
	・ 活動結果の把握および点検は、3月上旬に報告を作成するよう依頼した。3月上旬から点検評価を行った。9月のフォローが十分ではなかった.	○	校内メール 3月6日（報告書提出）
２．授業改善システムの実施と評価・点検	・ 授業改善システムの点検、評価は、授業改善システムに基づく点検を8月下旬から10月に実施した。一部資料がそろっていなかったため、10月末提出となった。来年度は9月末回収としたい。	○	令和７年第２回教育改善委員会議事概要　議題４ 令和７年第３回教育改善委員会議事概要　議題２ 令和７年第４回教育改善委員会議事概要　議題１
３．FD研修会の企画・開催と評価	・ FD 研修会は、教務委員会、教学IR室，学校いじめ対策委員会と共催で4回実施した。	◎	令和７年第２回教育改善委員会議事概要　議題１ 令和７年第３回教育改善委員会議事概要　報告１ 令和７年第４回教育改善委員会議事概要　議題８ 令和７年第５回教育改善委員会議事概要　報告１ 令和７年第６回教育改善委員会議事概要　報告１
	・ FD 研修会の実施後点検、評価として、アンケートを実施し報告書の作成を行っている。本年度は、参与会で指摘された「FD効果の計り方」として、実施した FD 研修の報告書をメールで添付し自薦を呼び掛けた。3月下旬にFD総括アンケートを実施した。	○	令和７年第６回教育改善委員会議事概要　報告２
４．エビデンス収集・保管	・ エビデンス収集・保管を前期期末と学年末・再試後に実施した。	◎	令和７年第１回教育改善委員会議事概要　議題３ 令和７年第２回教育改善委員会議事概要　議題２ 令和７年第３回教育改善委員会議事概要　議題３ 令和７年第４回教育改善委員会議事概要　議題７ 令和７年第５回教育改善委員会議事概要　議題１ 令和７年第６回教育改善

			委員会議事概要　議題 1

（2）次年度への提言

- 点検の時期が遅れないようにスケジューリング管理が重要である。
- 各委員会の重点事項のフォローアップを正確に行う必要がある.
- 実効性のある点検のため、組織の変更や点検方法・点検時期は委員会で話し合い柔軟に対応することが大切である.
- FD 研修の効果の計り方を、改良しながら適切な検討を行うことが重要である。
- FD 研修会の効果についての検討が前年度となっているが、委員会での検討する必要がある。
- 教育改善報告書の作成が遅れている。関係各所と連携し、早急に提出できるようにすることが望まれる。

3．令和 7 年度における各種点検報告

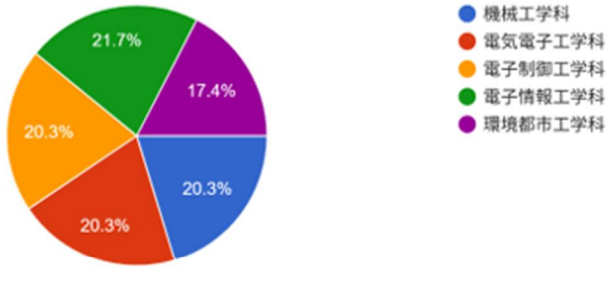
3-1 学習・教育目標の達成度に関する調査報告書の点検

令和 7 年度学習・教育目標の達成度自己評価調査票は教務委員会によりアンケートを実施し，集計結果が教務委員会および専攻科運営委員会で報告された.

3-1-1 本科 5 年のアンケート調査

・アンケートの実施
・アンケート結果の集計
データは付録 1 に示す．教務委員会でデータの考察はしていない.
データのグラフの抜粋を示す.

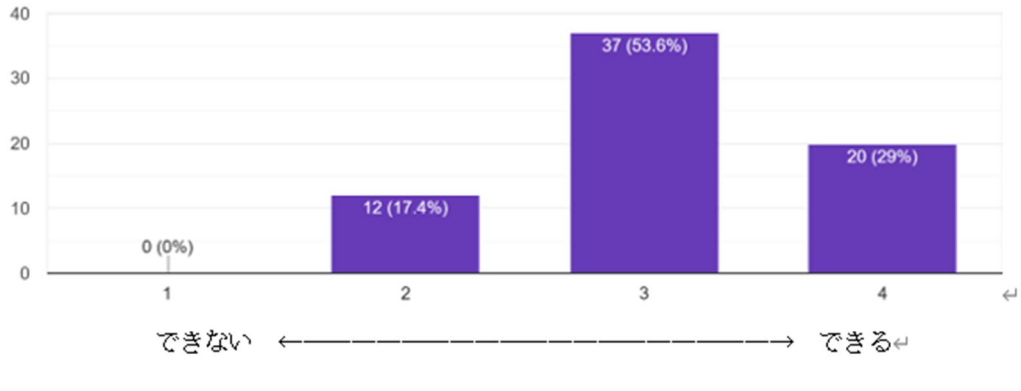
回答者：69 名（回答率 37.5%、184 名中）



（機械：14 名、電気電子：14 名、電子制御：14 名、電子情報：15 名、環境都市：12 名）

(1) 学習・教育到達目標(A) の達成度

世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。



【分析】
・学習・教育到達目標(A)～(G)ともに 3 または 4 と回答した学生は 80%を超えた。中でも、(B)、(C)、(D)については 4 と回答した人数が 3 と回答した人数を超えており、良好であった。
・学習・教育到達目標(A)については、4 と回答した学生は 20 名（29.0%）と低く、2 または 3 と回答した学生は 49 名（71.0%）となった。リベラルアーツ教育の一層の充実が望まれる。
・令和 6 年度の結果と比較して、学習・教育到達目標(D)について、3 の割合に対して 4 の割合が高くなった（令和 6 年度：3 が 53.6%、4 が 36.6% ⇒ 令和 7 年度：3 が 40.6%、4 が 43.5%）。令和 7 年度の学生は比較的成績が良好であったことから、専門科目の自己評価が高くなったと考えられる。

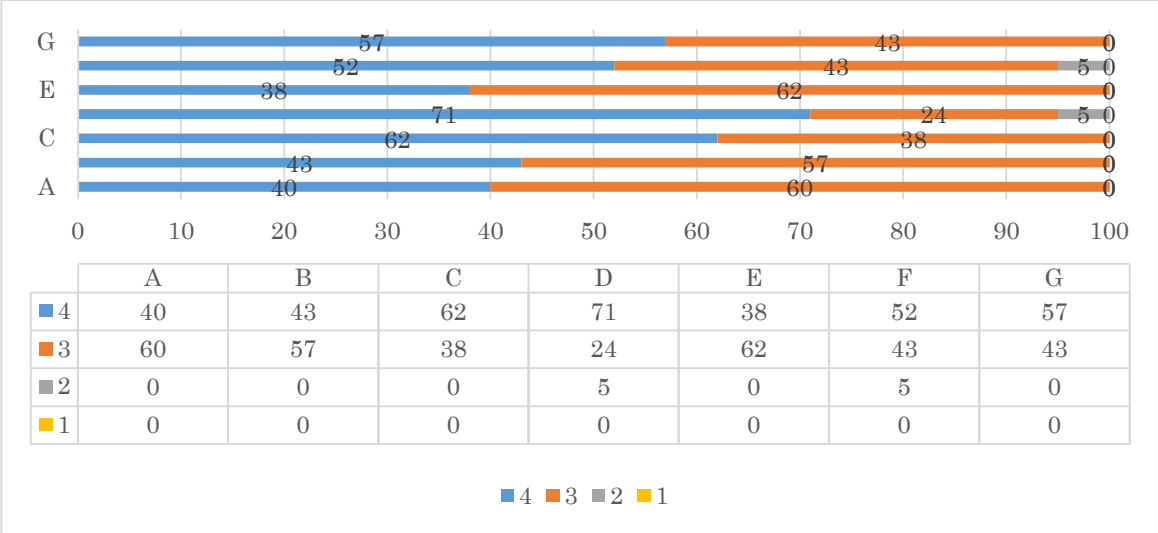
3-1-2 専攻科のアンケート調査

・アンケートの実施

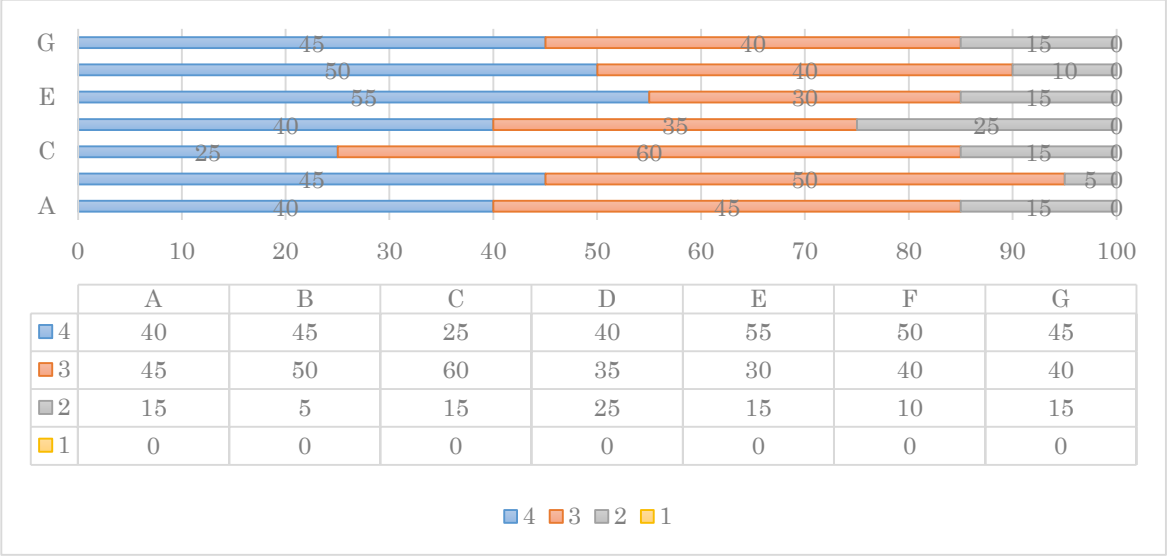
・アンケート結果の集計

データは付録 2 に示す．集計結果のグラフのみ抜粋して以下に示す．専攻科運営委員会のデータ集計のコメントから分析を行う．

学習・教育目標の達成度評価確認の集計結果　＜上：本年 R7，下：昨年 R6＞



	A	B	C	D	E	F	G
4	40	43	62	71	38	52	57
3	60	57	38	24	62	43	43
2	0	0	0	5	0	5	0
1	0	0	0	0	0	0	0



	A	B	C	D	E	F	G
4	40	45	25	40	55	50	45
3	45	50	60	35	30	40	40
2	15	5	15	25	15	10	15
1	0	0	0	0	0	0	0

【分析】

- 回答数は 21 件であり，回答率は 81%にとどまった．
- アンケート結果は，4 優秀（すばらしい）3 良（よい）2 可（さらに努力を要する）1 不可（不十分）で集計している．学習教育目標の B 以外の項目について，3 以上の自己評価を付けた学生が昨年度と比べて増加したことが確認できる．
- 学習教育目標の C・D について，4 優秀（すばらしい）と回答した学生が大幅に増加した．
- ルーブリック形式による自己達成度評価と教科ごとに集計された自己点検評価の相関から，学生がルーブリック形式での評価の際に，自己を厳しく評価していると考えられる．ルーブリック形式でアンケートを行う際に，意図せず厳しい評価を付けてしまうような形式になっていないか，設問の表現等を点検するとよいと考えられる．

3-2 学生との意見交換会に関する点検

学生との意見交換会が昨年に続き，令和 7 年 7 月 14 日(月)に行われた.
学生会で事前に全学生を対象に実施したアンケートにおいて、意見や要望があった事項について意見交換した。

以下に、学生より学校への意見・要望を学生会がまとめたもの（丸数字）と，学校側の回答を示す。
【1. 学校生活・行事・交流に関する要望】
① 学校行事をもっと増やしてほしい。
⇒ 学事暦がいっぱいいっぱいという状況もあり厳しい感じがしています。具体的にどのような行事を望んでいるのか提案をお願いします。

② 低学年のうちに進路に関する学年集会などを開いてほしかった。編入試験などはどんな内容が出題されるのか、TOEIC はどのくらい重要なのか、推薦で行ける大学はどんなところがあるのかなど早いうちに知っておいて損はないと思う。もっと早く知ることができていればこんな苦労はしなかったと思う。
⇒ 編入学試験に関する情報については、各大学で公開している募集要項が最新情報になります。また、過去の先輩方の受験記録（進学試験報告書）は進路支援室に保管しています。出題範囲やTOEICスコアの取り扱いについては募集要項に書かれています。進学希望の皆さんは積極的に情報収集していただければと思います。
今回意見をいただいた方が現 5 年生だった場合には、1・2 年次には合同特活等で進路に関する情報提供する機会は少なかったかもしれません。申し訳ありません。3 年前から改善を図り、1・3・4 年次で進路セミナーを実施して、先輩からの受験体験談を聞いていただくとともに、進路決定状況や学校推薦要件等の説明をさせていただいています。
【2. 時間割・授業に関する要望】
③ 授業・空きコマ・空きコマ・授業のような日課をなくしてほしい。
⇒ おそらく機械工学科 5 年生の金曜授業かと思われます。担当教員の授業実施状況、教室の空き状況等を踏まえて時間割を編成していますが、学生の利便性を考えた調整は行えていません。案ができた段階で、学級担任等が授業の組み合わせをみて入れ替えをすることは不可能ではないですが、希望が叶わない可能性があることをお許しください。5 年生は空きコマの時間は是非卒業研究に取り組んでください。

④ 土曜日授業の際の振替がほしい。代わりに夏休み削ってもいいのでお願いします。
⇒ 本年度の前期は 4 月 9 日（水）～8 月 1 日（月）に授業を行っていますが、4 月 26 日（土）に火曜授業（授業公開）に設定して、やっと全曜日 15 週を確保している状況です。入寮を休日に設定し、入学式を月曜日に実施する制約もあり、前期内に振替休日を設定することは厳しいです。
実現する方法として、入学式を前倒しする、クラスマッチを土曜日にする、などが考えられます。夏休みを削ることについては、多少なりとも 4 年生の実務訓練の実施に影響があるため、厳しいと考えています。

⑤ 同じ授業でも先生によって授業のわかりやすさやテストの難易度が異なっているので、できる限り同じような授業内容になるようにしてほしい。
⇒ 具体的に対応したいと考えていますので、教務主事まで当該科目をお知らせください。

⑥ ただ先生たちが 90 分スライドを使って喋り続けるような授業をなくしてほしいです。誰も聞いていないし、教育としてどうなのかなと思います。学校全体的にもうちょっと教育のレベルを上げてほしいです。
⇒ 一方的な講義ではなく、学生からの発言してもらう機会を設ける、演習の実施など、双方向型の授業が実施できるように努めたいと思います。具体的に対応したいと考えていますので、教務主事まで当該科目をお知らせください。

【3. 校内設備・インフラに関する要望】
⑦ 教室の名前（呼び方）を前の名前に戻して欲しい。(A104 などではなく、11 番教室、1 ゼミ、100 番教室など) 2 ヶ月間過ごしてみたが、新しい名前を使っている人はほとんど見たことがなく、

皆去年までの教室の名前を使っているし、何よりも今の教室の名前（呼び方）は非常に分かりづらく、名前を聞いた時にすぐに判別できないし、先生、学生で新しい名前になって得をしている人を見たことがないため。
⇒ 外から学校に来ると今の呼び名のほうがわかり易いと思います。B501 であれば B 棟の 5F であることがわかります。慣れかと思います。

⑧ 先生の教員室がどこか分からないので一覧のマップ等が欲しいです。
⇒ 学生便覧 pp.145-150 に掲載しています。

⑨ お昼時の学食の券売機の列が常に長いので、券売機を増やすことや、オンラインで完結するサービスを検討していただきたく存じます。
⇒ 増えた券売機を食堂に置くことでしょうから，混雑緩和の意味はないと思います。増えた券売機の間で販売する食事の総数の管理が難しいです。オンラインはシダックスとは別の業者が提案してきたそうです。しかし，シダックスはやらないとのこと。食事のメニューと買った人の対応が大変なのではないでしょうか。

⑩ 校門を出てすぐの路面(高専の敷地内だと思われます)の凹凸が激しく、雨天時に水が溜まり歩きにくいです。また、自転車で通る時もガタガタしてしまいます。改善されるととてもありがたいです。
⇒ （施設からの回答）ガタガタするということはスピードを出し過ぎています。昔の門のレールがあることで不格好ではありますが，整備の優先度は低いとのことです。校内の路面の悪いところを直すのを優先したいとのことです。

⑪ 体育館へのクーラーの導入を検討していただきたい。年々夏の気温・湿度が高くなっており、体育の授業や部活動にて熱中症になるリスクが非常に高いため。
⇒ スポットクーラーを購入の予定です。

⑫ 学生が個人でものづくりをしたい時に使うことができる設備やソフトウェアはあるのでしょうか？特に 3D プリンタや 3DCAD のライセンスなどについて教えて頂きたいです。
⇒ 3D プリンタについては、ソーシャルイノベーション・サポートセンターで利用することが可能です。0 棟 3 階事務室でご相談ください。現在、全学生に向けて利用案内を発信するよう依頼中です。
3DCAD（SolidWorks）については、情報教育センターの端末にインストールされており、利用することが可能です。もし BYOD パソコンで利用したい場合には、自学自習用ライセンス（Student Premium）を配布することが可能です。詳細については MR 系長の先生にご相談ください。

⑬ エアコンの設定温度をもう少し自由にしてほしいです。今のままだと暑くて授業に集中できないです。
⇒ （施設からの回答）
窓側のブラインドを下げる，ドアを開け放しにしないなどして工夫はできると思います。

⑭ 先生方の教員室前に「授業中」「会議中」などの表示があると、学生としてとても助かります。やってくださっている先生もいて便利なので、ぜひ広げてもらえるとうれしいです。
⇒ （キャンパスマネージメント委員会で）
先生方の努力で実現できると思います
行先表示板（授業、会議、一時外出、退出、校内・・・・等がわかる）を統一して購入し、教員室に貼ってもよいかもしれません。

⑮ プリンタの場所について、情報教育センターは学生の居住スペースから遠いため、図書館２階など一般科棟から近い場所に設置してほしい。
⇒ 消耗品の管理の関係と、情報関係の授業直後に印刷することを想定して、情報教育センター玄関付近に設置しています。他の授業（実験報告書等）で利用したい希望がある場合には、所属する系長に要望を出してください。

⑯ 校内学習塾のスペースを教室にしないでほしい。1,2 組だけ教室使われて不平等だと思う。テス

ト期間は部活ないはずなので、2,3 ゼミ室とか共用教室とかでやってほしい。
⇒ 昨年度の意見交換会で出た要望を踏まえて、L203・204 ゼミ室、L206 視聴覚室、C203 ゼミ室、0202 講義室で実施するように改善しました。ただし、一部教室が不足するため、前期期末試験に向けた校内学習塾では A116 講義室（1-4HR）を使用する予定です。

⑰ 仮眠スペースがほしいです。
⇒ 学校としては不要と考えます。必要な理由を教えてください。

【4.校則に関する要望】
⑱ 1～3 年生もアルバイトを許可してほしい。学業を優先する必要があることが禁止の理由なのであれば、B ラン以上は許可などの措置を設けるのはどうだろうか。そのほうが学習意欲向上するだろうし、バイト OK のほうが入試倍率も上がるのではないかと思う。
⇒ 1～3 年生の長期の休みの時にはアルバイトを許可しています。それで十分だと思っています。長期休みでない，授業がある時期にアルバイトをして学習意欲が向上するという例を見たことがありません。むしろ下がるとか，学校行事に参加しなくなるといった例をよく見ます。
※できるとしても、平均点が 70 点以上など、少し高めの設定をする方法が考えられますが、管理が大変なので、従来通りで良いかと思っています
（今回、B ランクでも 70 点未満のクラスがあるため）

⑲ 校則でボードゲームが禁止とされていますが、現在は特に取り締まりが行われていない状況です。実際、ボードゲームは学生同士の交流にもつながる良い面もあると思うので、禁止を続けるなら理由を明確にしていただきたいですし、取り締まりをしないのであれば校則の見直しも検討していただけるとうれしいです。
⇒ どこでボードゲームをするのでしょうか。学校はまず学習の場であることについては，異論はないでしょう。あなた方が，レポートを書いていたり，次の日の予習をしていたりする横でボードゲームをしている人がいたらどう思うでしょうか。ボードゲームをやっている学生同士の交流につながるかもしれませんが，そうでない人との間では断絶につながることにもなりかねません。そのようなものを学校が学内で積極的に許可することはありえないでしょう。取り締まりが行われていないのは，取り締まりをやらなくてもわかるだろうと思っているからです。人の迷惑を言われないとわからない人たちだとは思っていないのです。

貴重な学生と学校側の意見交換の機会である。
結果を新旧の学生支援委員や各系の会議などで周知することが大切と考えられる。

3-3 令和７年度参与会で出された改善点の整理

令和8（2026）年2月26日（木）に第22回長野高専参与会が実施され，その概要が報告書「第22回長野工業高等専門学校参与会議事概要」にまとめられている．この報告書の内容に基づき，本校が今後取り組むべき課題は何か，以下に報告する．

１．参与会の概要

（１）出席者

・参与会のメンバー　→　6名

・本校関係者　→　校長 他24名

（２）協議題

・受験者数・入試広報への取組

・新系設置構想

・自己点検

・機関別認証評価受審報告

・いじめ対策について

（３）議事内容

香山会長から、令和8年度の学科改組完成を見据えた重要な時期であるとの認識が示され、本会において教育研究の状況を共有し、忌憚のない意見交換を行いたい旨の挨拶があった。

その後，参与会設置要項第７条第１項の規定により香山会長が議長となり、次第に沿って議事が進行された。上記の協議題について本校担当者より配布資料に基づいた説明があり，その後質疑応答が行われ，参与会のメンバーよりいくつかの貴重な提言をいただいた．

２．今後の課題

参与会の質問・意見や要望を基にして，今後本校が取り組むべき課題を整理した．

(1) 受験者数・入試広報への取組：早期啓発の重要性、理系離れへの危機感、選抜基準の在り方、学生によるアプローチ

(2) 新系（物質・バイオ系）設置構想：産業界からの期待、適性見極めのプロセス、制度上のリスク、地域連携とエビデンス

(3) 機関別認証評価および自己点検：評価プロセスの確認、組織改善の評価

(4) いじめ対策の取組：被害者保護と情報の扱い、教職員の保護

なお，長野高専ホームページ　外部評価報告

http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/out/index.php

を参照されたい．

３．令和8（2026）年度の参与会からの要望等

令和8（2026）年度の第22回長野高専参与会が令和8（2026）年2月26日(木)に開催され以下の要望等を頂いた．

１） 受験者数・入試広報への取組

本校より、令和 5 年度以降の入試倍率の減少とそれに対する「入試広報室」の設置、SNS 活用、推薦選抜の出願要件緩和（理数系重視の新基準）について説明がなされた。

- **早期啓発の重要性**:「子供の意識は小学 5 年生頃には固まっている」との製造業トップの声を引用し、中 3 生メインの広報だけでなく、より早い段階で技術への関心を持たせる取り組みが不可欠であるとの指摘があった。
- **理系離れへの危機感**: 小学校の「算数嫌い」に始まり、特に「電子」などの名称が敬遠される現状に対し、高専が数学・理科の面白さを教える場をもっと提供すべきとの提言があった。
- **選抜基準の在り方**: 評定合計を重視する現在の基準では「大学編入を目指す優等生」ばかりが集まる懸念があるとし、他の教科が苦手でも「数学だけは凄い」「将来技術屋になりたい」という尖った才能を持つ学生を拾い上げるべきとの強い意見が出された。
- **学生によるアプローチ**: 学生が母校を訪問する際、単なる資料配布に留まらず、部活動への参加などを通じて「生の声」で魅力を伝える工夫が求められた。

２） 新系（物質・バイオ系）設置構想

本校より、「フードサイエンス」など地域ニーズを意識した 4 系体制への改組案と施設整備予算の

確保という課題について説明がなされた。

- **産業界からの期待**: 日本の製造業の真の強みは「加工」以上にレジスト等の「材料」にあり、化学・材料分野の強化は産業界のニーズに合致しているとの肯定的な評価があった。
- **適性見極めのプロセス**: 15 歳や 16 歳の早い段階で狭い専門に固定してしまうことへの危慮が示され、専門を見定めるための教育的配慮や、柔軟な発想を損なわないカリキュラムへの留意が求められた。
- **制度上のリスク**: 2 年進級時の系選択において、本意ではない系に配属された学生のモチベーション低下を懸念する声があり、制度が「入り口の魅力」を削いでいないか調査が必要との指摘があった。
- **地域連携とエビデンス**: 単なる「女子学生確保」という動機に留まらず、近隣高校との生徒の取り合いを避ける視点や、県内の具体的な需要、中学生の興味関心に関する裏付けデータを提示すべきとの意見が出された。

３）機関別認証評価および自己点検

本校より、7 年に一度の認証評価で「適合」判定を受けたこと、および地域連携のカスタマイズ化や外部資金獲得の現状が報告された。

- **評価プロセスの確認**: 自己点検の数値決定プロセスについて質問があり、担当部署の点検後に教育改善委員会で最終評価を固める体制が説明された。
- **組織改善の評価**: 前回の厳しい指摘事項に対し、7 年間かけて組織的な改善を積み重ね「適合」を得たことについて、敬意が表された。

４）いじめ対策の取組

本校より、組織的な対応体制と、些細な違和感を即時共有する「いじめの積極的な認知」の方針が示された。

- **被害者保護と情報の扱い**: 多くの教職員が情報を共有することによる弊害（プライバシー等）への懸念が示されたが、学校側からは「チームで組織的に対応し、最終的には校長が責任を持つ体制」であるとの説明があった。
- **教職員の保護**: 保護者からの過度な要求（カスタマーハラスメント）から教員を守るため、窓口の一本化や組織的な対応体制を教育委員会とも連携して構築すべきとの助言があった。

3-4 実施済研修会の効果の点検およびその改善

令和７年度は４回の FD 研修会を実施した。

3-4-1　研修概要

第一回
- 主　催：教育改善委員会
- 日　時：令和７年５月７日（水）　15:00～16:00
- 場　所：B501 大講義室
- 講　師：副校長（総務主事）　榆井 雅巳 教授
- 題　目：教育エビデンスと長野高専の自己点検規則
- 出席者：63 名（出席 48 名，動画視聴 15 名）

第二回
- 主　催：教務委員会・教学 IR 室・教育改善委員会
- 日　時：令和７年９月 10 日（水）13:00～15:00
- 場　所：B501 大講義室
- 講　師：副校長（教務主事）　渡辺 誠一 教授
- 題　目：CBT の利活用と学業成績の向上策について
- 出席者：約 50 名

第三回
- 主　催：学校いじめ対策委員会・教育改善委員会
- 日　時：令和７年 11 月 12 日（水）16:15～16:35
- 場　所：オンライン（Teams による配信）
- 講　師：研スクールソーシャルワーカー 青木 三枝子 氏
- 題　目：いじめ対策研修
- 出席者：約 55 名（このほかに後日録画視聴者）

第四回
- 主　催：教育改善委員会
- 日　時：令和８年１月 30 日（水）16:15～17:15
- 場　所：B501 大講義室
- 講　師：東京高専 多羅尾進教授、冨沢哲雄教授、津田尚明教授、水戸慎一郎准教授、山下晃弘准教授
- 演　題：社会実装教育の可能性―いくつかの実践例から―
- 出席者：69 名（出席 30 名、動画視聴 39 名）

本年度も昨年度と同じ４回の FD 研修会を実施した。校務や出張のため単一日時に大勢の参加者を揃えることは困難ではあったものの、録画ファイルを用意し視聴を促したことで、いずれの回も一定以上の人数に受講いただくことができた。実施報告およびアンケートの結果の詳細については、４章に掲載する。

3-4-2　FD 研修の効果の検討

昨年度 FD 研修の効果を計る評価手法の検討し、それに基づき今年度も実施した。

実施内容

1）FD 研修実施
2）参加者の FD アンケート（一週間後締め切り）
3）教育改善の担当委員が FD 報告書を作成
4）配布資料と報告書を教員へ配布（実践への呼びかけ）　のメールを実施
5）年度末に FD 総括アンケート Google フォームで実施

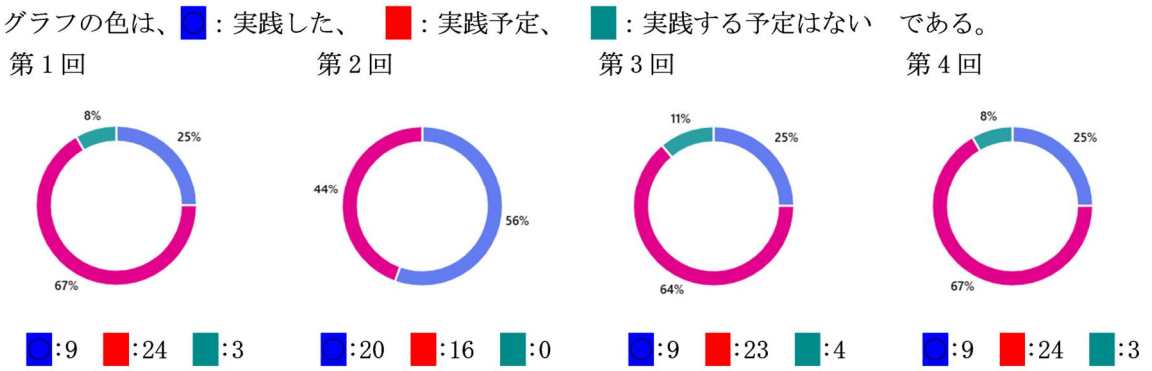
アンケート期間　令和７年４月４日(金)　～　４月 10 日(木) 12：00

アンケートの内容

FD 研修の実践効果を確認するためのアンケートです。ご協力ください。
R6 年度は下記の４回の FD 研修を実施しました。
報告書をご覧頂き研修会を振り返っていただき、各 FD 研修会の内容の実践状況をお教え頂きたく、アンケートにご回答ください。お忙しいところ、申し訳ございませんが、何卒よろしくお願い申し上げます。なお、4 月 10 日(木)　12:00　までにご回答いただきたくお願い

申し上げます。
forms で回答を回収
第一回
主　催：エンジニアリングデザイン入門（2 年生）担当者・教育改善委員会
日　時：令和 6 年 9 月 30 日（月）　16:15～17:00
講　師：みらいスタジオ　野村　泰暉 氏
題　目：学生のモチベーションを高めるメンタリングとは ？
～ 演習型科目におけるメンターの役割 ～
第二回
主　催：学校いじめ対策委員会・教育改善委員会
日　時：令和 6 年 11 月 13 日（水）16:15～16:35
講　師：スクールソーシャルワーカー　青木　三枝子　氏
題　目： いじめ防止と対策ポリシーといじめ防止等基本計画
第三回
主　催：教育改善委員会
日　時：令和７年１月２９日（水）　14:40～15:50
講　師：研究主事　田中　秀登 教授
題　目：地域連携について
第四回
主　催：教育改善委員会・グローバルエンジニア育成センター
日　時：令和 7 年 3 月 26 日（水）　14:00～14:50
講　師：リベラルアーツ教育院英語科　高桑　潤　教授
演　題：「英語リスニングの学習方法」

① 評価項目と結果
36 名から回答があった。
4 回の FD 研修に対して、研修の内容を「実践した・実践予定・実践する予定はない」で回答を求めた。



実践したが最も多いのは第 2 回のいじめ防止と対策ポリシーといじめ防止等基本計画で、各先生が一番身近に考えており、どのように実践したらよいか常に考えているためであると考える。第 4 回は研修会後 2 週間経っていない時のアンケートであり、実践予定が多かった。第 1 回目は後期科目であるエンジニアリングデザイン入門の話であり、これから実践する先生が多かった。
自分には余り関係なく、身近でないテーマの可能性がある場合は、実践する予定はないと考える先生もおり、研修内容や研修の意味をしっかり伝えていく必要を感じる。

② FD 研修の効果を確認する方法の提案やご意見
- 実践した事例の報告書を提出してもらい公開することで、他の方に研修会の効果が確認できる。
- この手の研修会は効果の数値化が極めて困難なものが多いと感じる。ただし、英語リスニング研修については、繰り返し実施するとともに、毎年、教職員向けに TOEIC 試験を受験してもらうことでトレンドが計測できると考えている。

- こちらの記憶力の問題ですが，正直な所，9 月と 11 月に参加した講演会の内容を覚えておりません.「効果を確認する方法」としてのアイデアではありませんが，効果を上げる手段として，講演会よりもワークショップをお願いしたいです.

貴重な意見をいただいた。今後の FD 研修や効果の計り方に活用していくと良いと思う。

3-4-3　次年度への提言

・FD 参加者を増やす方法を検討する。
・FD 研修を受けた後に、FD 研修の内容の実践のアンケートを入れ、
年度末の FD 総括アンケート比較することで、取り組みの変化が分かる。
・実践した事例の報告書を提出してもらう。

４．令和７年度 FD 研修会実施報告

4-1 第１回 FD　教育エビデンスと長野高専の自己点検規則

令和７年度第１回 FD 研修会 実施報告書

教育改善委員会

1. 研修会概要

日　　時　令和７年５月７日(水)　15:00～16:00
場　　所　B501 大講義室
題　　目　教育エビデンスと長野高専の自己点検規則
講　　師　副校長（総務主事）　楡井 雅巳 教授
聴講者数　63 名（出席 48 名，動画視聴 15 名）

2. 講演概要

①　エビデンスの整備・提出

- 令和５および６年度の「試験エビデンス」と「成績評価履歴」の未提出分を提出。
- 提出済みの場合も、内容に不備がないか再確認。
- 採点済答案の回収が完了していない場合は、最低限「試験問題」と「解答例」を提出。
- 提出済みの成績評価履歴と、シラバスに記載された評価項目・評価割合が一致しているか確認。内容に食い違いがある場合は、実際の評価履歴に合わせてシラバスを修正。

①　エビデンス作成および成績評価における注意点

- シラバスにて「〇〇等」といった曖昧な表現は避け、「試験」「課題」「小テスト」のように、評価項目を具体的に明記。
- 単なる「出席」を平常点とすることは、「下駄をはかせている」との解釈をされるため認めらない。授業への「取り組み状況」など、具体的な活動を評価対象とする。
- 成績評価は、シラバスの評価方法に記載された通りに行うことが大原則。やむを得ず変更する場合は、必ず受講学生に説明した上でシラバスを修正。
- 試験問題を作成する際は、前年度の試験問題との類似度を 70%以下にする。再試験や追試験についても、同年度の定期試験との類似度を 70%以下にする。

①　長野高専の自己点検・改善システム

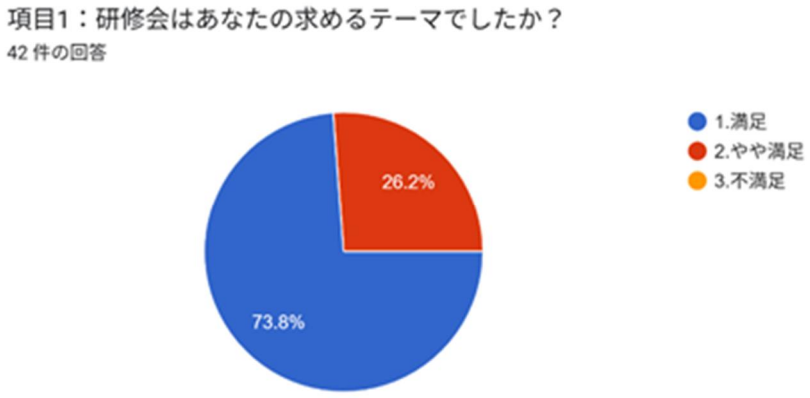
本校では、「教育の質保証のための各種点検・改善システムに関する申合せ」に基づき、教育の質を組織的に保証するための体系的な自己点検システムを運用している。このシステムは、学校運営や授業改善における PDCA サイクルを回すための仕組みであり、以下の点検システムから構成されている。

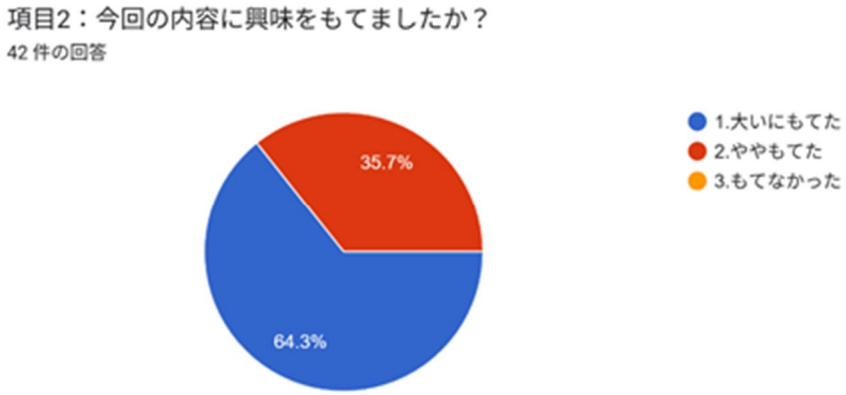
- 自己点検評価項目による点検システム
- 年度計画項目による点検システム
- 三つの方針の点検・改善システム

- 各委員会の重点項目の点検システム
- 授業改善システム
- 学生への支援体制点検システム

これらのシステムは、各委員会や教員、さらには卒業生や企業からのアンケートなどを通じて得られた評価・意見を学校運営や個々の授業改善に繋げることを目的としている。教育の質保証のためには、教員一人ひとりの協力が不可欠である。

3. アンケート結果





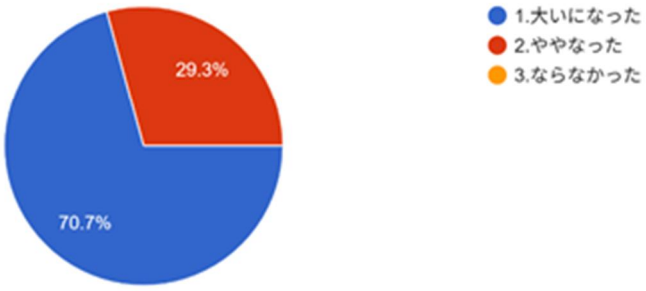
項目３：本日の外部講師授業に関してコメントあればお願いします（自由記述）

- 自己点検・評価表の評価項目が機関別認証評価に合わせてつくられていることに気づく良いきっかけを得ました。
- 採点した答案用紙を一旦返して解説をして，再度回収すれば，過去問中毒が緩和されると思います.
- 教育改善について概要を知っておくのが大切です。改善委員にならないと概要をしっかり認識していないのでとてもいい研修だと感じました。エビデンス・シラバスのことは忘れがちや、あいまいなことがあるので定期的に行っていただくのが良いと思いました。
- 録画データを見たが，一部音声が不鮮明であった
- 本来重要なテーマでしたが、意外にも取り上げられることがあまり無かったとのことで、再認識する上でとても有意義でした。

- 学校に迷惑をかけないように、しっかり自分の担当部分の見直しを行っていきたい。
- 具体例などがあるとなお分かりやすいように感じた
- 従来，エビデンス収集や試験問題の類似性確認について，十分に理解できていない点があったが，今回の研修で理解が深まった気がする．
- 長野高専として，様々な点検システムを回していかなければいけないことが確認できました．試験問題の類似度の基準はかなり厳しいものであると確認できました．
- 大変な作業にご尽力いただき、ありがとうございます。
- 機関別認証評価や本校の自己点検について先生方に知っていただけてよかった。

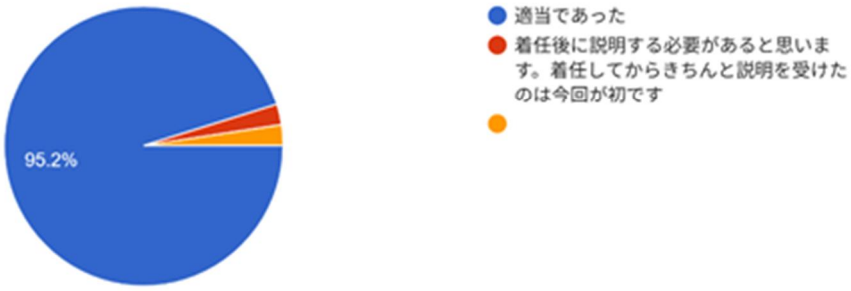
項目4：今後の教育活動の参考になりましたか？

41 件の回答



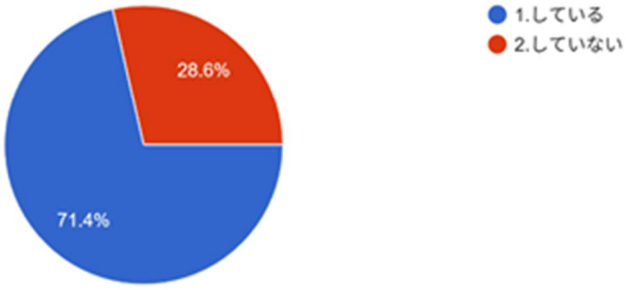
項目5：本テーマの開催時期として適当でしたか？

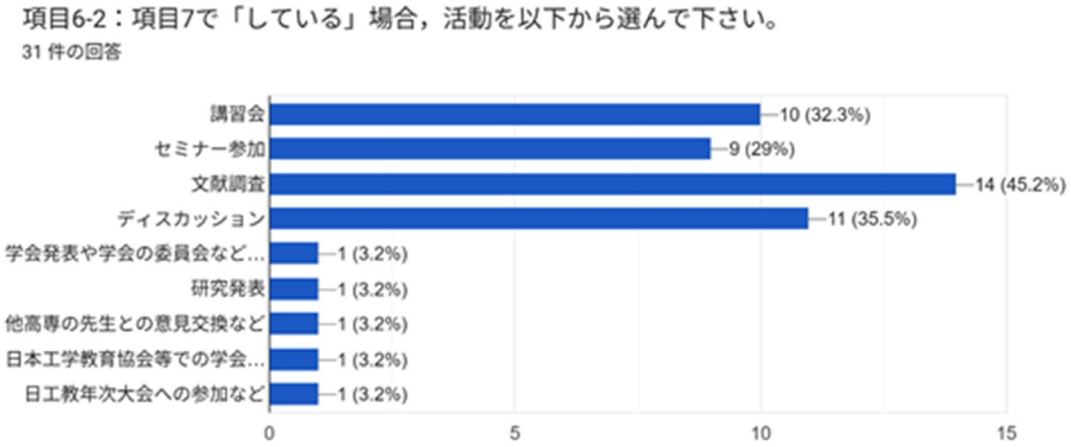
42 件の回答



項目6：あなたは学校が用意したFD以外に教育技術向上のための活動をしていますか？

42 件の回答





項目７：今後の FD 研修会に取り上げてほしいテーマ，ご希望，ご意見などありましたら，ご記入ください（自由記述）

- 工学教育（実習実験を含む）における様々な特性のある学生に対する配慮と、その周囲の学生に対する配慮（安全確保や教育の質保証）について、他機関での事例などご紹介いただければありがたいです。
- 科研費の採択自体は研究に直接結びつくが，研究と教育には，研究成果を授業に反映されるという意味で大きな関係がある．科研費の採択率を上げるための FD 研修会も開催して欲しい．
- 今後の FD 研修会に取り上げてほしいテーマ：全国の高専における入試広報活動と今後の動向
- 教育研究について
- デジタル採点システム「採点ナビ」
- 特にございません
- 情報機器や AI の授業での利用方法や事例紹介

以　上

4-2 第 2 回 FD　CBT の利活用と学業成績の向上策について

令和 7 年度 第 2 回 FD 研修会 実施報告書

１．研修会概要

主　催：教務委員会、教学 IR 室、教育改善委員会

日　時：令和 7 年 9 月 10 日（水）13:00～15:00

場　所：B 棟 5 階　B501 大講義室

講　師：教務主事　渡辺誠一　教授

題　目：CBT の利活用と学業成績の向上策について

出席者：約５０名

２．概要

CBT の利活用では、独自 CBT などの CBT の種類と特徴、利用方法について講演があり、CBT の利用について理解を深めることができた。また、学業成績の向上策については、学業成績の現状につて講演があり、その後、グループワークを行った。グループワークでは、成績不振者を減らすために自身ができること、成績不振者を減らすために学校全体でできることについて、各自で意見をまとめ、グループにおいて発表した。最後に全体発表を行い、各グループで出された意見を共有した。学業成績の現状を知り、成績向上策を考える機会になった。

2-1 CBT の利活用

・CBT には、高専統一 CBT のほかに、独自 CBT、放課後利用、CBD の 3 つがある
　独自 CBT は、小テストのようなもの
　放課後利用は、自学自習、宿題のようなもの
　CBD は、問題を繰り返し使用するドリルのような使い方をするもの

・独自 CBT、放課後利用の利用方法
　① 問題セット作成用 CSV ファイルの作成
　　問題セット作成のエクセルファイルに、分野の選択、出題数を入力する
　② 受検設定
　　テストの名称、開始日、開始時刻、終了時刻、対象クラスを入力する
　　①で作成したファイルを読み込む
　③ 放課後利用の場合は、②の設定画面で「放課後利用」にチェックを入れる
　　問題・解説は印刷して配布できない

・CBD の利用方法
　「課題」と「自習」２つがある。
　CBT システムで「課題管理」をクリック、「＋」をクリックして作成画面に入る
　　分野、教育領域、学習内容などを選択する
　　開始日、終了日、対象クラスを入力し、「作成する」をクリック

・独自 CBT、放課後利用、CBD を用いると自習の教材が作成できる

2-1-1 質疑応答

Q：CBT を再試験に利用できるか。

Ａ：試験結果の開示に問題があるか、エビデンスとして使えるかなど機構に見解を得るようにしたい。
Ｑ：CBT を再試験に使うと問題の類似性が発生しないか、発生するとすれば再試験に使えないのではないか。
Ａ：機構に問い合わせて確認する。

2-2 学業成績の向上策
成績の現状を知り、どのようにしたら成績が向上するかを考えたい。

2-2-1 成績の現状
・卒業者数が減少している（H30 以降）
・退学者＋原級留置がコロナ以降（R4)増加している
・退学は昨年度、３年生が多かった
・留年は昨年度、４年生が多かった
・３年生の退学、４年生の留年が多い（過去、全体をみて）
・退学の理由　進路変更が多い（退学してから進路を考えるが多い）
・留年の理由　単位が取れない
・休学が続く場合がある
・再試験を受けられない、未修了が増加
・再試験の受験者数は、学年が上がるごとに多い
・再試験の不合格は、低学年で多い、仮進級になった
・学年末成績（再試験後）
　　２年生　再試験で救済されていることが現れている
　　３年生　６０点台が増加
　　４年生　平均点は高いが、低い学生も多い
・前期中間試験の試験科目数
　　１年：６科目、２年：１０科目、３年生：１１科目
　　科目数は２年になると２倍になる
・校内学習塾を行っている
　　１年生　数学、英語
　　２年生　数学、物理
　　授業担当者に対象学生をピックアップしてもらう
　　効果としては、６回校内学習塾を行い、成績の向上が見られた
・進学と成績の関係
　　昨年度は、推薦の合格率が高かった、89.2%
　　学力の合格率は、52,8%で少し低い
　　席次は、合否にあまり関係しない
　　大学の学力選抜では、学力をつけさせる必要がある

2-2-2 グループワーク全体発表
(1) 成績不振者を減らすために自身ができること
　・学習意欲を持たせる
　・レポート未提出者に声掛け、サポート、採点基準を明確にする

・何回も説明する
・授業にそくした小テストを行い、理解できているか確認
・上級生のサポート
・面談
・授業の初めでやることを説明し、それが理解できているかをその時間に確認
・現代の諸問題を取り上げ、関心を持たせる（米中問題など）
・小テストをこまめに行う、何回か前にやった内容も含めて行う
・文系科目に興味が持てない、導入に工夫が必要
・アンケートを改善に役立てる

(2) 成績不振者を減らすために学校全体でできること
・1 年生のものづくり、専門がない
・物理は 2 年生からであるがこれを早める、専門を早くから行う
・積極的な進路変更、3 年から大学へ変更
・できることを前倒しで学ぶ
・自主的に勉強するように学生の意識改革
・学生が自ら学習に取り組む雰囲気作りが必要、自分の進路を考えて勉強に取り組む、それには教員も変化が必要
・学習意欲が低下している、部活やゲームが影響している
・グループワークを取り入れる
・１年生と 2 年生の単位を増やす、仮進級を増やす
・学習塾を上級生まで行う
・1 年生の授業を増やす、週に空き時間があるのは問題、2 年生から科目が増え、ギャップが大きい
・成績下位の学生をどう指導していくか、合格点は 60 点、以前は 50 点であった。下位の者には高すぎ、上位のものには低い。平均点 80 点は高すぎるのではないか。

３．アンケート結果

項目 6：今後の FD 研修会に取り上げてほしいテーマ，ご希望，ご意見などありましたら，ご記入ください（自由記述）
- 生成 AI 活用、コスト（人・時間・お金）に関するセミナー、合理的配慮や多様性、ジェンダーに関わる話（どこまでが長野高専として必要なのか）
- 今回の FD は話を聞くだけでなく、普段話さない先生方の意見を聞けて良かったと思います。もっと話し合いや議論に時間を割いて、同じテーマでメンバーを入れ替えたりしながらできると面白いと感じました。テーマを決めて議論する機会がもっとあってもいいかと思います。一つのテーマを賛成反対に別けてディベートするくらいやっても面白いと思います。
- 最近グループワークを行うような FD がなかったので、身のある FD 研修会であるように感じました。教職員同士、本校の教育について話し合う機会をもっと作る必要があると感じました。

- 今回の FD のように教員間での意見交換、グループごとの報告などを含めた研修は有意義ですので、今後の FD でも取り入れてください。
- 成績不振学生対策として、他高専の事例などを知りたい

令和７年度 第３回 FD 研修会 実施報告書

１．日程他

主　催：学校いじめ対策委員会、教育改善委員会
日　時：令和 7 年 11 月 12 日（水）16:15～16:35
場　所：オンライン（Teams による配信）
講　師：スクールソーシャルワーカー　青木　三枝子　氏
題　目： いじめ対策研修
出席者：約 55 名（オンライン聴講者数。なお出席者に、後日この研修会の録画を視聴した者を含まない）

２．概要

学生課学生係横山係長より講師の紹介の後、下記内容の講演があった。今後の本校でのいじめ対策への理解を深める上で有用な研修内容であった。

１）スクールソーシャルワーカーの具体的な役割と果たす機能に関して説明と実際に対応した事例について説明があった。

（役割）

・問題をかかえる学生が置かれた環境への働きかけ、関係機関とのネットワークの構築、連携調整、
学校内におけるチーム体制の構築支援、保護者、教職員等に対する支援相談情報提供、学生に関する情報の収集提供、教職員などへの研修活動

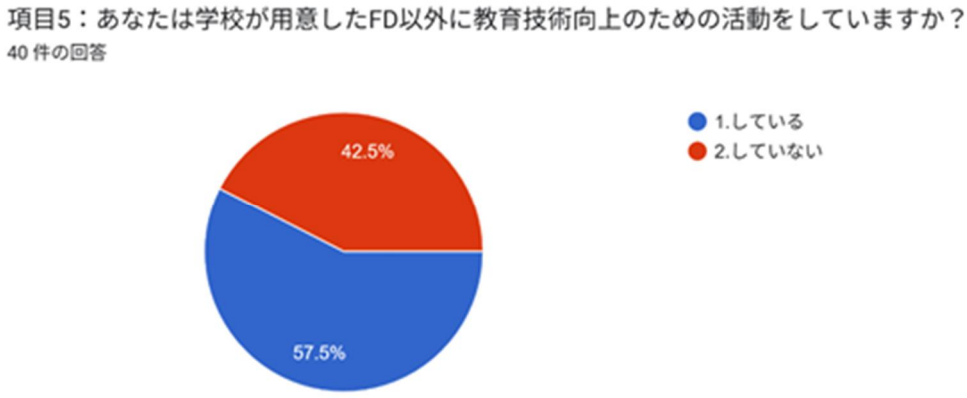
（機能）

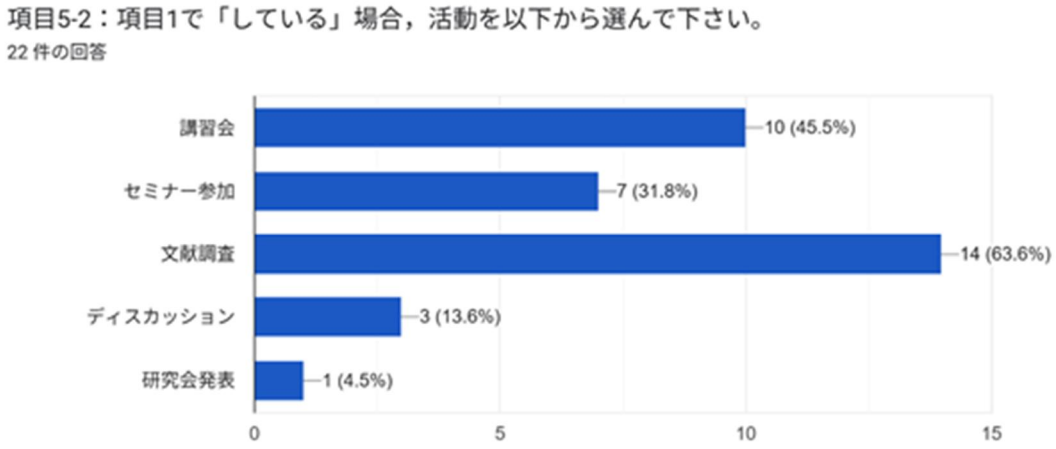
・アドボカシー（代弁活動）、プロテクト（保護・早期発見・未然防止）、コーディネート（仲介・連絡・調整）、ネットワーキング、ケースマネジメント、コンサルテーション

２）いじめの予防について未然防止、早期発見・早期対応の観点から説明があった。

・基本いじめは起きるものと考えられてる。また、団結力、仲間意識が強い集団ほど、いじめは起きやすいと考えられている
・学生に関わる私たち自身がいじめが増えやすい環境、いじめが増えにくい環境について考えて、意識して行動していくことがいじめの依然防止につながる
・いじめの早期発見のためには些細な兆候を見逃さないこと気づくことが必要
・いじめの早期発見には事実関係の把握、いじめか否かの判断は一人で抱え込んで判断するのではなく、チームで考えていくものだということを意識して取り組むことが大切
・いじめは集団の問題であり、組織対応が必要
・いじめの早期発見には、周囲の人がいじめかもしれないと気づいた時、気になった時に誰かに報告連絡相談をするという行動が必要。あれと感じることがあれば一人でかかえ込まず、判断せずに相談室等に連絡していただきたい。

４．アンケート結果





項目 6：今後の FD 研修会に取り上げてほしいテーマ，ご希望，ご意見などありましたら，ご記入ください（自由記述）
・AI の活用と問題点、(学生のレポートの制作における活用のすすめと問題点も含む)
・ＳＣとＳＳＷの違いや、ＳＳＷの役割などが分り、有意義な講演会でした。
ありがとうございました
・特になし
・学校づくり　（どんな学校にしたいか？どんな学生を育てたいか？どんな授業をしたらいいか？）
・入試倍率向上対策やマーケティング　（入試制度の変更、どこに、どんなアプローチをしたら有効か？）
・FD ではないのですが、校内 IT 関連で、校内での連絡方法の統一（G メール、校内メール、掲示板、Teams）による業務および学生指導の効率化。

令和 7 年度第 4 回 FD 研修会 実施報告書

教育改善委員会

1. 研修会概要

日　　時　令和 8 年 1 月 30 日(金)　16:15～17:15
場　　所　B501 大講義室
題　　目　社会実装教育の可能性　-いくつかの実践例から -
講　　師　東京高専教員　5 名
　　多羅尾 進 教授，冨沢 哲雄 教授，津田 尚明 教授，
　　水戸 慎一郎 准教授，山下 晃弘 准教授
聴講者数　69 名（出席　30 名，動画視聴 39 名）

2. 講演概要

① 東京高専の取り組み概要
“社会と向き合う”ことをテーマとして取り組む。東京高専では４・５年生の授業に組み込んでいる。
平成 24 年～社会実装教育フォーラム開催。

② 社会実装教育研究センターとプロジェクト活動の牽引
社会実装教育研究センター（**東京高専**）は国立高専関係者が利用可能（卒業生も含む)。
サイバーフィジカルやデジタルツインに関する主要装置の説明。(装置：可搬型三次元スキャナー、三次元モーションキャプチャ、超大型＆フッ素樹脂三次元プリンター)
次世代デジタルクロニクル

③ 公開講座の企画運営を通した社会実装教育の試み
公開講座を介した補助学生への社会実装の取り組み。
座学で学んだことを試し、実社会で評価を受ける社会実装を目指す。
補助学生は、普段接することのない人とのコミュニケーションをとること、想定外の事象体験などから学ぶ。

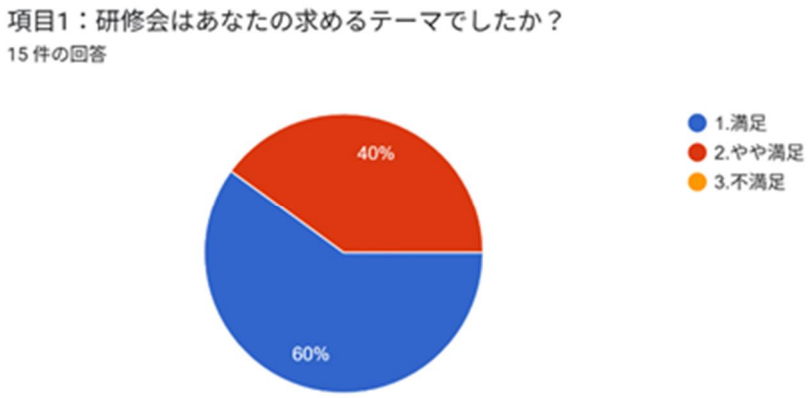
④ 企業との共同による IoT センサ商品化
企業連携を行うタイミングが重要。試作迄は学校主体の授業・研究にする。評価を受ける、社会へ導入するタイミングで複数企業に提案するプロセス。
タイ高専派遣時の新規授業設計から社会実装デバイスの開発事例紹介。タイ高専の実践を東京高専の授業実習で運用。

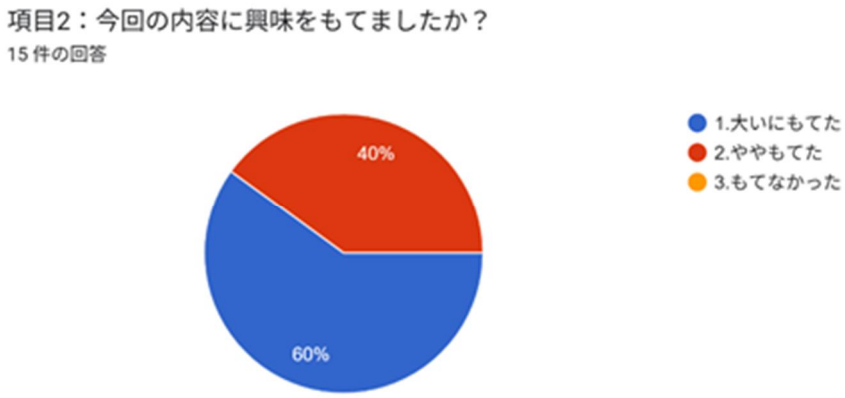
⑤ 学内組み込みプロジェクトから起業へ
組込みシステム開発マイスター制度の概要
アントレプレナーシップ教育と企業家育成は別物。対象者も異なる。高専はアントレプレナーシッ教育を実践しているが、自覚・意識付けが弱い。

⑥質疑応答
Q:プロジェクト取り組み時における学生のサポートの仕方。
A:習っていないことは教える。全てを委ねるのではなく、ある程度は型を決めた上で工夫するように促す。
Q:社会実装は座学授業へ効果があるのか。
A:成果が上がった時とそうでない時あった。学習効果へのデータはまだないが、チー

ムで解決しようという雰囲気は出てきた。

3. アンケート結果



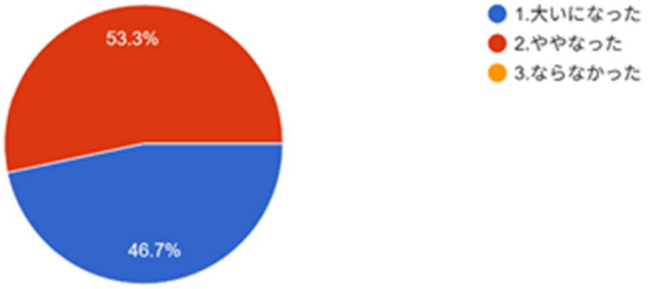


項目 3：1/30 の研修会に関してコメント等があればお願いします（自由記述）

・10 年以上前から社会実装教育を行われていることから，様々な知見をお持ちの講師から実例が聞けて良かったです.
・大変興味深い内容でしたが、研修会全体の時間が短すぎたように感じました。また、出席者が少ない点が気になりました。今年度から本校で開講された、エンジニアリングデザイン実践にも関する社会実装の話題であり、大変参考になりました。
・時間が短く、ディスカッションの時間が少なかったと思います
・大いに刺激をもらいました。
・社会実装教育に関する内容は個人的には良い内容だったと思いますが、長野高専全体としてはその風土が根付いていないと思われます。学校全体として理解を深めて活動を推進できるように、エンジニアリングデザイン科目などと連携しながら全学的な取り組みになるように推進して欲しい。
・うまく他業務とバランスが取れているのか気になりました（実際，時間が足りないとの話も出ておりましたが…）
聴講者が少なくて，せっかく来て下さった講師の方に申し訳ない気持ちになりました.

項目4：今後の教育活動の参考になりましたか？

15 件の回答



項目5：本テーマの開催時期として適当でしたか？

15 件の回答



（補足：回答が途中で切れているもの）

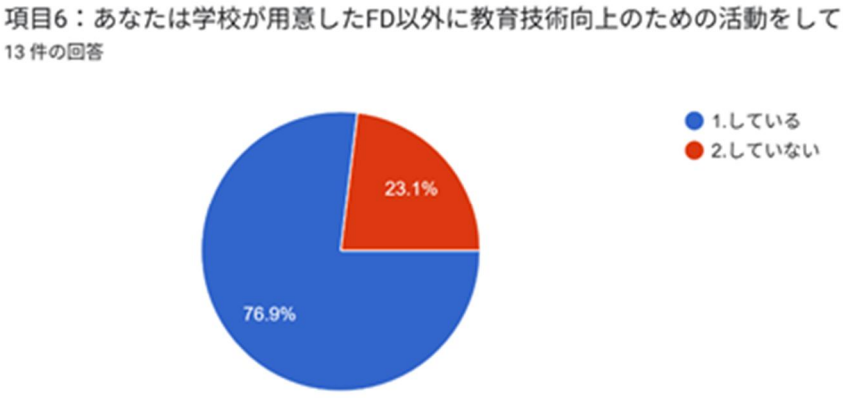
・年度末に向かうこの時期で参加できなかった先生方も多かったと思う。もう少し早く開催してほしかった。

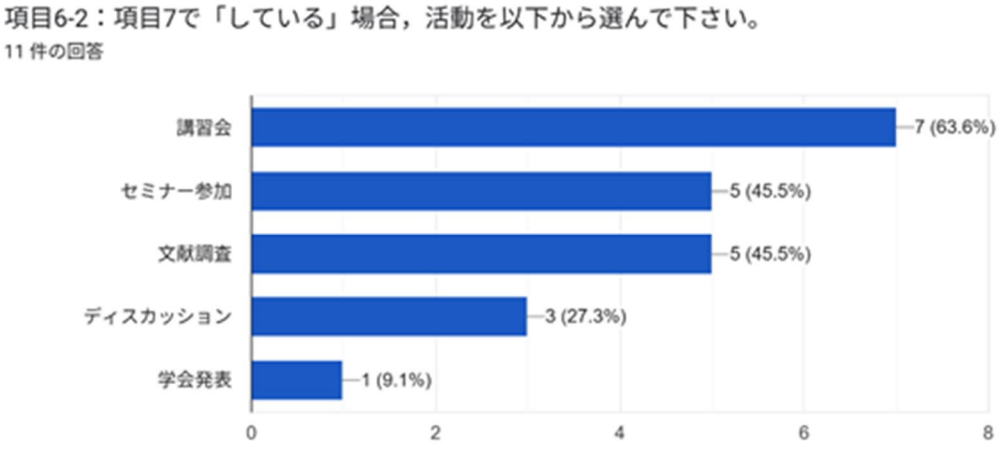
・会議が重なっており、参加者が少なかった

・講師の先生方の都合もあったかもしれませんが、より多くの方が参加できる時期に開催できればよいかと感じました

・参加者が少なかったので、時期てきに問題があったのかもしれない

・年間複数回の開催の場合は、このような時期でも仕方ないかと思われますが、単独開催で考えるならば、学年末のバタバタする時期は避けてほしい





項目 7：今後の FD 研修会に取り上げてほしいテーマ，ご希望，ご意見などありましたら，ご記入ください（自由記述）

・機関別認証評価の結果報告と今後の取組

・改組に関する大学・高専の状況を全体で共有したらいかがでしょうか

・FD は全員のグループウエアのスケジュールに入れたほうがいい。校内メールでは見落としがあり、当日のリマインドではそれにも気づかない場合があるとおもいます。

・特にございません

・入試広報、倍率向上、マーケティング、公開講座の取り組み成果

・数学と物理の効果的な基礎学力上昇方法.

各高専で分担して作った試験（すみません名前忘れてしまいました．学生が各自のレベル確認に使っている物です）を積極的に活用している学校に話を聞いてみたいです.

５．令和８年度の活動に向けた各種委員会等への提言

5-1 教務委員会

(1)　授業評価アンケートについては，回答の精度を確保するためにも，回答率向上のための方策を講じていただきたい。現在，学校全体で学生に対し数多くのアンケート回答を求めているが，授業や学生生活の向上という目的があるにせよ，現状が真に「学生ファースト」と言えるかには疑問が残る。学生の負担軽減のため，アンケートの対象科目を絞る，あるいは通年科目は前期・後期のいずれかに限定するなどの配慮することなどの検討が望まれる。

(2)　ポートフォリオについては，導入の意義そのものから再検討する必要がある。学生自身が作成のメリット，あるいは未作成による学生生活への不利益（またはペナルティ）を実感できなければ，定着は困難である。加えて，OneNote の操作性の課題が，定着へのハードルをさらに上げている。「即座に入力でき，自動的に整理される」といった高い利便性が確保できないのであれば，いっそ紙ベースの運用に切り替える方が現実的と言える。

(3)　本科・専攻科研究発表会の運用ならびに聴講に関しては，多くの意見が寄せられている。すでに卒研室配属が決まっている 4 年生や，まだ研究内容の理解が難しい 1・2 年生に対し，それぞれどのような聴講姿勢を求めるのか，改めて検討する必要がある。併せて，オンラインによるサテライト会場の設置が運営側のハードルを上げている現状についても，見直しが求められる。

(4)　選択科目の増加により，進級・卒業の判定が著しく複雑化しており，担当部署や担任，さらには学生自身の負担が増大している。迅速かつ確実に，可能であれば早期から状況を確認でき，一覧性に優れた表作成機能も備えた判定システムの構築を強く要望する。

5-2 学生支援委員会

(1) 各講習会の取り組み
専門家による実体験に基づく話は、学生に有効と思われる。「交通安全講習会」および 3 年生向けの「生と性の安全講習会」は、外部から講師として警察署および医師会から協力を仰ぎ、講習会はビデオの視聴などでなく、実体験に基づく専門家の話を増やす取り組みが望まれる。

(2) 交通事故防止に向けた取り組み
歩道など、「近隣住民から苦情が寄せられる」場所では、近隣住人と良好な関係構築を模索するとともに、学生会などと協力して周りの住民からも、交通事故防止の取り組みの理解度を向上させる取り組みが望まれる。

(3) ヘルメット着用に向けた取り組み
自転車による交通事故が毎年発生しているが、未だに自転車の運転中のヘルメット着用率は低い。自転車利用者は、ヘルメット着用の義務化を徹底する取り組みが望まれる。

(4) ボランティア活動や構外美化活動等を通じた地域住民との信頼関係の構築
市立長野高校と連携して挨拶運動や交通安全指導が行われ、これらは素晴らしい取り組みである。活動計画に書かれている「構外美化活動」に関しても、両校で連携して実施することを検討願いたい。

(5) 学生会企画として、ここ数年行われているイルミネーション企画は、近隣住民も多く見学に来ている。このような活動をより開かれた高専の活動にするために積極的に支援する取り組みが望まれる。

5-3 寮務委員会

(1) 食事については学生が安心して 3 食の摂食ができるよう、引き続き調査や呼びかけを行う取り組みが望まれる。

(2) 時代に沿った当番や役回りを検討・運用するのは寮生活を送る上で大変有意義であると思われる。一方、制度の変更は学生にとって負担になりにくい時期から運用されることが望まれる。

(3) システムの構築・見直しの準備について、寮に関わる情報を一元的に管理でき、かつリアルタイムに必要な情報を入手できるため、非常に有効な手法であると考えられる。一方、部屋割や当番表には氏名などの個人情報もあるため、適切に管理することに留意されることが望まれる。

5-4 専攻科運営委員会

(1) 広報活動において SNS を積極的に活用されており、今後の継続的な運用が望まれる。

(2) 学士の取得支援の結果、極めて高い学士取得率を確保されており、今後の継続的な運用が望まれる。

(3) 特別研究担当教員の増加のための個表の増加が継続的に取り組まれており、今後も継続的に行うことが望まれる。

(4) 入学者選抜方法については今後の継続的な運用が望まれる。

5-5 図書委員会
(1) 取り組みについては適切に実施されている。議事録が GW に掲載されていない回があり、対応が望まれる。
(2) 学校関係者、学外利用者に有益な図書館となるよう継続的な運用が望まれる。

5-6 広報企画室
(1) 公開企画部門では計画通りに活動が行われており、継続的な運営が望まれる。
(2) 刊行物部門では発行媒体について再検討することが望まれる。
(3) 情報発信部門ではわかりやすいホームページの運営について継続的な検討が望まれる。

5-7 技術教育センター
(1) ・重点項目、活動等計画に沿った報告書の作成をしなくてはならないことから、次年度の改善を要求する。

5-8 情報教育センター
(1) 情報教育センターの運用について計画通りに実施されており、今後も継続的な運営が望まれる。
(2) 満足度調査の結果、ネットワークに関する要望が多くありました。ネットワークの高速化によって解消したかを引き続き調査が望まれる。

5-9 国際交流センター
(1) 持続可能な国際交流にむけた活動の拡充について、多くの学生の海外研修派遣、短期留学生の受け入れ、国際交流イベントの実施など多くの運営を行っており、今後も継続的な運用が望まれる。

5-10 グローバルエンジニア育成センター
(1) ２学年の海外研修旅行が実施されたことは確認できたが，計画・実施にあたってグローバルエンジニア育成センターがどのような役割を担っているのか不明瞭である.
(2) オンライン交流や留学生との交流会ならびに国際性を養う講演会の実施について計画・実施状況が確認できなかった．委員会を定期的に開催し，進捗状況を報告する場を設け，その記録を会議議事録等に残していく必要がある.

5-11 ダイバーシティ推進室
(1) 本校 HP の女子学生の活躍などを紹介するページの更新が長い間行われておらず，卒業生に声をかけて記事を書いて貰う制度作りが必要である.
(2) 女性教職員を対象とした労働環境意見収集について，寄せられた意見の件数やその内容を定期的に会議の議題や報告事項に挙げ，意見交換等の記録を残していく必要がある.

5-12 進路支援室
(1) 低学年向けの講演会
低学年での進路支援は、単に進路をみつけるというより、学習の強い動機付けにもなります。先輩によるロールモデルとしての講演会とともに、活躍している卒業生の講演会を実施すると共に、進路に向けた研修をより早い時期に行うことが望ましい。
(2) 進路決定情報の収集および分析
「合格実績の詳細分析」の過去数年分を取りまとめ、効果的な進路指導法を検討してほしい。

5-13 入試広報室
(1) 多くの入試広報活動を行っており、今後も継続的な運営が望まれる。
(2) 費用対効果を考え、実施するもの実施しないものの選別が必要である。

5-14 教育改善委員会
(1) 点検の時期が遅れないようにスケジューリング管理が重要である。
(2) 各委員会の重点事項のフォローアップを正確に行う必要がある.
(3) 実効性のある点検のため、組織の変更や点検方法・点検時期は委員会で話し合い柔軟に対応することが大切である.
(4) FD 研修の効果の計り方を、改良しながら適切な検討を行うことが重要である。
(5) FD 研修会の効果についての検討が前年度となっているが、委員会での検討する必要がある。
(6) 教育改善報告書の作成が遅れている。関係各所と連携し、早急に提出できるようにすることが望まれる。

付録

付録１　令和７年度学習・教育目標の学生の自己達成度に関する調査報告書

学習到達度自己評価の調査

本調査は、学生の皆さんが本校で学んだ上で感じた学習・教育目標の達成度を自己評価してもらい、それを今後の教育システムの改善につなげるために行うものです。
1年から5年までの全学年を通して以下のA～G群の各教育目標に対する自己の学習の達成度を評価しそれぞれに「1：できない」～「4：できる」までの間で当てはまる値を１つ選択してください

* 必須の質問です

1。 メールアドレス *

2。 所属学科 *

1 つだけマークしてください。

- 機械工学科
- 電気電子工学科
- 電子制御工学科
- 電子情報工学科
- 環境都市工学科

3。 学籍番号を入力してください。（半角数字5桁） *

4。 (A)世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。 *

1 つだけマークしてください。

	1	2	3	4	
できる	○	○	○	○	できる

5。 (B)自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。（技術者倫理） *

1 つだけマークしてください。

	1	2	3	4	
できる	○	○	○	○	できる

6。 (C)機械、電気電子、情報または土木の工学分野（以下「基盤となる工学分野」という。）に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。 *

1 つだけマークしてください。

	1	2	3	4	
できる	○	○	○	○	できる

7。 (D)基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる。 *

1 つだけマークしてください。

	1	2	3	4	
できる	○	○	○	○	できる

8。 (E)科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力を養う。 *

1 つだけマークしてください。

	1	2	3	4	
できる	○	○	○	○	できる

9。 (F)具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論できる能力を身につける。 *

1 つだけマークしてください。

	1	2	3	4	
できる	○	○	○	○	できる

10。 (G)習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行する能力を身につける。 *

1 つだけマークしてください。

	1	2	3	4	
できる	○	○	○	○	できる

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

(A) 世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。

(A-1) 社会科学および人文科学に興味を持ち、関連知識を理解し身につけられる。また、自分自身と他人との関わりや価値観の相違について、理解できる。

(A-2) 健全な心身の発達について理解して行動でき、考えを述べることができる。

(B) 自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。（技術者倫理）

(B-1) 自然や社会の問題に関心を持ち、技術が果たしてきた役割を理解し論述できる。

(B-2) 環境や社会における課題を理解し論述できる。

(C) 機械、電気電子、情報または土木の工学分野（以下「基盤となる工学分野」という。）に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。

(C-1) 数学、自然科学において、事象を理解するとともに、技術士第一次試験相当の学力を身につける。

(C-2) 工学に必要な情報技術に関するリテラシーを身につけ、利用できる。

(D) 基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる。

(D-1) 基盤となる工学分野において、事象を理解するとともに、技術士第一次試験相当の学力を身につける。

(D-2) 基盤となる工学分野において、論理展開に必要な基礎問題を解くことができる。

(D-3) 基盤となる工学分野以外の工学分野の基礎的な知識を身につける。

(E) 科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力を養う。

(E-1) 科学、技術、工学に関する情報を収集し、その適否を判断してまとめることができる。

(E-2) 習得した知識や技能を課題に対して利用できる。

(F) 具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論できる能力を身につける。

(F-1) 学習成果を文章、図等により表現できる。

(F-2) 基盤となる工学分野において、必要な英語の基礎力を身につける。

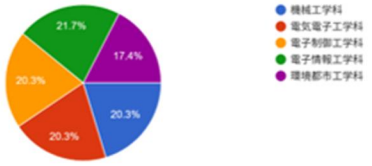
(G) 習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行する能力を身につける。

(G-1) 自己の能力を把握し、その向上のために自主的に学習を遂行できる。

(G-2) 実務訓練等を通じて基盤となる工学分野に関連した業務の概要を理解できる。

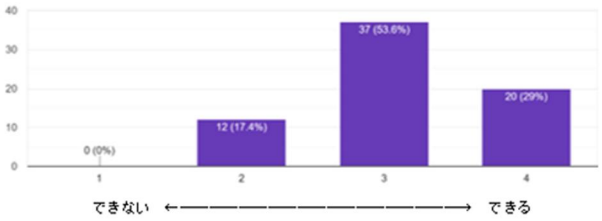
令和７年度 学習到達度自己評価の調査結果

調査対象：本科５年生
回答者：69名（回答率 37.5%、184名中）

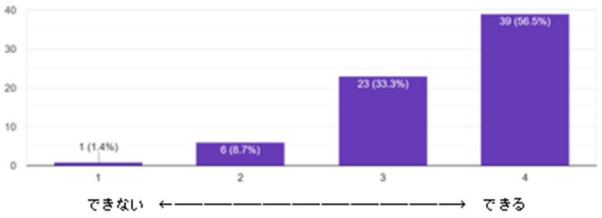


（機械：14名、電気電子：14名、電子制御：14名、電子情報：15名、環境都市：12名）

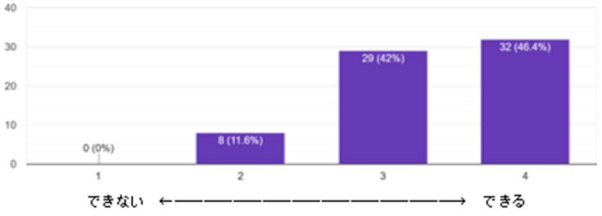
(1) 学習・教育到達目標(A) の達成度
世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。



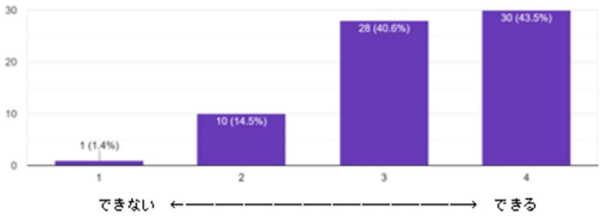
(2) 学習・教育到達目標(B) の達成度
自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。（技術者倫理）



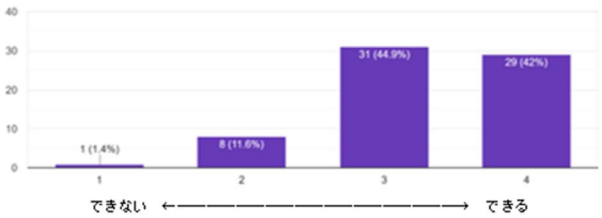
(3) 学習・教育到達目標(C) の達成度
機械、電気電子、情報または土木の工学分野（以下「基盤となる工学分野」という。）に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。



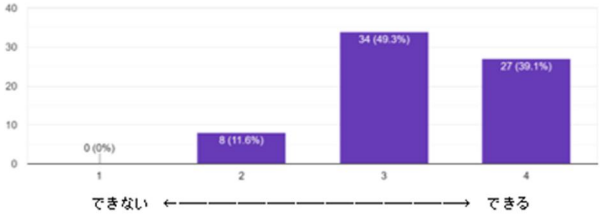
(4) 学習・教育到達目標(D) の達成度
基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる。



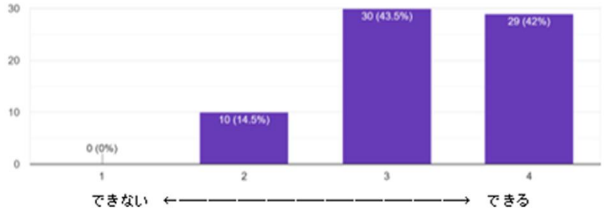
(5) 学習・教育到達目標(E) の達成度
科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力を養う。



(6) 学習・教育到達目標(F) の達成度
具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論できる能力を身につける。



(7) 学習・教育到達目標(G) の達成度
習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行する能力を身につける。



1. 調査結果の分析
学習・教育到達目標(A)～(G)ともに３または４と回答した学生は 80%を超えた。中でも、(B)、(C)、(D)については４と回答した人数が３と回答した人数を超えており、良好であった。
学習・教育到達目標(A)については、４と回答した学生は 20名（29.0%）と低く、２または３と回答した学生は 49名（71.0%）となった。リベラルアーツ教育の一層の充実が望まれる。
令和６年度の結果と比較して、学習・教育到達目標(D)について、３の割合に対して４の割合が高くなった（令和６年度：３が 53.6%、４が 36.6% ⇒ 令和７年度：３が 40.6%、４が 43.5%）。令和７年度の学生は比較的成績が良好であったことから、専門科目の自己評価が高くなったと考えられる。

令和７年度専攻科　学習・教育目標の達成度評価の確認報告

専攻科運営委員会

令和７年度に修了予定の専攻科 2 年生を対象に、ルーブリック形式による学習・教育目標の達成度評価を実施した．その結果について報告する．

１．実施期間および対象

実施日時：令和８年２月 18 日（水）～2 月 24 日（火）

対 象 者：生産環境システム専攻 15 名，電気情報システム専攻 11 名　計 26 名（先端融合テクノロジー連携教育プログラム対象学生は除く）

調査方法：表 1「ルーブリック形式による学習・教育目標の達成度評価確認表」（以下、ルーブリック形式による評価と呼ぶ）を用い調査を行った．なお、ルーブリック形式による学習・教育目標の達成度を各自で確認するために、学習・教育目標 A～G の細目に対応する教科ごと、及び細目、学習・教育目標ごとの自己点検評価「R07 専攻科修了生到達度調査」（以下、自己点検評価と呼ぶ）も合わせて確認した。

回答者数：21 名（回答率 81%）

表１　ルーブリック形式による学習・教育目標の達成度評価確認表

ルーブリック形式による学習･教育目標の達成度評価確認表 学生個人用

生産環境システム ・ 電気情報システム 専攻＿＿学籍番号＿＿＿＿氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学習・教育目標		合格			不合格
		優秀（すばらしい）	良（よい）	可（さらに努力を要する）	不可（不十分）
		基本的に期待されるレベルを超えている	ここまで到達することが望まれるレベル	期待した基礎レベルに達している	期待した基礎レベルに達しておらず不合格
A	世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。	世界の政治、経済、産業や文化を十分に理解しており、自分の考えを述べることができ、多面的に物事を考え行動できる	世界の政治、経済、産業や文化を十分に理解しており、多面的に物事を考え行動できる	世界の政治、経済、産業や文化を理解しており、多面的に物事を考え行動できる	世界の政治、経済、産業や文化を理解しておらず、多面的に物事を考え行動できない
B	自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。（技術者倫理）	自然環境や社会の問題に強い関心を持ち、技術者としての役割と責任について自らの考えを十分に述べることができる	自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について自らの考えを述べることができる	自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養がある	自然環境や社会の問題に関心がなく、技術者としての役割と責任について考えを述べることができない
C	機械、電気電子、情報または土木の工学分野（「基盤となる工学分野」）に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。	基盤となる工学分野に必要な数学、自然科学の知識を十分に有し、応用力もあり、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる	基盤となる工学分野に必要な数学、自然科学の知識を十分に有しており、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる	基盤となる工学分野に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる	基盤となる工学分野に必要な数学、自然科学の知識が不十分で、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できない
D	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる。	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を十分に習得しており、必要とされる技術上の問題に活用や応用ができる	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を十分に習得しており、必要とされる技術上の問題に活用できる	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得しておらず、必要とされる技術上の問題に活用できない
E	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力を養う。	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し、主体的に解決することができる	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決することができる	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する過程を知っている	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力がない
F	具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論できる能力を身につける。	具体的なテーマについて、複数の視点から論理的な記述と説明および討論ができる	具体的なテーマについて、ある視点を基に論理的な記述と説明および討論ができる	具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論ができる	具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論ができない
G	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行する能力を身につける。	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に自ら積極的に、計画的に遂行できる	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に自ら積極的に遂行できる	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行できる	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行することができない。

2．集計結果

図 1 に、ルーブリック形式による評価調査の集計結果を示す。調査数が少ないため、専攻ごとには区分せずに集計した。評価は、優秀（すばらしい）を 4、良（よい）を 3、可（さらに努力を要する）を 2、不（不十分）を 1 として数値化した。参考として、令和 6 年度および令和 5 年度の集計結果を図 1、図 2 に示す。

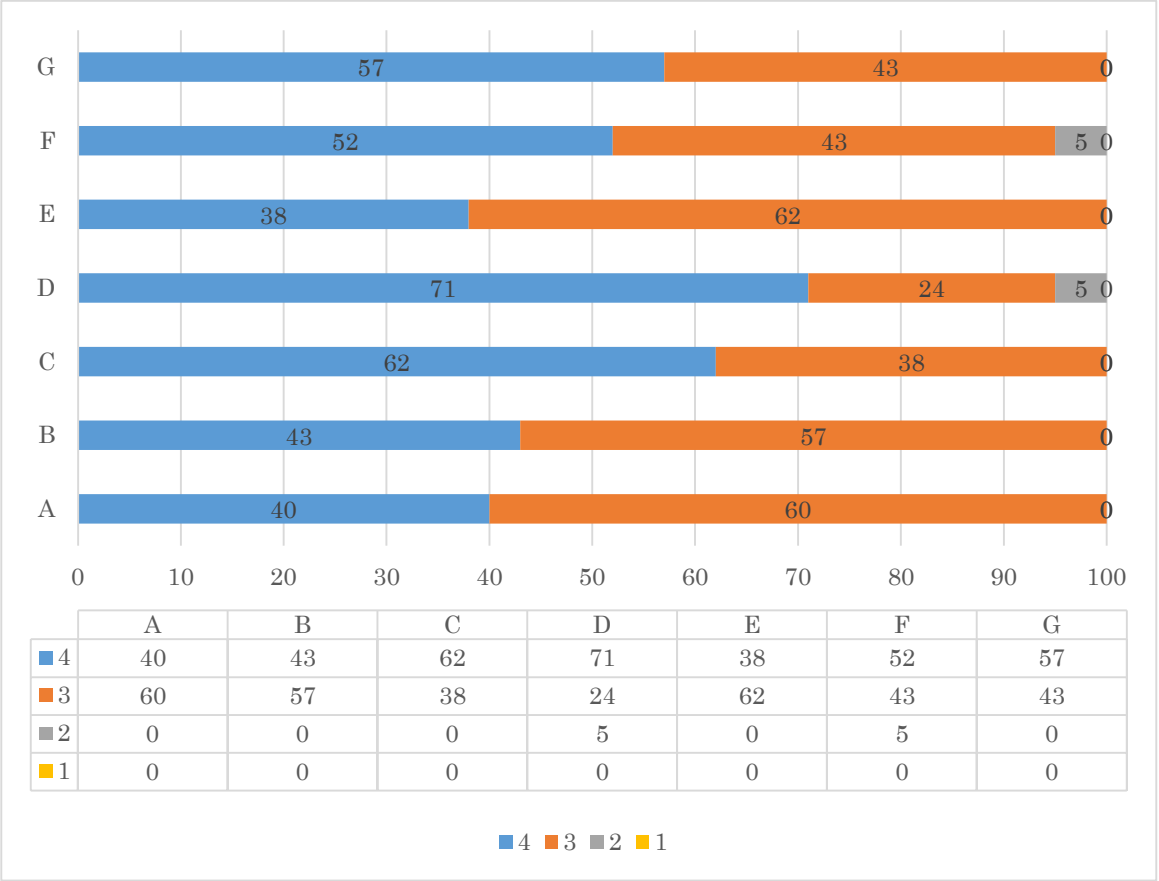
学習・教育目標のすべての項目において、「3（良）」以上の達成度と回答した学生は全体の約 98%に達しており、近年においても高い水準を維持している。

また、ルーブリック形式による評価と「R06 専攻科修了生到達度調査」による自己点検評価（学習・教育目標（A～G）の細目に対応する教科ごと、および細目・目標単位での評価）との関係を検討したところ、両者の間には高い相関が認められた。このことから、教科ごとの満足度が、ルーブリック形式による達成度評価に強く反映されていると考えられる。

一方で、項目 D および F においてルーブリックで「2」と評価した学生について、教科ごとの自己点検評価を確認すると、いずれも 5 段階中「3」または「4」と評価していた。この結果は、ルーブリック評価の方が自己点検評価よりも厳しい基準で行われている可能性を示唆している。

サンプル数が少ないため、年度ごとの変動が大きくなる点は避けられないが、ルーブリック形式の自己評価と教科ごとの自己点検評価を連携して分析することで、より具体的な改善点の抽出が可能になると期待される。

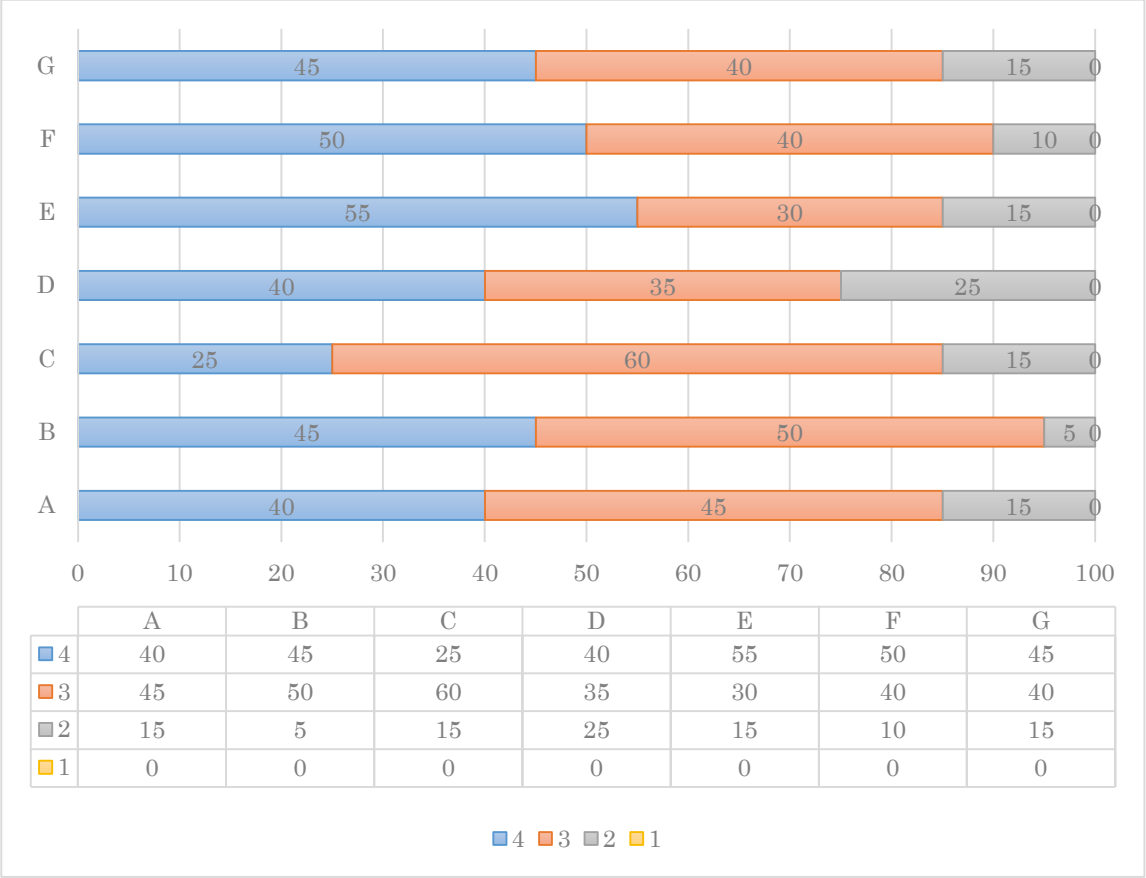
なお、今回の回答率が 81%にとどまった要因として、例年は 1 月末から約 3 週間実施しているアンケート期間を、本年度は 1 週間に短縮したことが挙げられる。次年度以降は、例年どおり 3 週間程度の実施期間を確保することが望ましい。



	A	B	C	D	E	F	G
4	40	43	62	71	38	52	57
3	60	57	38	24	62	43	43
2	0	0	0	5	0	5	0
1	0	0	0	0	0	0	0

図 1　令和 7 年度学習・教育目標の達成度評価確認の集計結果（回答数：20 名）

（参考）



	A	B	C	D	E	F	G
4	40	45	25	40	55	50	45
3	45	50	60	35	30	40	40
2	15	5	15	25	15	10	15
1	0	0	0	0	0	0	0

図 2　令和 6 年度学習・教育目標の達成度評価確認の集計結果（回答数：20 名）

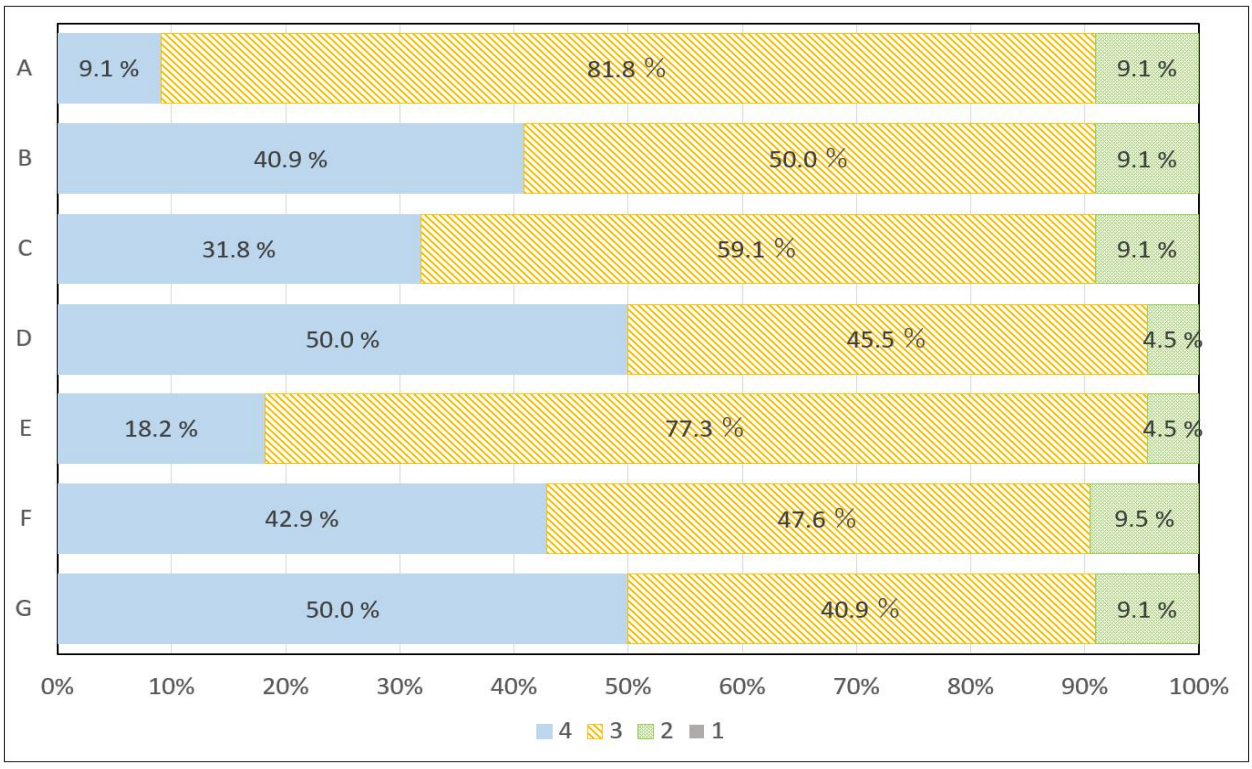


図 3　令和 5 年度学習・教育目標の達成度評価確認の集計結果（回答数：22 名）

付録３　令和７年度学生との意見交換会　議事録
3-1 本科

2026.3.6

令和７年度本科との意見交換会　実施報告

学生支援委員会

1. 開催日時および会場
開催日時：令和７年７月 14 日（月）16:15～17:00
会　　場：A 棟２階　A202 応接室
参加者：早瀬 伸樹 校長、渡辺 誠一 教務主事、奥村 紀浩 学生主事、酒井 美月 寮務主事、井浦 徹 学生主事補、学生会役員３名　計８名

2. 意見交換の概要
学生会で事前に全学生を対象にアンケートを実施した上で、学生会側から学校側への意見が 6 件（学校生活に関する要望 1 件、時間割に関する要望 1 件、校内設備、インフラに関する要望 4 件）あった。多数の学生からの意見聴取の段階では、かなりの数の要望があったが、学生会が整理した上で、このような数となった。昨年度、この場にも出ていたといわれる寮に関連する事項については、寮務委員会と寮生会との定期的な懇談の場に出してもらったと理解している。

その他、以下の事項について意見交換を行った。

学校から学生（学生会）に対し、「授業の間のチャイムをなくしたらどうか」という提言を行った。回答はまだいただいていない。

以上

（文責　奥村 紀浩）

令和７年度　専攻科生との意見交換会　報告

専攻科運営委員会

実施目的

専攻科生が日頃の学修・研究・学生生活・進路等に関して感じていることや課題、改善してほしい点を率直に専攻科運営に携わる教職員と共有することで、今後の専攻科の学修・研究環境、そして専攻科運営をより良いものにしていくことを目的とする。

実施概要

- 実施日時：2026 年 2 月 20 日（金）10 時 00 分～11 時 30 分
  - ✧　終業式も一部学生は参加し終了後に意見交換会を実施。
- 実施会場：図書館 2 階　視聴覚教室
- 参加者：専攻科生：約 30 名が参加（内訳不明）
  専攻科運営委員：藤澤専攻科長、轟専攻長、柄澤専攻長、大西先生、力丸先生
- 実施内容（司会進行：山田　専攻科運営委員）

1. 挨拶　藤澤専攻科長
2. アンケート結果報告（当日使用した資料と配布資料は別資料として添付）
3. 意見交換
   - 施設関連
   - 進路
   - 講義、学外実習
   - 研究発表、各種提出物
   - その他
4. 総括　藤澤専攻科長

意見交換状況

（1）講義・教育内容について

学生からは、機能デザインにおいて、班ごとの条件差やテーマの違いが評価に影響しているのではないか、また、意見の合わないメンバーがいる場合に限られた授業時間内で調整しきれず、チームワーク評価に不利が生じうるのではないかとの意見があった。

これに対し教員側からは、機能デザインは本科から専攻科までの学びの集大成として位置づけており、成果物そのものよりも、議論の深さ、試行錯誤の過程、チームで課題に取り組む姿勢を重視しているとの説明があった。一方で、班ごとの差や評価の難しさについては教員側も課題として認識しており、今後も改善を検討していくとの考えが示された。

（2）研究時間・研究環境について

研究に関しては、実験にはまとまった時間が必要であり、時間の制約が研究の進めにくさにつながるとの認識が共有された。

これに対し教員側からは、平日夜間の長時間利用には制約がある一方、土日の活用は可能であり、必要に応じて対応できることが説明された。また、研究は漫然と継続するよりも、集中的に実験する期間と解析する期間を分けて計画的に進めることが重要であるとの助言があった。

（3）施設・設備について

施設・設備については、教室の狭さ、トイレの配置、清掃状態、空調に関する意見が挙げられた。学生側からは、清掃に関しては学生の使い方や日常的な意識も関係しているのではないかという趣旨の発言もあった。

これに対し教員側からは、専攻科棟は現在の在籍者数より少ない人数を前提として設計された建物であり、現在は物理的に手狭となっていること、また2階男子トイレの運用変更については、3階の運用変更に伴う倉庫スペース確保の事情があったことが説明された。空調については集中管理のため設定温度の変更はできず、通常は授業終了時に停止する仕組みであるが、研究室系の部屋については教員側も不便を感じており、少なくとも 17 時頃まで利用しやすいよう検討したいとの回答があった。

（4）学外実習について

学外実習については、学生から、実習期間が長く就職活動と重なりやすいこと、交通費や宿泊費の扱いが実習先を選ぶ段階では分かりにくいこと、報告書の書式が自由すぎて書きにくいことなどの意見が出された。また、実習先企業から、実習期間中は他社の選考を受けないようにとの趣旨の説明を受けた事例も共有された。

これに対し教員側からは、学外実習は教育課程の一部として位置づけられているため、給与支給は前提としていないこと、ただし交通費や宿舎支援等の情報については事前に分かりやすく整理すべきであり、次年度以降は企業向けアンケート項目を工夫して情報整理を進めたいことが説明された。あわせて、実習期間については、就職活動との両立を考慮し、できるだけ年内に終了できる形を目指して見直したいとの方針が示された。また、実習中の就職活動を企業側が不当に制限するような扱いは適切でないとの認識も示された。

（5）進路支援について

進路支援については、学生から、長期実習中に就職活動を行った際、学校への連絡方法が分かりにくく、結果として事後報告になってしまったとの意見が出された。メール、Teams、チャット、紙提出のいずれで連絡すべきか分かりにくく、実習中は相談もしづらかったため、簡便な連絡手段が必要であるとの指摘であった。

これに対し教員側からは、実習中でも必要事項を入力すれば教員側に届くような簡易フォームの整備を検討したいとの回答があった。

（6）学生生活支援・面談について

学生生活支援全般への大きな不満は多くなかったが、面談の運用については具体的な意見があった。学生からは、面談回数そのものが過多というより、担当教員が自分と関わりの薄い教員であった場合に相談しづらさがあるとの指摘があった。

これに対し教員側からは、面談は在学中の状況把握や進路確認のために実施しているものであり一定の目的があること、そのうえで、担当教員の割り振りについては、教員側の負担均等を優先するあまり学生への配慮が十分でなかった面もあり、今後は話しやすさにも配慮した運用を検討したいとの回答があった。また、公式 LINE については学生向けというより保護者向けの情報共有手段であることも説明された。

以上

令和７年度

学生の満足度に関する
アンケート調査実施結果

令和８年２月実施

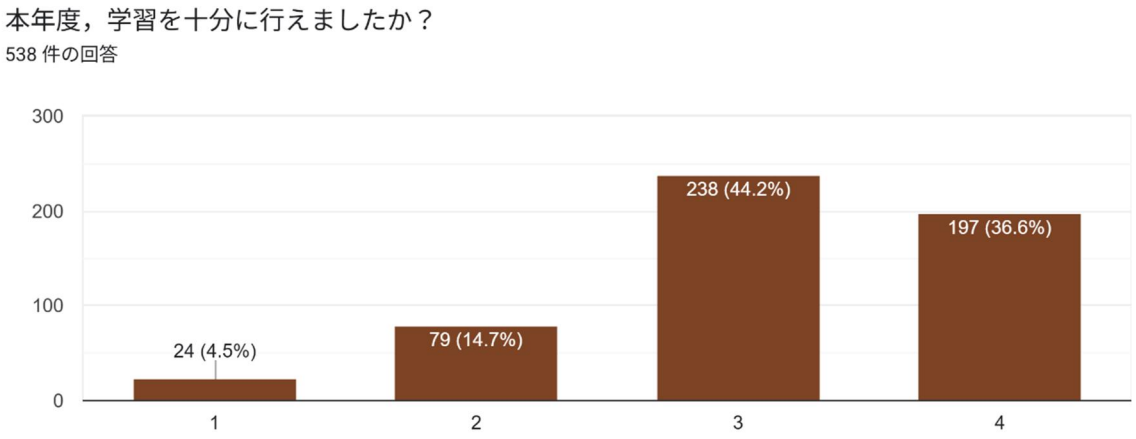
教育改善委員会

本科アンケート

長野高専の満足度調査(2025 年度)のまとめ

＊全学生（本科計 1,015 名）に対する回答数 538 件（R8.1.23（月）～2.20（金）実施）

１．学習について



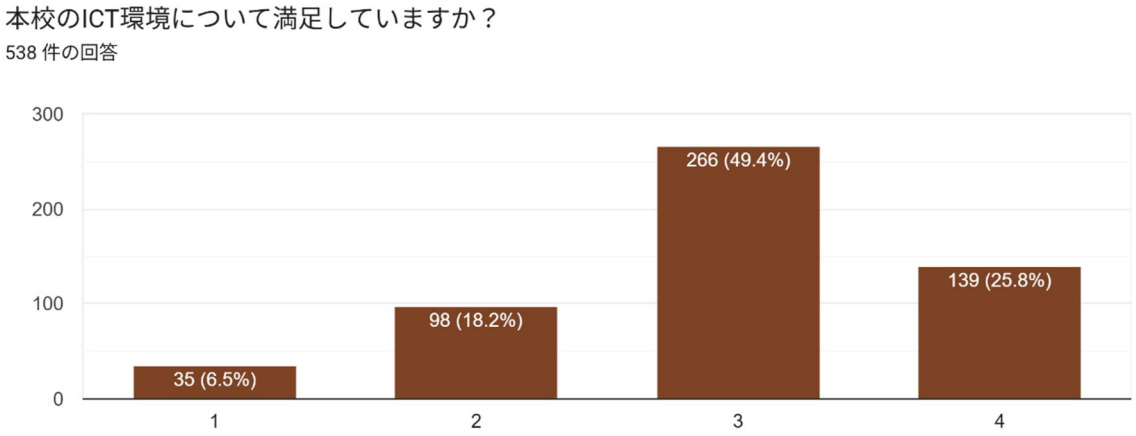
※左から「行えなかった～行えた」の度数１～４

上記質問への主な回答記述

・一部教師の授業が非常にわかりにく、自主弁居が必要な場面が多かった。
・もっと前から始める
・問題集のない教科が勉強が過去問しかなくて物足りなかった。
・前期はなかなかやる気が出なかった
・勉強量が少なくダラダラしてしまっていた
・学習意欲があまりにも湧いてこないため学習意欲を高めたい。
・テスト期間前からもっと勉強を頑張れるようにしたい。
・FP3 級取った
・後期は特に、授業終了後も課題などで教室に残り学習をすることが多かった。
・学校で出るレポートとテスト期間が被るときがあるのでできるならやめてほしいです。
・自分の学習方法の成果を確認しながら、改善をするべきだった。
・とくにない
・英語の勉強法を高校生になった時に改善しきれていなかったので、前期の英単語などを覚えきれていない。
・とても大変だったけどなんとかしたから根性が鍛えられた。
・AI をフル活用してとにかく授業における説明の不足を補いまくった。
・学習以外に夢中になるものがたくさんあり、優先度がかなり低くなった
・精神面の悪影響が学習にも及んでいた。
・もっと計画的に行いたい
・やる気と危機感が湧かないのが原因
・もっと効率的な勉強法を探すべき
・特になし。
・もっと学習の時間をとればよかった
・もう少し自立した生活を送りたかった。
・学校での学習は適度に行えたが、自ら進んだ学習をもう少し行えばよかったと思う
・物理的に勉強する時間をもっと取れば良かった。

・放課後の時間をもっと活用して勉強できた。 部活とのメリハリを付けて勉強をすべきだった。部屋に帰っても部活のことを考えてる時間が多く、なかなか、勉強をしなかった。
・途中で辞めてしまったところもあるから、次はやり切ってみたい。
・学習も頑張ったが、それよりも部活動に力を入れることができた。
・短期集中型だったので毎日コツコツやることはできなかった
・教科数が多く辛い。
・普段から計画的に勉強すべきだった
・前期はテストの範囲すら理解せずに勉強を進めてしまっていた。
・効率的かつ前々からもっと勉強できるようにしたい
・自分に甘いと感じることが多くありました 自主的、計画的に勉強をすることを 目標にしようと思います。
・一部勉強が不十分な教科があった
・toeic の勉強を重点的に行った
・もう少し自主学習に力を入れるべきだと思う（自分が）
・タスクが多かったため十分に行えなかった
・もっと計画的に集中してテスト勉強に臨むべきだった
・テスト期間に自分が学びたい教科に集中できないという問題がある
・中等時よりも圧倒的に日々の自主学習の時間が少なくなってしまっていた.
・研究を頑張ることができた
・テスト期間以外にももっとやっておけばよかったと思う
・効率良さげにできた
・授業外での学習が足りなかったと思われます。
・後期中間テストの前は特に頑張れた。
・もっと効率よくできそう
・テスト前などもう少し余裕をもってテスト勉強が出来たら良かった。

2．ICT 環境について



※左から「不満足～満足」の度数１～４

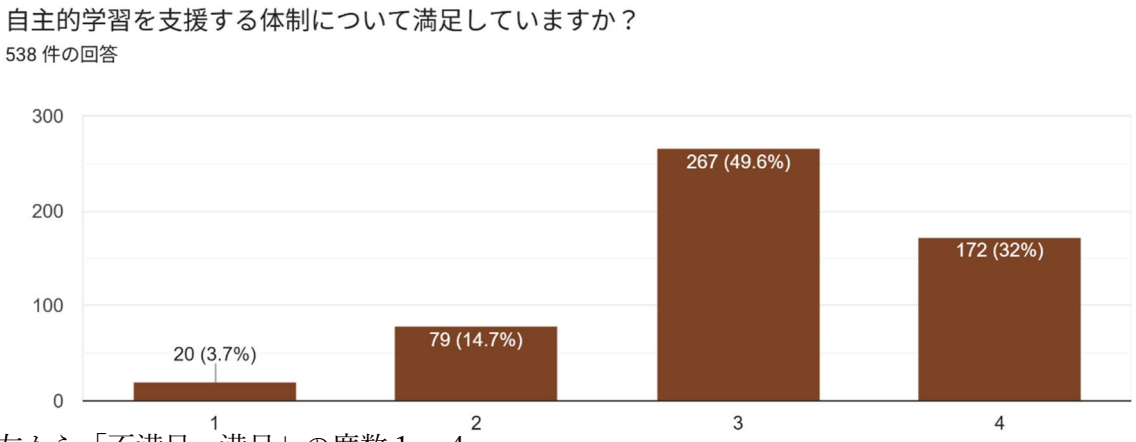
上記質問への主な回答記述
・C 科棟の教室にコンセントが足りません。

・授業でスマホを使う場面が想像よりも多いので、スマホにも Wi-Fi が使えるようになるとありがたい。
・構内 Wi-fi の速度をどうにかして欲しい
・回線が悪すぎてスマホを授業で使用するとき大変困った。
・Wi-Fi ないのが正直不便。パソコンだけは繋いでいいらしいけどスマホの契約してる会社によってはラグすぎて使えない。基本的に学校には Wi-Fi があるものだと思っていた。
・通信環境が良くないところ
・Wi-Fi が、使えなくて困る
・新素材実験室まで校内 WiFi が届かない
・スマホを使っていると通信環境が悪くなってしまうことがある。
・校内無線 LAN の使用に windows の pro が必要になったのはなぜですか？
・スマホもインターネット使えるようにして欲しい
・特にありません
・通信環境が悪い
・Wi-Fi が重すぎる
・pc がネットに繋がりづらい場合があるかも
・特にない
・パソコンより、スマホの方が扱いやすいが、通信環境が悪く扱いにくい機器になってしまっている。
・レポートの作成や調べものの時にスマホを使うことがどうしてもできてしまうのですがネット環境が悪くて十分に使えないのでできることなら改善してほしい
・遅い。
・WiFi が遅すぎる
・共用教室の PC が重い、授業で使用するソフトが十分に動かない
・Wi-Fi 環境が不便すぎた スマホを繋げないので pc でレポート制作やフォーム回答しようとしても繋がらないことがほとんどで学校での pc を用いた学習が十分にできなかった
・パソコン室のパソコンが貧弱すぎる。スペックが弱い。 CAD が自由に使えない。授業に支障が出ている
・A 棟の 3 組 4 組 5 組（特に 4 組）の教室があるあたりでは全くネットが繋がらないです
・学校と寮の電波が悪い。特に実験室は PC を使うので困る。
・寮の回線が不安定である
・普段の座学はパソコンじゃなくて iPad で受けるので iPad も WiFi 繋がるようにしてほしい。
・図書館棟での WIFI が弱く、ゼミ室での授業進行に支障が生じている
・特になし。
・楽天などの回線が校内ですごく遅い
・スマホの通信環境が悪い
・スマホを授業で使うことも多いのに、ネットの環境が悪いことが気になっています
・スマホも Wi-Fi 使えるようにして欲しい せめてどこでも 5G で使えるようにして欲しい 圏外になる教室もあるためとても不便
・通信が悪い
・高性能なデスクトップパソコンを用意してほしい
・通信が悪いことが多々あるので対策して欲しい。
・ネット強くして欲しい、パソコン以外でもスマホなどは授業で使うことがあるのでネットの接続

を許可して欲しい
・エアコンもっと温度下げたらあげたりできるようにして欲しい。
・授業でスマホを使って回答するが通信環境が悪すぎて回答できないところ
・高専の校舎内でスマホで調べ物をしたいとき回線が重くてスマホが使えない
・スマートフォンを授業で使うことがあるのにも関わらずスマートフォンを校内ネットワークに接続できないため、例えば授業で大容量の通信（動画の送信など）が必要になった際にモバイルデータ通信の通信制限がかかってしまうことがある。
・Wi-Fi が弱い。
・パソコン 1 台しか、つなげられないところ。スマホも使えるようにするとタブレットもなどとキリがなくなるのもわからないでもないがスマホに Wi-Fi を繋げられないのは不便
・図書館の隅や 2 階等教室によっては WiFi が届きづらいところがあり不便な為そこを何とかして頂きたい
・高専側で対処できないことになってしまいますが、モバイルデータ通信が弱いと思います。
・ネット回線が遅い
・携帯会社によって電波が来たり来なかったりと差があるので、できれば直して欲しい
・旧 100 番教室にコンセントがなく、回線が悪い
・ファイヤーウォールが機能して十分にブラウジングができない
・Wifi が遅いときが時々ある
・1-4 のネットワークが悪すぎる、スマホが繋がらない
・スマホも Wi-Fi つなげたい
・通信環境が悪く、G メールが確認出来ない
・電波が悪い教室がある。
・場所によって接続が悪い A 棟の三階奥など
・繋がりにくい、1 人 1 台に制限するならもう少し快適に使えたい
・ネット接続時に毎回ログインしないといけないこと
・Windows11pro だけでなく、ドライブを暗号化した macos や、Linux pc も校内 wifi に接続できるようにしていただきたいです
・学校の Wi-Fi を利用しているのかどうかは一先ずおいて起くうえで，クラス内で休み時間に PC を使ったゲームを行っている一部の様子がよく見られる．
・授業でスマホを使うなら WiFi を使えるようにして欲しい。ギガがない人は困る。
・寮のネットワークがよくない。改善してほしい
・ネットワークが悪い
・b 棟 5 階の電源が少ない
・教室ごとに通信環境が違うことがあって少し困ります。
・教室のネット回線が悪い
・ネットが遅い
・携帯会社の回線が悪いため、授業にスマホが必要な際に使用できないことがある
・他校のように接続できるデバイスを増やせるようにしてほしい 会議ができないので、制限をなくしてほしい
・教室のネット環境が悪い
・ネットが遅く感じる
・モバイル通信が使えない
・授業でスマホを使う時があるが wifi がないので不便に感じる

・回線悪すぎる
・教室で電波の通りが悪くて、数 B の授業などで資料を見るとき、読み込むのに時間がかかり困っています

3．自主的学習の支援について

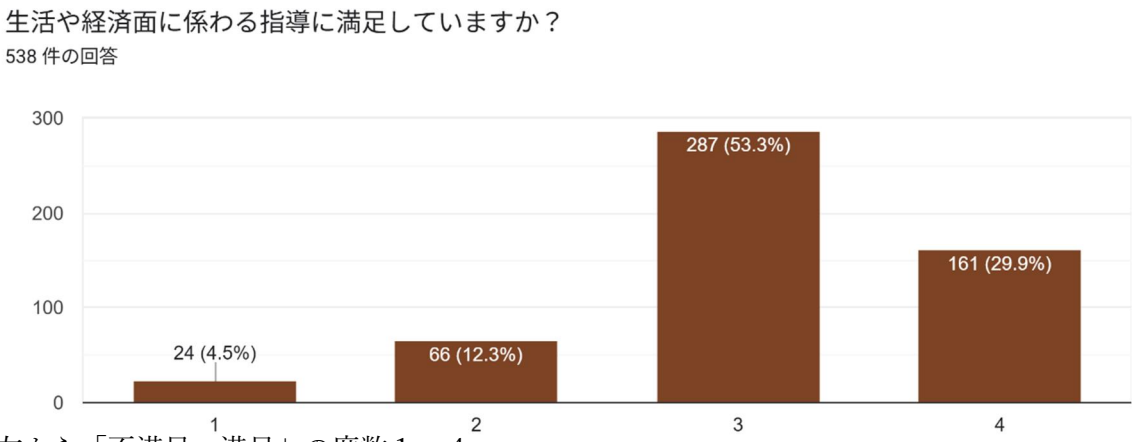


※左から「不満足～満足」の度数１～４

上記質問への主な回答記述
・個室環境を徹底してほしい
・製図の課題のために授業終了後も残って製図室を使っていたら、6 時半すぎに鍵を返却したのにも関わらず、遅すぎると言われたり、申請を出せなどと、強い口調で毎回必ずいちゃもんをつけられていた。警備員との意思疎通をしっかりとして欲しい。できないなら特定の器具を使わないとできない課題を出さないでください。
・特にありません
・図書館の席数増やしてほしい
・特にない
・大学入試がない反面、危機感も持ちづらく日々の自主勉強が行いにくい。
・自分のペースでできるのは良いことだが、分からないことがあるとき困る。先生たちに聞きづらい。
・自習環境を増やしてほしい。試験前になると、よく、図書館や図書館上のスペースが埋まってしまいます。
・授業に使う教科書がごみなのに自習もなにも無い
・場所はあるが、カリキュラムが大変すぎるし、無駄な課題も多い。
・エンジニアリングデザイン実践の授業が良かった
・特になし。
・テスト期間は日曜日も図書館を開けてほしい。
・テスト期間に教室を使いたい
・質問しても授業でやったとこだよと答えない先生がいる
・テスト前に、プライベートで「一人」になれる勉強スペースが欲しい。
・自主的な学習において AI を利用する機会が多いため、高専の google アカウントを利用しての AI の利用は必ずサブスクリプションに登録してアップグレードしてほしい
・校内学習塾が良かった。 先生に聞きに行けば分かるまで説明してくれて嬉しかった。

・なにかの資格を取るときに、取るためのお金のサポートとかが欲しい。資格を取るときにおいて、お金面で辛くなる時があるから
・来年から高桑英語なくなるらしいけどなくなってほしくない
・４年前期が急に忙しいのが不満である
・寮の門限で通性の友達と勉強できる時間が短い
・自分が原因ではあると思うが，そもそも自主学習をどのように支援しているのかをよく知らない.
・S 科の改修に伴い、教室を使えない時が多かった。情報教育センターPC のキーボードが使いにくい。自主学習できるスペースが少ないように感じる
・さむい
・教室のエアコンを 5 時以降もつかいたい
・図書館 2 階のスペースに暖房を設置してほしい

４．生活や経済面に係わる指導について



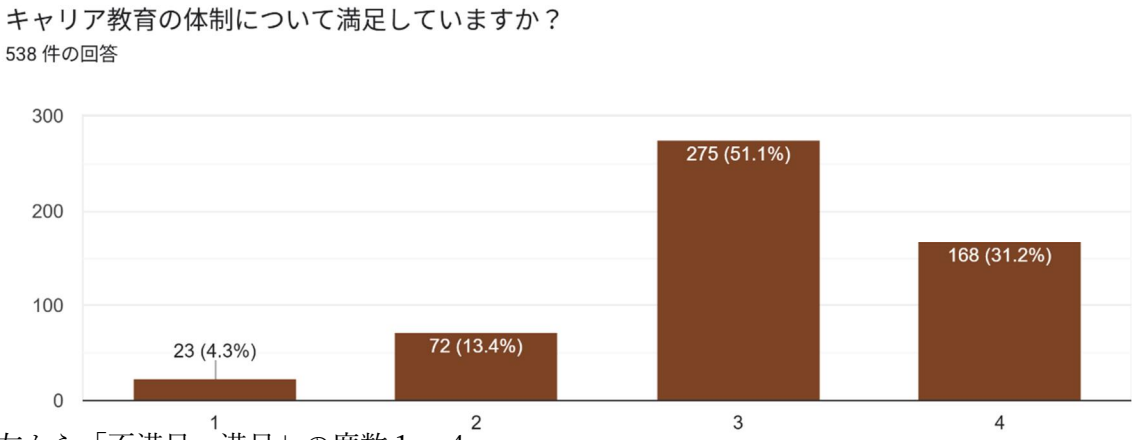
※左から「不満足～満足」の度数１～４

上記質問への主な回答記述

・特にありません
・特にない
・奨学金等もっと教えて欲しい。
・された覚えがない。
・特に指導を受けている覚えがない
・時々過干渉に感じるが、学生の安全のためになっていることもあるので感謝している。
・扶養控除と NISA、故郷納税の利用方法とか知っといた方がいいよね
・特になし。
・担任が自分の好き好みを出し過ぎだと思う。 人間だし、不真面目な生徒もいるから好みが分かれるのはしょうがないと思うが、教員として、大人として、学生の前だけでもいいからそれは出さずに公平な立場でいてほしい。
・校外活動での予算が少なすぎる。全国大会であるのにも関わらず、交通費が半額しか支給されない
・緩くていい
・忘れ物や遅れて課題を出したりすることがあったのでそれをなくしたいです。

・寮の点呼の制度によって早く寝たい日に寝れない
・生徒主体の校風が魅力の一つだとはわかっているけど、もう少し厳しくしてもいいんじゃないかと思う.
・経済面の指導をされた覚えがない
・経済面の指導の具体例は浮かばないです

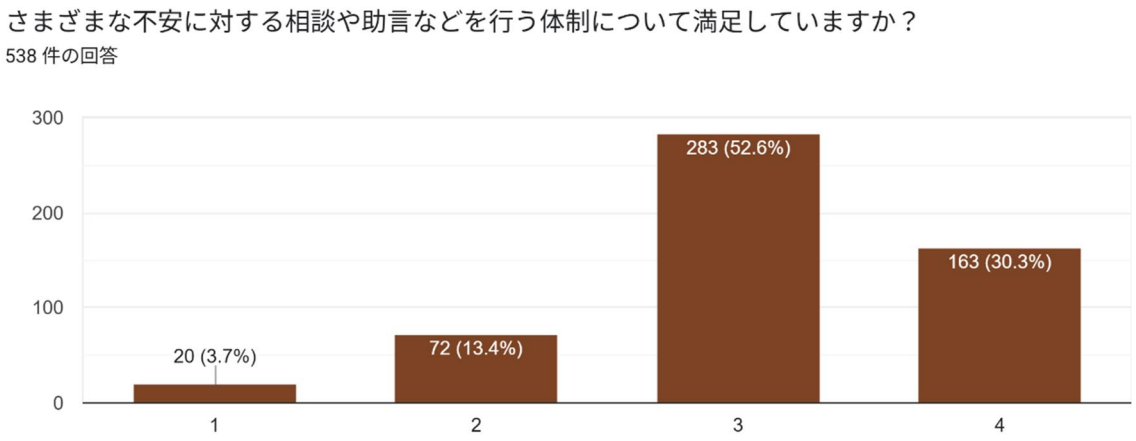
5．キャリア教育の体制について



※左から「不満足～満足」の度数１～４

上記質問への主な回答記述
・授業数が多すぎて、セミナーに参加できなかった
・特にありません
・特にない
・技術で語る会が社長として働く方からのお話を聞ける非常に良い機会だった。
・週に一回程度で行われてもよい、もっと学びたい。選択肢を知る機会が少ない。
・進路について話すなら 100 番教室を使わず、教室一つ一つ集中して行なって欲しい
・就職、進学ともに学ぶ機会が多くある。
・特になし。
・進学についての情報提供が就職に比べてが少なすぎる。
・系選択に参考になる時間があまりにも少なかった。
・学活の時間などにもよく話してくれた。 自己参加のものが多かった。
・周知が遅い
・知らない
・就職先についての説明はよくされていると思うから，進学についてもう少し深堀してほしい.
・5 コマ目を確保してやるくらいならオンラインとかにしてほしい
・キャリアデザイナーの方の話が薄かったという意見が出ても仕方がないお話ばかりでした 卒業生のデータを活かした分析などはないのだろうかと疑問に思いました。
・よくわからない

６．不安に対する相談や助言などを行う体制について



※左から「不満足～満足」の度数１～４

上記質問への主な回答記述

・勉強で困ってる人とか多いと思うのでもっと気軽に相談できる環境を作ったほうがいいと思います

・特にない

・わからない。

・アクセス面であまりにも相談しにくい フォームでも用意して欲しい

・そんな体制があったなんて知らなかったです

・特になし。

・担任があまり頼れる存在ではない。 去年度までは優しい担任で、頼りやすかった。 これを当たり前と思ってはいけないのだろうけど、少し頼りなさすぎる。

・相談窓口はあるがそれに相談しようとは思わない

・先生との距離が遠い

・知らない

・この質問に具体性がない

７．その他（自由記述）

・がっこうで英検受けたかったです。

・学校もそうだけど寮の Wi-Fi 環境がとても整っていない。ラグすぎて先生が復習用に送ってきた授業の動画も再生できない。

・CE 科東横の工事の音がうるさい。授業中でも、関係なく大きな音を出している。大きな音だけでなく、不快な音もあり、どうしたらいいか分からない状況。

・寮に関しては理不尽なことが多く、僕たち生徒の意見は聞き流してるのに対し、親にはいい顔をしているのか本当に納得いかない学校の授業に関してはとても良いこともあるので、もう少し違うとこにも目を向けるべきだと思いました

・質問があまりに抽象的なので正確に答えることが極めて難しい。

・教科書に著者が１人しかいないような物を使用するのはやめて欲しい。 せめて図やイラストでイメージしやすいような教材の使用を検討して欲しい

・今のカリキュラムに問題がある。 低学年は異常なほど時間割がスカスカで、高学年になるほど授

業がギッチギチになる。バランスが悪い。課題などもあり学習時間を十分に確保するのが難しい。また、必要な前提知識がない状態で学習しなければならない科目が全学科にいくつかある。 すぐにでも改善して欲しい。
・4CE のカリキュラムを早急にどうにかしてほしい。エンジニアリングデザインや長野学、サイエンスラボなどが削れる。また、プレ卒研が無いことも不便に感じる。
・工学科なくせ
・正面玄関の女子トイレ以外の便座と水道水も温かくしてください。2-2 横の場合は水道 2 つ便座 2 つ、3IE1 横の場合は水道全てが冷たいです。J 科棟も水道が冷たいところがあったと記憶しています。
・特になし。
・クラスの担任の教員はやる気のあるまともな先生を選んでほしい。また、授業内容が正確ではないことを指摘できる場所が欲しい
・とにかく無駄な支出を減らし、本当に必要にしている人のもとにお金を流す意識をしてほしい
・エアコンが朝つけられないのが不満である。特に夏場は非常に暑く、対策してほしい。
・卒論発表に関しての連絡が遅すぎる
・ぜひ、windows11Pro 以外に mac と linux も校内ネットワークに接続できるようにしていただきたいです。windows11 ですと、メモリの消費量がとても多く、増設しようにも値段が高くなってしまい、とても大変です。
・選択科目と必須科目の選定を再度するべき。また、評価方法の試験 100%などの科目はなくし、課題点、平常点を 20%は確保するようにするべき。
・せめて暖房の温度をもう少しだけあげれるようにしてほしいです
・Wifi が出来れば欲しいです

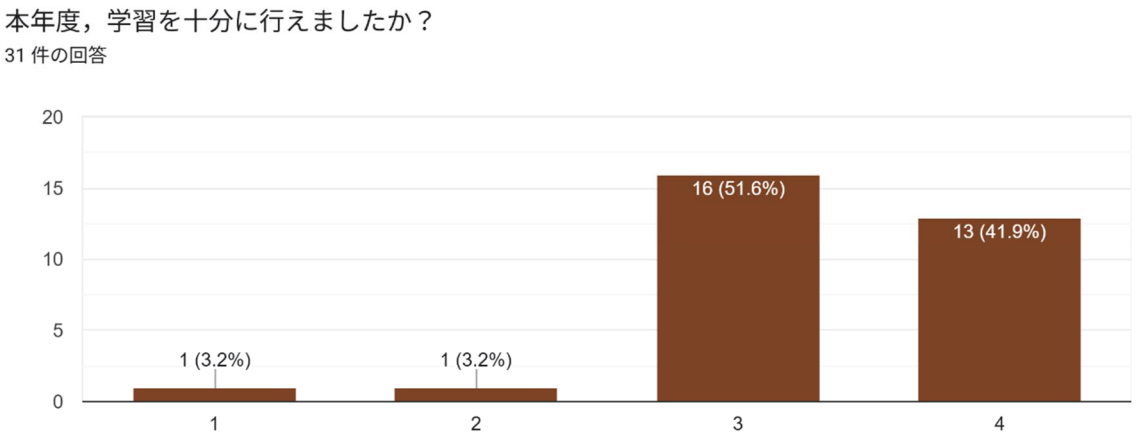
以上

専攻科アンケート

長野高専の満足度調査(2025 年度)のまとめ

＊全学生（専攻科計 54 名）に対する回答数 31 件（R8.1.23（月）～2.20（金）実施）

１．学習について

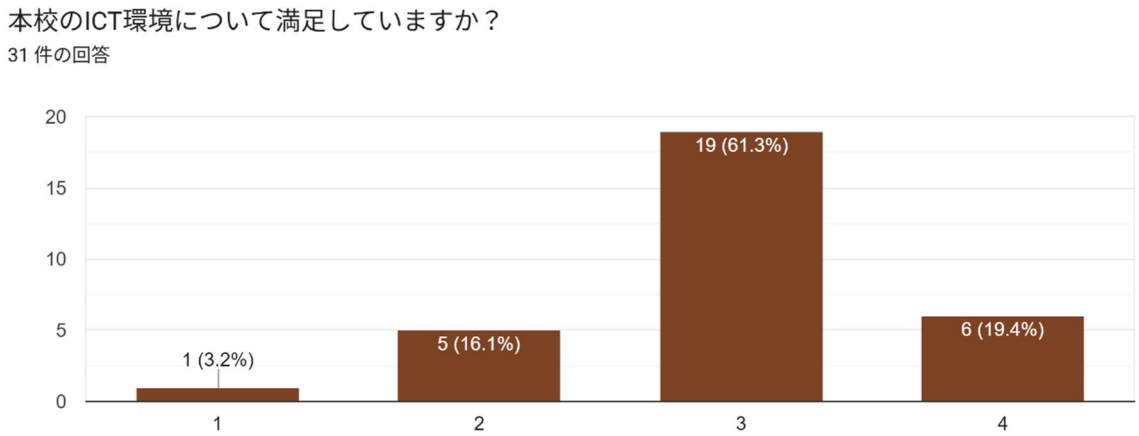


※左から「行えなかった～行えた」の度数１～４

上記質問への主な回答記述

なし

２．ICT 環境について



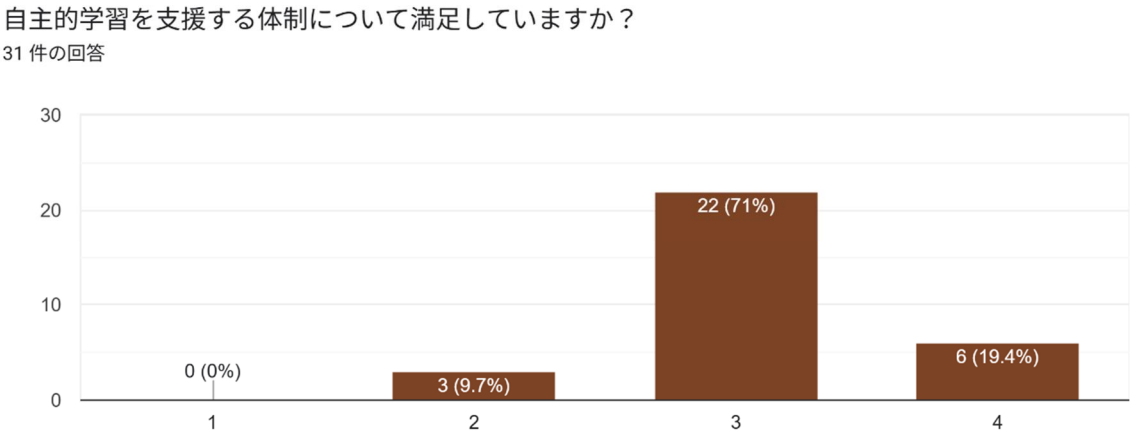
※左から「不満足～満足」の度数１～４

上記質問への主な回答記述

・インターネットが場所によってつながらない

・人が多い時間帯に wifi の通信速度がとても遅くなるので、改善してほしい

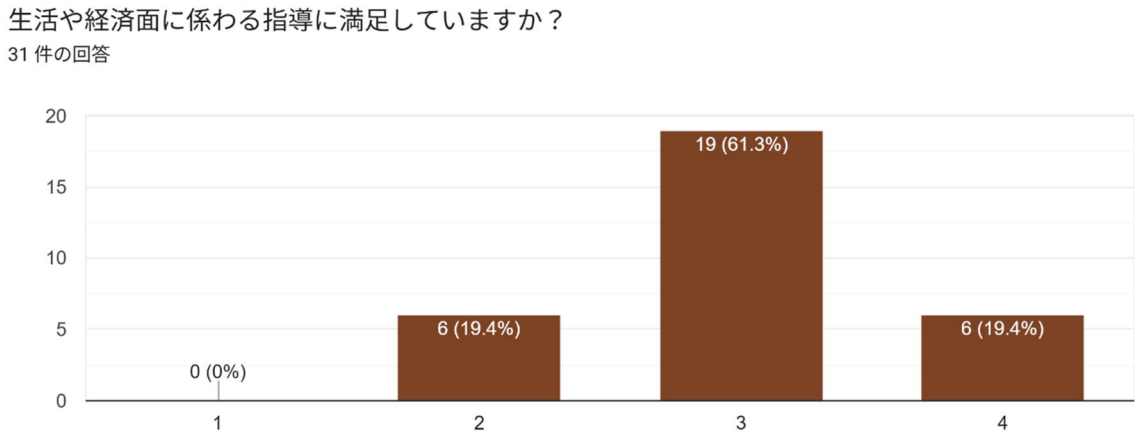
３．自主的学習の支援について



※左から「不満足～満足」の度数１～４

上記質問への主な回答記述
・図書館の開館日を増やしてほしい

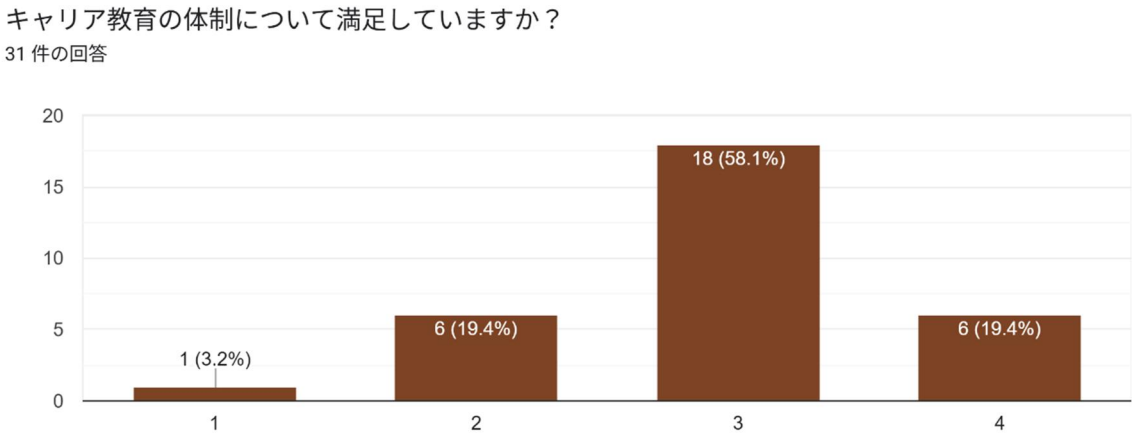
４．生活や経済面に係わる指導について



※左から「不満足～満足」の度数１～４

上記質問への主な回答記述
なし

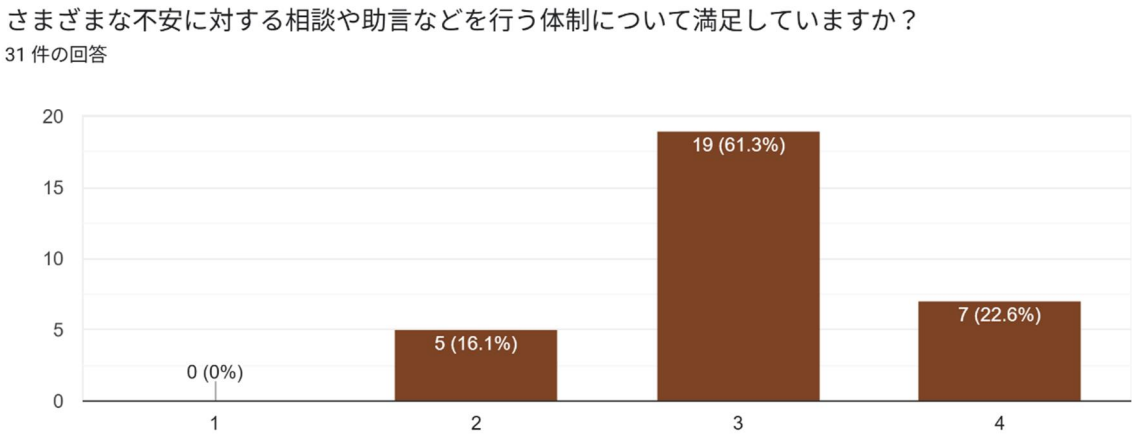
５．キャリア教育の体制について



※左から「不満足～満足」の度数１～４

上記質問への主な回答記述
なし

６．不安に対する相談や助言などを行う体制について



※左から「不満足～満足」の度数１～４

上記質問への主な回答記述
なし

７．その他（自由記述）

なし

以上

付録 5　第 22 回長野工業高等専門学校参与会概要

第 22 回長野工業高等専門学校参与会　議事概要

日　時　令和８年２月２６日（木）　１３：３０～１５：３０
場　所　長野工業高等専門学校 A201 会議室
出席者　（敬称略）
参与：香山瑞恵（会長）、丸山陽一、池田明、渡辺雅義、平林靖久、清水まさみ
本校：早瀬伸樹（校長）、渡辺誠一（副校長（教務主事））、奥村紀浩（副校長（学生主事））、酒井美月（副校長（寮務主事））、藤澤義範（副校長（専攻科長）／進路支援室長）、楡井雅巳（副校長（総務主事）／第三者評価対応委員会委員長／広報企画室長）、田中秀登（副校長（研究主事）／地域共同テクノセンター長）、元井洋一（副校長（事務部長）／技術支援部長）、春日貴志（系長（工学科情報エレクトロニクス系）／高速信号伝送評価センター長）、堀口勝三（系長（工学科機械ロボティクス系）／ソーシャルイノベーション・サポートセンター長）、浅野憲哉（系長（工学科都市デザイン系））、濵口直樹（院長（工学科リベラルアーツ教員院）／教学 IR 室長）、北山光也（学生相談室長）、中山英俊（入試広報室長）、相馬顕子（男女共同参画室長）、藤田悠（情報教育センター長）、花岡大生（技術教育センター長）、小宮山真美子（国際交流センター長）、西川嘉雄（都市デザイン系教授）、福井郁夫（総務課長）、中嶋広隆（学生課長）、金井隆英（総務課課長補佐（総務））、白木順子（総務課課長補佐（財務））、長井俊之（学生課課長補佐）、齊藤大起（総務課総務企画係長）

１．開会　総務課長
２．会長・副会長紹介　総務課長
３．自己紹介（各参与・長野高専出席者）
４．校長あいさつ

本日は参与の皆様方には、ご多用のところご参集いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃より本校の教育・学校運営に多大なるご支援を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

長野高専は、これまで約１万名の卒業生を社会に送り出してまいりました。卒業生は長野県内をはじめ、全国各地の第一線で活躍されており、本校の産学連携の促進や教育・研究にも大きな力を貸していただいております。

しかし、本校を取り巻く環境に目を向けますと、15 歳人口の減少を筆頭とする少子高齢化の進行、さらには高校の授業料無償化など、非常に大きな変化の波が押し寄せております。こうした急激な変化に対応し、かつ近年の複雑化・高度化する産業構造や技術の多様化に応えられる人材を育成するため、本校では教育内容の充実と学校運営の絶え間ない改善に取り組んでいるところでございます。

本日の議事でもご報告いたしますが、今年度、本校は学校教育法で定められた『機関別認証評価』を受審いたしました。これは少なくとも７年に一度は受審が義務付けられているもので、教育の質の保証を担保するために極めて重要な取組です。本校ではこれに加え、独自の自己点検や外部視点での点検も重視しており、この『参与会』もその重要な柱の一つと位置付けております。本日皆様から頂戴するご意見は、社会や地域のニーズを本校の教育・運営に反映させるために欠かせないものと認識しております。

また、本校は令和４年度に従来の５つの学科を１つの『工学科』へと統合・改組し、新たな体制

で教育を進めてまいりました。来年度、この改組後の1期生が5年生となる『完成年度』を迎えます。新しいカリキュラムでは、地域課題の解決を図る実践的な教育や、長野県の歴史・文化を学ぶリベラルアーツ教育などを積極的に取り入れております。さらに現在、その先を見据えた『さらなる学科改組（新系の設置)』についても検討を進めております。本日は、これらの内容についてぜひ忌憚のないご意見を賜り、これからの長野高専の運営の糧とさせていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

５．配付資料確認

６．議事

香山会長から、令和8年度の学科改組完成を見据えた重要な時期であるとの認識が示され、本会において教育研究の状況を共有し、忌憚のない意見交換を行いたい旨の挨拶があった。

以下、参与会設置要項第7条第1項の規定により香山会長が議長となり、次第に沿って議事が進行された。

１）受験者数・入試広報への取組

渡辺教務主事：　本校の現状と入試広報の取組についてご報告します。令和4年度の学科改組により、従来の5学科から定員200名の1学科（工学科）へと統合し、2年進級時に3つの系を選択する『くくり入試』を導入しました。しかし、令和5年度以降の入試倍率は減少傾向にあります。特に推薦選抜は定員120名に対し受験者が110名台と1倍を若干割る状況が続いており、学力選抜も本年度（令和8年度入試）は1.16倍まで下がっています。

この危機的状況に対し、従来の広報企画室とは別に『入試広報室』を立ち上げ、専門的な活動を強化しています。具体的には、オープンキャンパス（春・秋)、学校説明会（対面・オンライン)、県外層へのアプローチとして東京・大阪の『国公私立高専合同説明会（KOSEN FES)』への新規参加、さらに民間企業と連携した『高専模試』の学内実施、LINEを活用したSNS発信など、これまでにない攻めの広報を展開しています。

また、令和9年度入試より推薦選抜の出願要件を緩和・追加する予定です。現在は一律『評定合計36以上』としていますが、これに加えて『評定34以上かつ数・理・英の3教科合計が13以上』という、理数系に秀でた学生を拾い上げる基準を新設します。シミュレーションでは20〜30名程度の志願者増が見込まれ、専門分野に強い意欲を持つ学生の確保を期待しています。

さらに、本校としてのもう一つの大きな狙いは、学力選抜において現状から『2倍程度』の志願者を確保することにあります。倍率を2倍程度まで引き上げることで、より学力の高い上位層の学生を確保することが可能となります。そうした質の高い学生層を厚くすることで、入学後によりしっかりと専門分野の勉強に取り組んでもらえる環境を作っていきたいと考えています。

香山会長：　資料にある中学校訪問について伺います。これは学生が母校を訪問して、中学生に対して直接アピールするような場も設けられているのでしょうか？

渡辺教務主事：　実際には学生から母校訪問の希望者を募っています。授業の関係上、夏休みに元担任の先生を訪ねて資料を渡す程度に留まっており、中学生への直接の呼びかけは十分にできていないのが現状です。教員による訪問では、一部の中学校で進路講話の機会をいただき、長野高専の紹介を行っています。

香山会長：　学生が中学生に直接アプローチする効果は非常に大きいと感じます。せっかく母校を訪問するのであれば、部活動に顔を出すなど、高専の魅力をより生の声で伝えられる活動にな

ると良いですね。

渡辺参与：　長野県は製造業、観光業、農業が産業の柱であり、その中で高専は非常に重要なポイントだと思っています。先日、製造業のトップの方とお話しした際、『子供の意識は小学校５年生頃にはもう固まっている。中学生からでは遅い。小5、あるいはもっと前から長野県の製造業に関心を持たせなければならない』というお話を伺いました。現在、長野高専では入試を受ける中学３年生をメインに広報されているかと思いますが、より将来を見据えて、もっと早い段階の子供たちに『こういうことをやっているんだ、僕もあそこに行きたい』と思わせるような科学や工学に触れる取り組みについては、どのようにお考えでしょうか。

渡辺教務主事：　ありがとうございます。今回ご報告したのは『入試広報』としての取り組みですが、それとは別に本校の『広報企画室』が中心となり、『サイエンスツアー（出前授業)』という名称で活動を行っています。

これは本校の教員が地域の様々な場所に出向いて、科学イベントや工作、実験授業を行うものです。特に工作イベントなどでは、多くの場合、保護者の方も一緒に来られます。その場で親御さんとお話しする中で、『こんなものづくりをしているんですね、高専に行かせたいです』といった声を直接聞く機会も増えています。

私事ですが、私の息子の友達が、授業参観の折にわざわざ親御さんの前で『高専に行きたい』と言ってくれたことがあり、あまりの嬉しさに涙が出そうになりました。こうした『高専ファン』は小学生の間にも確実にいらっしゃいます。親子で参加してもらうことで、高専について対話する機会はさらに増えると確信しています。本校としても、今後より積極的に学外へ出向き、また学校へも来ていただく機会を設けていきたいと考えています。

平林参与：　ありがとうございます。私は一般論と、あと経営者協会という立場ですので、色々な会員企業、あるいは以前在籍していたエプソンの社長らとも話をする中での実感を申し上げます。

おそらく皆様も気がついていると思いますが、今、理系の人間が極端に減っています。小学校に上がる時点ですでに『算数嫌い』が始まり、中学では数学、高校に行ったらそのレベルの差がさらに大きく開いています。これは教育委員会の教育長とも話をしましたが、現場はもう危機的な状態だということです。特に工学系の中でも、『電子』なんて名前がつけばまず嫌われます。大学も含めて、そこに希望を出す子が極端に減っている。我々の世代のように『電気・電子は花形』だった時代とは大きく様変わりしてしまいました。

今の世の中、AI や DX と盛んに言われるようになる以前から、ある動きがあります。それは、製品を『作った』のは人間なのに、世の中はそれを『使う』楽しみしか知らない人間ばかりが増えてしまったということです。使うだけであれば理系・文系関係なく使えてしまいますから。そうなると、ものづくりを志す子供はますます減り、深刻な社会問題になっています。

そこで私が経営者協会としてずっとやりたかったことで、今、教育委員会とも個別に話を進めているのが、『地元の優れた企業を知るための繋がり作り』です。長野県には、部品を作っているものすごく優秀な会社がいっぱいあります。しかし、子供たちも親もその存在を知りません。例えばセイコーエプソンのようにコンシューマー向けの商品があれば知っていますが、ある有名な車が、実は県内のある企業の技術がなければ完成しなかったといった事実はあまり知られていない。コンシューマー（消費者）に近い部分だけでなく、もっと学校教育の場に企業が入り込み、子供たちに技術の楽しみを伝えていかなければならないと考えています。

その前提となるターゲットは、小学校・中学校です。先ほど『小５の壁』の話もありましたが、まさにその世代の子供たちに、技術の楽しみを学ばせていかなければなりません。中３だけを対象にするのではなく、高専さんも数学や理科の面白みを教える場をもっと作ってくださ

い。子供たちは能力を持っていますから、一度面白みを感じたらとことんやってくれます。教育委員会もようやく動こうという気配が出てきました。

長野高専ができた当時は、日本が右肩上がりで成長し、ものづくりが重要だということで全国に国立高専が整備されました。しかし、今は時代が大きく変わっています。改めて、長野高専という立場をゼロから作り変えるくらいの覚悟で取り組んでもらわないと、子供は減り、理系離れが進む現実に立ち向かえません。数学や理科のちょっとした面白さを、高専の先生や学生さんが子供たちに教える場があっていい。経営者協会の会員で協力できる会社があれば、いくらでも働きかけをします。高専さんともぜひ連携したい。何もしないでいるわけにはいかない、何かをやらなければならないと、非常に迷いながらも危機感を持っています。ぜひ、やれるところから取り組んでいただきたい。

渡辺教務主事：　ありがとうございます。ちょうど先ほど出前授業の話をさせていただいた中で、ものづくりなどの話は小中学生を対象にやっておりますが、理系科目全般の面白さを教えるといった発想はなかなか持てていなかったものですから、今のご意見を参考にさせていただき、少しでも興味を持っていただけるような機会を今後考えていきたいと思っております。ありがとうございました。

池田参与：　推薦入試の基準について、非常に懸念している点があります。今の基準（評定 36 以上）では、全教科満遍なく点数を取らなければならず、結果として入学してくるのは『大学編入を目指す優等生』ばかりになりませんか。

私は、多少他の教科が苦手でも『俺は将来技術屋になりたいんだ』という強い意志と尖った才能を持つ学生を採用してほしいのです。中学校で『あいつは少し変わっているけれど、数学だけは凄い』と言われるような子が、評定のハードルで足切りされてしまうのは、技術教育の場として非常にもったいない。今の入り口のハードルを下げ、目指したい人が入れる仕組みにしないと、本来高専が育てるべき『現場の技術者』が確保できません。

渡辺教務主事：　貴重なご意見ありがとうございます。推薦の追加基準（34 以上かつ数理英 13 以上）はまさにその層を拾うための第一歩ですが、実際に実施した結果を見極め、さらなる基準の見直しが必要か継続して検討してまいります。

香山会長：　15 歳人口が減る中で、これまでと同じ層を狙っていては、志願者は増えません。池田参与がおっしゃるように、違う層でキラキラ光る学生を見つけ、入学後にその能力を伸ばすという視点が必要ですね。

２）新系設置構想

渡辺教務主事：　昨年度の参与会でも検討状況を報告しましたが、現在本校では、志願者減少への対策および地域ニーズへの対応として、『物質・バイオ系』を含む『情報 70 名・機械 70 名・都市 40 名・物質バイオ 20 名』の 4 系体制とする案を検討しています。教育内容については、高専機構のモデル・コアカリキュラムを満たしつつ、長野県の強みである農業・食品分野を意識した『フードサイエンス』等の科目を開設し、さらに既存 3 系の専門知識も副専攻として学べる材料系総合学科を目指します。

ただし、『建物（ハコ）がない』という大きな課題があります。既存の化学実験室を転用し、空きスペースを教員室や卒研室に充てるなどの苦肉の策を検討中ですが、インフラ整備と予算（最大 10 億円規模の支援事業申請など）の確保が大きなハードルとなっています。

新系設置のまとめとして、まずは議論の契機である「女子志願者増」が本構想によって真に実現されるのか、原点に立ち返り検証する必要があります。また、少人数の教員で専攻科まで安定運営できるかという点に加え、専用の「建物がない」ことによる施設整備と多額の予算確

保も依然として大きなハードルです。地域に根差した独自性を追求する一方で、校内からは新系設置よりも既存3系をAI等の成長分野へ発展させるべきとの意見も根強く、現時点では意見が集約しきれていないのが正直な現状です。

香山会長：　一点、制度面で気になります。長野高専は1学科で入学し、2年進級時に系を選択する『レイト・スペシャライゼーション』を採用していますが、この仕組みだと、希望の系（例えば情報系）に成績順等で入れず、本意ではない系（例えば都市系や新設の物質系）に配属された学生のモチベーション維持が非常に難しい。実際に、入学時点で志望が固まっていない学生が4割もいる一方で、希望が通らなかった時の不安を漏らす中学生もいます。志願者が落ち込んでいる中で、新系を作ることが本当に『入り口の魅力』に直結するのか、慎重な調査が必要です。

池田参与：　将来の産業構造を考えた時、単なる「加工」だけではいずれ立ち行かなくなると危惧しています。これからは機械そのものを作るだけでなく、そこから生み出されるもの、つまり「材料」や「消耗品」をセットで考える視点が不可欠です。

例えば成形機一つとっても、どのような素材を使い、環境に配慮した素材をいかに成形するかといった課題には、化学的な知識が欠かせません。単なる加工技術だけで勝負するのではなく、日本や長野県の中でこうした材料分野の技術を確立していかなければ、製造業としての優位性を保つことは難しいでしょう。その観点から、高専が化学・材料系の知識を強化していくという方向性には非常に大きな意義があると感じています

平林参与：　産業界の感覚から言えば、『化学』は非常に重要です。今の日本の製造業の真の強みは、実は加工ではなく『材料』にあります。半導体分野でもTSMCなどが脚光を浴びていますが、あれはあくまで『加工（印刷）』の領域です。その大元となるフォトレジストなどの材料や消耗品こそが、日本が世界に対して圧倒的な優位性を保っている分野であり、その基本はすべて化学なのです。

将来の産業構造を見据えた時、単なる機械加工の技術だけではいずれ限界がきます。どのような素材で成形し、いかに環境に優しい材料を使いこなすかといった『材料の知識』は、今後のものづくりにおいて不可欠な要素となります。ですから、本校が化学・バイオ系を強化するという方向性自体は、産業界のニーズに合致しており、間違いなく正しいと言えます。

ただ、非常に懸念しているのは『専門を決めるタイミング』です。例えば東京大学のような大学でも、進学振分け（進振）に1年半もの時間をかけ、じっくりと自分の専門を見定めます。それを考えると、中学を卒業したばかりの15歳、あるいは入学後わずか1年の段階で決断させるのが本当に妥当なのかは、慎重に考えるべきでしょう。

今の日本の大手企業では、求められる基礎知識の高度化により、採用の主流が学士から修士（マスター）へとシフトしています。そんな中で高専卒業生がこれまで高く評価されてきた理由は、専門に凝り固まりすぎず、頭が柔らかいうちに培われた『応用力』や『柔軟な発想』にあります。以前在籍していたセイコーエプソンでは「高専生を最優先で採れ」と指示していたほどです。あまり早い段階で狭い専門の枠に押し込めてしまうことが、企業が求めるこうした柔軟さを損なうことにならないか。化学という分野の重要性は認めつつも、学生がその適性を見極めるプロセスについては、教育的な配慮が必要だと思います。

丸山参与：　単に「女子学生を増やしたいから新系を作る」という動機だけでこの構想を突っ走ることには、再考の余地があると感じます。

今、国や県では大きな高校改革が進んでおり、2040年までに文系と理系の比率を半々にしようという目標も掲げられています。その中で真に求められているのは、単なる数合わせではなく、社会に「理系イノベーションを起こせる人材」をいかに育てるかという視点です。

少子化により15歳人口が激減する中、実は私自身も市立高校を預かる立場として、志願倍率の低下という厳しい現実に直面しています。これはもはや学校の魅力云々以前に、母数そのものが減っているという「生き残り」の問題です。近隣にある長野高専さんと市立高校の間で、結果として「生徒の取り合い」のような形になってしまうことも、今の時代、避けられない現実として受け止めなければなりません。

中学生の圧倒的多数は、まずは普通科高校へ進み、大学進学の段階で進路を決めようと考えます。中学を卒業する段階で「技術の道で生きていく」という確固たる信念を持つ生徒は、実際にはそれほど多くありません。

だからこそ、高専が生き残るためには、県全体でどのような学びを提供し、どんな人材を輩出するのかという高い視点が必要です。本校が検討している新しい系が、中学生にとって本当に魅力的な受け皿になり得るのか、市中の中学校ともしっかりと連携し、保護者や生徒が求めている学びのニーズをまずは徹底的に吸い上げていただきたい。その上で、信州大学さんや我々教育委員会とも協力し、地域全体で理系人材を育てる体制を構築していくべきだと考えます。

清水参与：　女子学生を増やしたいというのが大前提とのことですが、実際に現在入学してきている学生や、入学を希望している中学生に対して、『化学の学科があったら勉強したいか』という具体的なアンケートは実施されているのでしょうか？ 地域のニーズが不透明なままハコや設備に予算を投じるのは、後援会の立場としても気になるところです。まずは県内の需要、例えば信大の理学部化学系などの男女比なども参考に、しっかりとした裏付けを提示していただきたい。

3）自己点検（全体）

楡井総務主事：　本校における自己点検・評価の実施状況についてご報告します。自己点検は法令等で義務付けられており、本校では3年間で全項目（全体像）を網羅できるようサイクルを組んで実施しています。お手元の資料3-2『自己点検評価表』には、令和7年度の第4四半期までの暫定結果をまとめております。本日はその中から、特に『項目8：地域連携』と『項目9：財務・管理運営・情報公開』に絞って重点的にご説明します。

まず項目8の地域連携ですが、本校の地域共同テクノセンターと『長野高専技術振興会』が連携した活動は、全国の高専の中でも非常に活発であると高い評価をいただいています。しかし課題もあります。資料4ページをご覧いただくと、テクノセミナー等の参加者数が近年減少傾向にあります。企業側からは『複数企業向けの汎用的な講座だけでなく、自社のニーズに合わせた個別の内容をやってほしい』という強い要望をいただいています。これを受け、現在は『カスタマイズ型の出前講座』を試行中であり、企業の困りごとに直接応える形への転換を図っています。

次に項目9の財務面です。本校の年間予算は約4億円規模ですが、国からの運営費交付金は毎年約3%ずつ削減されるという非常に厳しい状況が続いています。この不足分を補い、教員の研究活動を維持するためには、科研費や企業との共同研究費といった『外部資金』の獲得が不可欠です。

また、情報セキュリティについては、全教職員にe-Learningやインシデント対応訓練を毎年繰り返し義務付け、体制を担保しています。情報公開についても、researchmapの更新やSNSの活用ルール策定など、タイムリーな発信を強化しています。

池田参与：　資料にある達成率の数値（75%や100%）や、自己評価の5段階数値は、具体的にどなたが決定しているのでしょうか？

楡井総務主事：　まずは担当部署（各委員会やセンター）が一次的な自己点検を行い、数値を算出します。その後、それらの結果を『教育改善委員会』に集約し、3 月に全体像として最終的な評価を固めるというプロセスを踏んでいます。

香山会長：　冒頭に校長先生から、7 年に一度の大きな評価（機関別認証評価）があるとお聞きしましたが、この毎年の自己点検はそのための蓄積という理解でよろしいですか？

楡井総務主事：　毎年 PDCA を回して改善を積み重ねているか、そのプロセス自体が 7 年ごとの認証評価で厳しくチェックされることになります。本年度がちょうどその評価の年にあたりますので、次の議題でその結果をご報告します。

４）機関別認証評価受審報告

楡井総務主事：　本年度受審いたしました『機関別認証評価』の結果についてご報告します。この評価は、学校教育法に基づき 7 年ごとに一度受審することが義務付けられているもので、本校は独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による審査を受けました。本年度はちょうど『4 巡目』のサイクルの初年度にあたります。

まず、前回（平成 31 年受審時）の指摘事項と、それに対する本校の改善状況を整理します。前回は主に 2 つの領域で指摘を受けました。

- 領域 1（内部質保証）：自己点検の基準・項目設定が不十分である点、およびアドミッション・ポリシー（AP）において『入学者選抜の基本方針』が不明瞭であるとの指摘がありました。
- 領域 5（教育活動）：一部の科目で試験問題が数年にわたり使い回されている点や、成績評価の不透明さが指摘されました。

これに対し本校では、前議題で説明した通り、各項目を四半期ごとに点検し数値化する『自己点検システム』を構築しました。また、試験問題については、3 年間ですべての科目の類似性をチェックする体制を規則化し、組織的な改善を図ってまいりました。

こうした取り組みの結果、本年 1 月 30 日付で評価結果は『適合』との通知をいただきました。これは本校の教育・運営体制が一定の基準を満たしていると認められたものです。

今回の評価の中で、特に『優れた点』として高く評価された項目が 3 点あります。

- 地域連携：約 400 社が加盟する『長野高専技術振興会』との強力なネットワーク、およびオープンラボを通じた共同研究に学生が参画している点。
- 教育の独自性：1 年生の必修科目として導入した『ウェルネス・アウトドア』。従来の体育を進化させ、多様な学生同士のコミュニケーション構築を促す独創的な取組として評価されました。
- 国際交流：海外大学との協定に基づく活発な学生派遣。令和 6 年度には 64 名の学生が海外研修に参加した実績が評価されました。

一方で、『改善を要する点』として以下の 3 点の指摘も受けています。

- 高圧ガスの管理規程：管理規程の整備に漏れがあったこと。
- 学修単位の評価：授業時間外の自学自習分が適切に評価に反映されているかの担保。
- 成績の端数処理：科目によって端数処理の方法が統一されておらず、公平性の観点から改善が必要であること。

これらの指摘事項については、すでに 2 月までに対応を完了させているものもあり、引き続き内部質保証の強化に努めてまいります。

香山会長：　一点確認ですが、この『適合』という結果は、何段階評価の内のどの位置づけになるのでしょうか？

楡井総務主事：　この評価は段階評価ではなく、『適合』か『不適合』かの二者択一になります。

香山会長：　なるほど、安心いたしました。前回の厳しい指摘を真摯に受け止め、7 年間かけて組織的に改善してこられた結果ですね。関係された皆様のご尽力に敬意を表します。

５）いじめ対策について

奥村学生主事：　本校におけるいじめ対策の取組についてご報告します。本校では『長野工業高等専門学校いじめ防止等基本計画』を策定しており、本日の報告はこの計画を学外有識者の皆様に周知し、外部評価をいただくプロセスの一環でもあります。

本計画は『いじめ防止対策推進法』等の法令や高専機構のガイドラインに基づき、8 つの柱で構成されています。特に組織体制として、校長、副校長、学生相談室長、各系長、カウンセラー、ソーシャルワーカーなどで構成される『学校いじめ対策委員会』を設置しており、月に 1 回程度の定期開催に加え、事案発生時には臨時委員会を即座に開く体制を整えています。

未然防止の観点では、先ほど評価を受けた『ウェルネス・アウトドア』の授業が、多様な他者との共同関係づくりを学ぶ場として、体育担当教員からもいじめ防止に効果的であるとの報告を受けています。また、早期発見のために年 4 回のアンケート（記名 2 回、無記名 2 回）を実施しているほか、教職員が授業中に感じた『学生の孤立』などの違和感をグループウェアで即時共有する仕組みを運用しています。

具体的な最近の対応事例を 3 点紹介します。

① 無記名アンケートによる発見： 誰かは特定できないものの『嫌な思いをしている』との回答があった際、アンケートの実施時間からクラスと学年を絞り込み、継続的な見守り対象としました。

② ソーシャルワーカー面談からの発覚： 面談でいじめの事実が判明し、直ちに担任が事態を把握しました。加害側は『相手の振る舞いへの仕返し』として行っていましたが、いじめはいかなる理由でも許されないことを指導し、現在は解消に向かっています。

③ 授業担当からの違和感報告： 実験授業で孤立している学生を教員が発見し共有しました。調査の結果、いじめの事実は認められませんでしたが、コミュニケーションに課題がある学生であることが分かったため、丁寧な見守りを継続しています。 現在は、いじめの定義が広くなっており、些細なことでも積極的に見つけ出す方針をとっているため、報告件数自体は増加傾向にありますが、これは早期発見が機能している表れだと捉えています。

渡辺参与：　企業でいうハラスメントと同じですが、一番大事なのは被害者の保護です。本校のマニュアルを見ると、校長や多くの副校長まで情報が伝わるようになっていますが、あまりに多くの人間が知ることによる弊害はないのでしょうか？ また、このマニュアルは専門家の意見を取り入れて作成されたものですか？

早瀬校長：　本組織（いじめ対策委員会）は生徒間の事案に特化したもので、ハラスメントについてはまた別の組織（ハラスメント調査委員会など）が対応するよう切り分けています。いじめに関してはチームで組織的に対応し、最終的には校長が責任を持つ体制としています。

渡辺参与：　学生がポンと声を上げられるような、通報窓口や目安箱のようなものはあるのでしょうか？

奥村学生主事：　メールによる目安箱、担任への直接相談、そして学生相談室があります。相談室にはカウンセラーやソーシャルワーカーが常駐しており、学生が相談しやすい環境を整えています。

渡辺参与：　実態として、いじめの件数はやはり多いのでしょうか？

早瀬校長：　はい、現代的な意味での認知件数は増えています。以前は「力の強い者が弱い者を継続的に」といった条件がありましたが、現在はその定義が外れ、非常に幅広く捉えるようになりました。本校では「いじめは必ず起こるもの」という前提に立ち、まずは小さなことでも隠さず見つけ出すことを最優先としています。「いじめがあるから悪い」のではなく「早期に発見し対応する」という方針を徹底しているため、些細な違和感も組織として吸い上げられるようになり、結果として報告される数値は増加傾向にあります。

平林参与：　いじめはあって当然という前提で動くのは良いことです。ただ、一点付け加えたいのは、最近は保護者からの『カスタマーハラスメント』に近い過度な要求が教育現場で問題になっている点です。教員の個人携帯番号に朝から晩まで電話がかかってくるような事態は防がなければなりません。

企業では、代表電話一本で受け付け、組織として対応する体制が常識です。先生個人の負担にするのではなく、学校全体で教職員を守るための窓口一本化などを、教育委員会とも連携してぜひ検討していただきたい。

香山会長：　5 年間という長い期間を過ごす高専において、学生が気持ちよく学べる場を作ることは非常に重要です。事例報告からも、多角的な視点で丁寧に見守られていることが分かりました。

ありがとうございました。本日用意いたしました 5 つの資料に基づき、各担当よりご説明をさせていただきました。議事の最後となりますが、全体を通して何かご質問や、あるいは言い足りなかった点などございますでしょうか。

特にご質問、ご意見も出尽くしたようですので、以上をもちまして、第 22 回参与会の議事を終了させていただきます。円滑な進行にご協力いただき、誠にありがとうございました。

７．閉会

早瀬校長から閉会にあたり、志願者の確保や学科改組といった重要課題に対し、各界の視点から鋭い意見をいただいたことへの謝辞が述べられた。これらの忌憚のない意見を今後の学校運営や改革の方向に反映させていく決意を示すとともに、地域に愛され必要とされる学校であり続けるため、引き続きの指導と支援を賜りたい旨の挨拶があった。

付録 6　令和 7 年度教育改善委員会議事概要

令和 7 年度　第 1 回教育改善委員会　議事概要

日　時　令和 7 年 5 月 2 8 日（水）　15:00～16:00
場　所　A201 会議室

出席者　松下英次，大西浩次，古本吉倫，北山光也，百瀬成空，萩原隆義，
　　金田華実，中島隆行　の各委員
欠席者　学生課長

議　題
１．2025（令和 7）年度教育改善委員会の活動内容（案）について　　資料 No. 1
　今年度の主な活動内容等について説明があり，各項目について確認した。前年度からの変更点として「成績評価履歴・シラバス・エビデンスの 3 者が相違ないかチェック」の活動内容が新たに追加された。
　また，各委員の業務分担及び担当項目について説明があり，各担当を確認した。

２．各種点検・改善システムについて　　資料 No. 2
　各種点検・改善システムの中で教育改善委員会として行う項目について確認すると共に，前年度と同様のスケジュール及び点検システムで行う旨の説明があった。関係の申合せが改正されているため，内容等について確認していただきたい旨の依頼があった。
　また，自己点検・評価表の点検項目ついて検討し，前年度と同様の項目で実施することを確認した。

３．エビデンス収集について　　資料 No. 3 －1～5
　エビデンスの収集作業手順，チェックシートの概略等について説明があった。エビデンスの収集依頼は成績確定後に送付する。併せて，エビデンス表紙のチェックシート項目で前年度から追加した項目（・70%を超えるの類似問題になっていない（定期試験は前年度，再試は当該年度の定期試験と比較）を確認した。
　また，エビデンスの収集方法（非常勤講師のエビデンス，グループウェアの提出フォルダ名等）について意見交換を行ったが課題等もあるため，継続して検討していくこととした。

４．試験問題類似性点検について　　資料 No. 4
　昨年度に制定された試験問題類似性点検に係る申合せが改正されたため，内容等について確認していただきたい旨の依頼があった。

５．2024（令和 6）年度報告書について　　資料 No. 5
　昨年度に作成した報告書の概要について説明があり，報告書を一読していただきたい旨の依頼があった。

報　告
１．各種規則等の改正，制定について　　資料なし
　制定予定の申合せ（成績評価履歴に係る申合せ）等について報告があった。今後，委員会で行う業務（エビデンス収集，FD 研修会の開催等）に係る申合せが必要になるため，制定に向け準備していく旨の報告があった。
　また，機関別認証評価の対応状況によりメール審議で検討していく旨の連絡があった。

次回開催予定　　7 月 30 日（水）15:00～　A201 会議室

令和７年度　第２回教育改善委員会　議事概要

日　時　令和７年７月３０日（水）　15:00～16:00
場　所　A201 会議室

出席者　松下英次，大西浩次，北山光也，萩原隆義，金田華実，中島隆行の各委員
欠席者　古本吉倫，百瀬成空，学生課長

議　題

１．令和７年度 FD 計画について　　資料なし

今年度の第２回目 FD 研修会を９月 10 日（水）13:00～15:00「CBT の利活用と学業成績の向上策について」（教務委員会と教学 IR 室と共催）に開催することを了承した。今後，案内通知等で周知することを併せて確認した。

２．エビデンス収集について　　資料 No.１－1～4

・エビデンス表紙のチェックシート項目で前年度から追加した項目（・70%を超えるの類似問題になっていない（定期試験は前年度，再試は当該年度の定期試験と比較，・答案の返却・解説を実施した）を確認した。
・エビデンス収集期間を「成績入力期間＋１週間程度とする」ことを確認した。
　前期エビデンス収集期間　：8/4（月）～10/6（月）
　（参考）前期成績入力期間：8/4（月）～9/29（月）17:00
・グループウェアのエビデンス提出フォルダ名等について検討し，各系（MR、IE、CE)，LA，工学科共通科目　の提出フォルダを作成後，各教員が 科目番号・授業科目名・教員名のフォルダを作成してエビデンスを提出することとした。

提出方法の変更に伴い依頼通知等を修正する必要があるため，委員長が関係資料を整理して委員へ提示することを併せて確認した。

３．教育改善システムの実施と評価・点検について　　資料 No.２－1～4

令和５年度の報告書（学生課のキャビネットにある書類を参照する）を参考に令和６年度の報告を作成するため，資料に基づき各種報告書の作成手順・方法等について確認した。

４．試験問題類似性点検について　　資料 No.３

今年度の試験問題類似性点検の実施方法（科目の選択方法等）を各系（MR、IE、CE)，LA で検討することした。実施方法等について継続して検討していく。

報　告

１．各委員会の年度重点項目について　　資料なし

委員長から各委員会からの提出状況等について報告があった。

次回開催予定　　10 月 1 日（水）15:00～　A201 会議室

令和７年度　第３回教育改善委員会　議事概要

日　時　令和７年１０月１日（水）　15:00～16:25
場　所　A201 会議室

出席者　松下英次，西川嘉雄，大西浩次，北山光也，百瀬成空，萩原隆義，
　　金田華実，中島隆行，学生課長　の各委員
欠席者　なし

議　題
１．令和６年度授業改善システムチェック報告書について　　資料 No. 1
　９月末までに作成を依頼している報告書の提出状況について確認した。未提出の報告書が多いため，遅くとも 10 月末までに作成するよう再度依頼した。また，授業改善用チェック・提言シートは各教員へ返却することを併せて確認した。

２．令和７年度前期試験問題の保証確認について　　資料なし
　既に各委員へ依頼済であるが、再度作成について周知を図った。作成後，原本を学生課まで提出する。

４．　令和７年度エビデンス収集に係るレポートの採点評価基準について
　　資料 No. 2 －1～4
　エビデンス収集に係るレポート等での成績評価割合を 50%超とする場合，課題の採点基準等，評価指針を明確にする採点評価基準に関する事例について検討した。
　採点評価基準は模範解答に該当するため成績評価履歴の追加ではなく，レポートのエビデンスに追加することとした。後期中間達成度試験・学年末達成度試験に係るレポートから追加する。既に前期（中間・期末）達成度試験の成績評価履歴を提出済みの科目は、改めて採点評価基準を追加する必要はないが，まだ前期科目を提出していない場合は，レポートのエビデンスに採点評価基準を追加することを併せて確認した。

４．その他
・学業成績の評定が 60 点未満の科目について，再試験の実施前に試験等で再度評価は行わないことについて，現段階で規則化されていないことが確認された。

報　告
１．令和７年度 FD 計画について　　資料なし
　委員長から今年度開催した２回の FD 研修会について報告があった。第３回目の研修会を担当教員を中心に計画することを確認した。

２．エビデンス収集に係るエビデンスチェックリストについて　　資料なし
　過日，各教員へ周知したエビデンス収集の依頼文に記載があるエビデンスチェックリストのリンクが切れているため，リンクのアドレスを再度連絡する旨の報告があった。

次回開催予定　　11 月 26 日（水）15:00～　A201 会議室

令和７年度　第４回教育改善委員会　議事概要

日　時　令和７年１１月２６日（水）　15:00～16:00
場　所　A201 会議室

出席者　松下英次，西川嘉雄，大西浩次，北山光也，百瀬成空，萩原隆義，
　　金田華実，中島隆行，学生課長　の各委員
欠席者　なし

議　題
１．令和５年度教育改善システムチェック報告書の確認について　　資料 No. 1
　資料作成手順等に基づき令和５年度教育改善システムチェック報告書について確認し承認した。委員長から授業改善用チェック・提言シートを各教員へ配付するよう改めて依頼があった。報告書にある授業改善報告書の提出状況が学科により差があるため、教員への周知が必要である旨を確認した。

２．令和６年度教育改善システムチェック報告書の確認について　　資料 No.2
　各委員へ事前確認するよう依頼していた令和６年度教育改善システムチェック報告書について、資料作成手順等を基に確認し承認した。委員長から令和５年度報告書と同様、授業改善用チェック・提言シートを各教員へ配付するよう依頼があった。授業改善用チェック・提言シート様式について意見交換を行い課題等もあることから、今後、様式の改定を検討していくこととした。また、令和５年度の報告書と同様、報告書にある授業改善報告書の提出状況が学科により差があるため、教員への周知が必要である旨を確認した。

３．令和６年度試験問題類似性点検結果の確認について　　資料 No.3
　資料に基づき令和６年度試験問題類似性点検結果について各系、学科の不備等も含め確認した。

４．令和６年度成績評価履歴点検結果の確認について　　資料 No.4
　資料に基づき令和６年度成績評価履歴点検結果について各系、学科の不備等も含め確認した。

５．令和７年度前期終了科目の試験問題類似性点検結果の確認について　資料 No.5
　各委員へ事前確認するよう依頼していた令和７年度前期終了科目の試験問題類似性点検結果について確認した。委員から令和６年度と令和７年度の本試験・再試験・追試験の比較方法、点検に関する実施方法の違いに関して質問があり委員長が説明を行った。
　また、通年科目・再試験に関する報告書の扱いに関して質問があり意見交換を行った。報告書を前期と後期の２回に分けて提出するのではなく、一つの報告書に提出日を２回記載させると共に委員のチェック欄を設ける等して用紙を改定する意見を基に、様式の改定案を作成して委員会で検討していくことを確認した。

６．令和７年度前期終了科目の成績評価履歴点検結果の確認について　　資料 No.6
　各委員へ事前確認するよう依頼していた令和７年度前期終了科目の成績評価履歴点検結果について確認した。委員長から何科目かについて成績の端数処理に関して点検するよう依頼があった。

７．2025 年エビデンスのチェック状況について　　資料なし
　既に各教員へエビデンス提出後に指定のファイルへ入力するよう連絡しているが、提出後、未入力の状態となっている状況が見受けられるため、教員会議等で指定ファイルへの入力について周知が必要であることを確認した。

８．令和７年度 FD 計画について　　資料なし
　第４回目の FD 研修会担当委員から、ソーシャルイノベーション・サポートセンターと連携して１月 30 日（金）に東京高専から講師を招き計画している旨の説明があり承認した。

報　告
１．令和７年度授業改善報告書及び時間外教科指導履歴について　　資料なし
　委員長から昨年度同様、令和７年度授業改善報告書及び時間外教科指導履歴の作成を各教員へ依頼（12/19（金）締切）する旨の報告があった。

２．令和７年度委員会重点項目活動計画・報告について
　委員長から各委員会へ依頼して提出された重点項目活動計画・報告について進捗状況を確認する予定である旨の報告があった。

その他
・委員から令和７年度シラバスの変更に関して相談があった。

次回開催予定　　１月 21 日（水）15:00～　A202 会議室

令和７年度　第５回教育改善委員会　議事概要

日　時　令和８年１月２１日（水）　16:15～16:45
場　所　A202 会議室

出席者　松下英次，大西浩次，北山光也，百瀬成空，萩原隆義，金田華実，
　　中島隆行，の各委員
欠席者　西川嘉雄，学生課長

議　題
１．後期エビデンス収集等について　　資料なし
・前期と同様に後期、再試験のエビデンス収集を行うことを確認した。昨年は後期，再試験のエビデンス収集期間を分けたが，今年度は期間を一本化で実施する。
　収集期間 2/10（火）～3/17(火)

・各委員は，授業担当教員が入力したエビデンスチェックシートの提出状況を確認することを確認した。エビデンスチェックシートに関して，今年度は各教員にエビデンスチェックシートを入力していただいているが，成績評価履歴点検報告書の点検項目「成績評価に示されたエビデンスの提出」で提出状況を確認するため，エビデンスチェックの方法をまとめることはできないか，との意見を受け次年度に検討することとした。

・エビデンス収集後，後期分の成績評価履歴点検報告書、試験問題類似性点検報告書を作成することを確認した。

２．教育改善報告書の分担（案）について　　資料 No.1
令和７年度教育改善報告書を作成するに当たり各項目の担当案で行うこととした。また，報告書は４月末を目途に完成させることを確認した。

３．学生満足度調査について　　資料なし
昨年度と同様，学生の満足度調査を本科，専攻科別に行うことを確認した。
実施方法について意見交換を行い，昨年度と同様，実施期間を定め全学生向けにメールにて回答を依頼することとした。今年度は，回収率向上のため回答者のメールアドレスの情報を取得する。取得に当たり回答するグーグルフォームにメールアドレスは提出状況を把握することのみ使用する旨を記載する。

報　告
１．令和７年度 FD 計画について　　資料なし
委員長から第４回目の FD 研修会をソーシャルイノベーション・サポートセンターと連携して１月 30 日（金）に東京高専から講師を招き実施する旨の報告があった。

２．時間外教科指導履歴について
委員長から従来，各教員へエクセルファイルの様式で提出していただいた方法を，グーグルフォームを利用して次年度から実施したい旨の報告があった。次回の委員会で改めて審議を行う。

次回開催予定　　３月 23 日（月）10:00～　A201 会議室

令和７年度　第６回教育改善委員会　議事概要

日　時　令和８年３月２３日（月）　10:00～10:35
場　所　A201 会議室

出席者　松下英次，大西浩次，西川嘉雄，百瀬成空，中島隆行，の各委員
欠席者　北山光也，萩原隆義，金田華実，学生課長

議　題

１．後期エビデンス収集等について　　資料なし

・委員長から各委員は授業担当教員が入力したエビデンスチェックシートの提出状況を確認するよう改めて依頼があった。

・委員長から後期分の成績評価履歴点検報告書、試験問題類似性点検報告書を４月下旬までに作成するよう依頼があった。今回は通年科目及び後期科目の 1/3 が対象で，３年間で全科目が点検できるよう、各系・院で調整して実施することを確認した。

２．教育改善報告書について　　資料なし

前回の委員会で確認した分担に従い４月末を目途に完成させることを確認した。また，委員長から令和７年度委員会重点項目活動計画・報告の提出を各委員会へ依頼している旨の報告があった。

３．自己点検表について　　資料 No. 1

令和７年度自己点検・評価表の各点項目に対する教育改善委員会からの提言，教育改善委員会の評価項目の委員長案について確認した。委員会で確認した提言等を３月の執行会議へ報告する。

報　告

１．学生満足度調査について　　資料 No.2

事務からから１月下旬から２月中旬に実施した学生の満足度調査結果について報告があった。委員長から回答内容に個人名等が記載されているか等を３月末までに確認していただくよう依頼があった。

学生からの回答率を上げるための対応が課題のため，次年度は教務委員会等と連携して対応策を検討していくことを確認した。

次回開催予定　　令和８年５月予定